

第5節 時期不明の調査

1 概要

時期不明の遺構は掘立柱建物跡3棟、土坑24基、溝状遺構3基を確認している。大半を西区が占めており、西区では時期不明のピットも数多く確認されている。東区A・B区の土坑19～21は埋土から近世以降の可能性があるが、その他の遺構は明確ではないものの周囲の遺構状況や埋土から古墳時代以前の可能性がある。

2 掘立柱建物跡

掘立柱建物5（第176図）

東区、J16グリッド、標高71.9mの丘陵平坦部に位置する掘立柱建物跡である。桁行2間（2.7m）、梁行1間（2.3m）の東西棟と考えたが、桁行のP3、P6は規模が一回り以上小さく、柱筋もずれることから建物に伴わない可能性も残る。その場合は桁行1間、梁行1間の建物跡となろう。平面積は約6.2㎡で、方位はN-1°-Wである。柱掘方は円形を呈し、規模はP1、2、4、5が径40～50cm、深さ55～57cmで、P2、6が径30cm、深さ30～50cmとなる。柱の径は断面の柱痕跡から10～25cm前後に復元される。

出土遺物は無く、時期は特定できない。ただし、周囲に弥生時代後期と古墳時代中期の竪穴建物跡が分布していることから、どちらかの時期に帰属する掘立柱建物となる可能性がある。

掘立柱建物6（第177図）

西区I33グリッド、標高67.4mの丘陵平坦部に位置する掘立柱建物跡である。桁行2間（3.76m）、梁行1間（2.1m）の南北棟である。方位はN-50°-Wで、平面積は約7.9㎡である。柱間寸法は桁行が1.85m前後である。柱掘方は径56～80cmの円形、または楕円形を呈する。深さは25～50cm前後で、底面レベルにもばらつきがある。柱痕跡は確認できない。

出土遺物は無く、時期は特定できない。ただし、埋土の特徴や周辺の遺構検出状況からみて古墳時代以前の可能性がある。

掘立柱建物7（第178図）

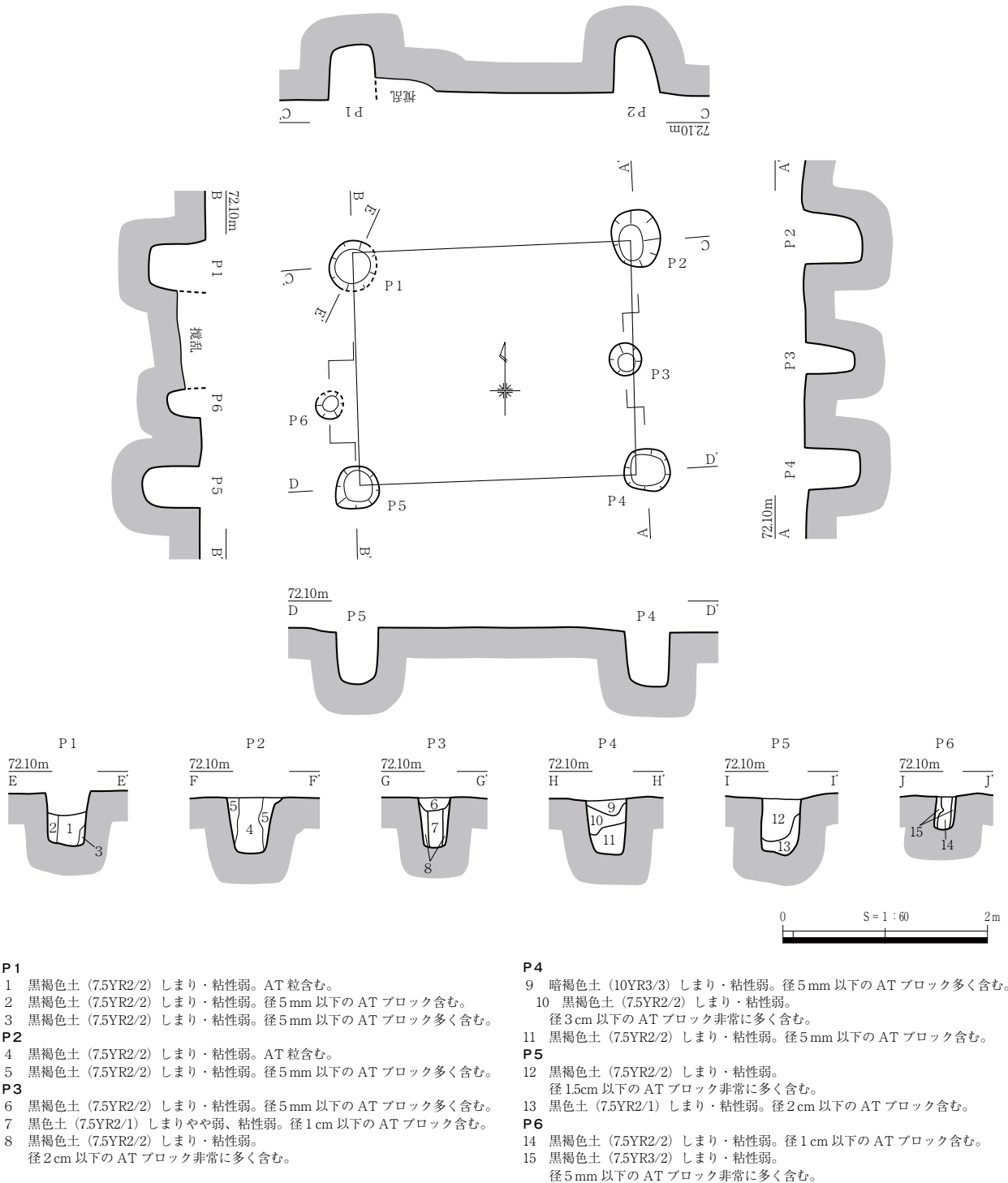
西区J32グリッド、標高67.7mの丘陵平坦部に位置する掘立柱建物跡である。桁行1間（3.54m）、梁行1間（2.7m）で、方位はN-48°-Wである。平面積は約9.6㎡を測る。柱掘方は径60cm前後の円形を呈し、深さは35～50cm前後で、底面レベルにはばらつきがある。断面観察から柱の径は20cm前後に復元され、P1は底面近くで人頭大の扁平な礫が出土しているが、礎板石等ではないであろう。

出土遺物は無く、時期は特定できない。ただし、埋土の特徴や周辺の遺構検出状況からみて古墳時代以前の建物である可能性がある。

3 土坑

土坑16（第179図）

東区A区、K2グリッド、標高67.7mの丘陵緩斜面に位置する。平面形は1.96m、短軸1.58mの楕円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは16cmと浅い。出土遺物は無く、時期や性格は不明である。



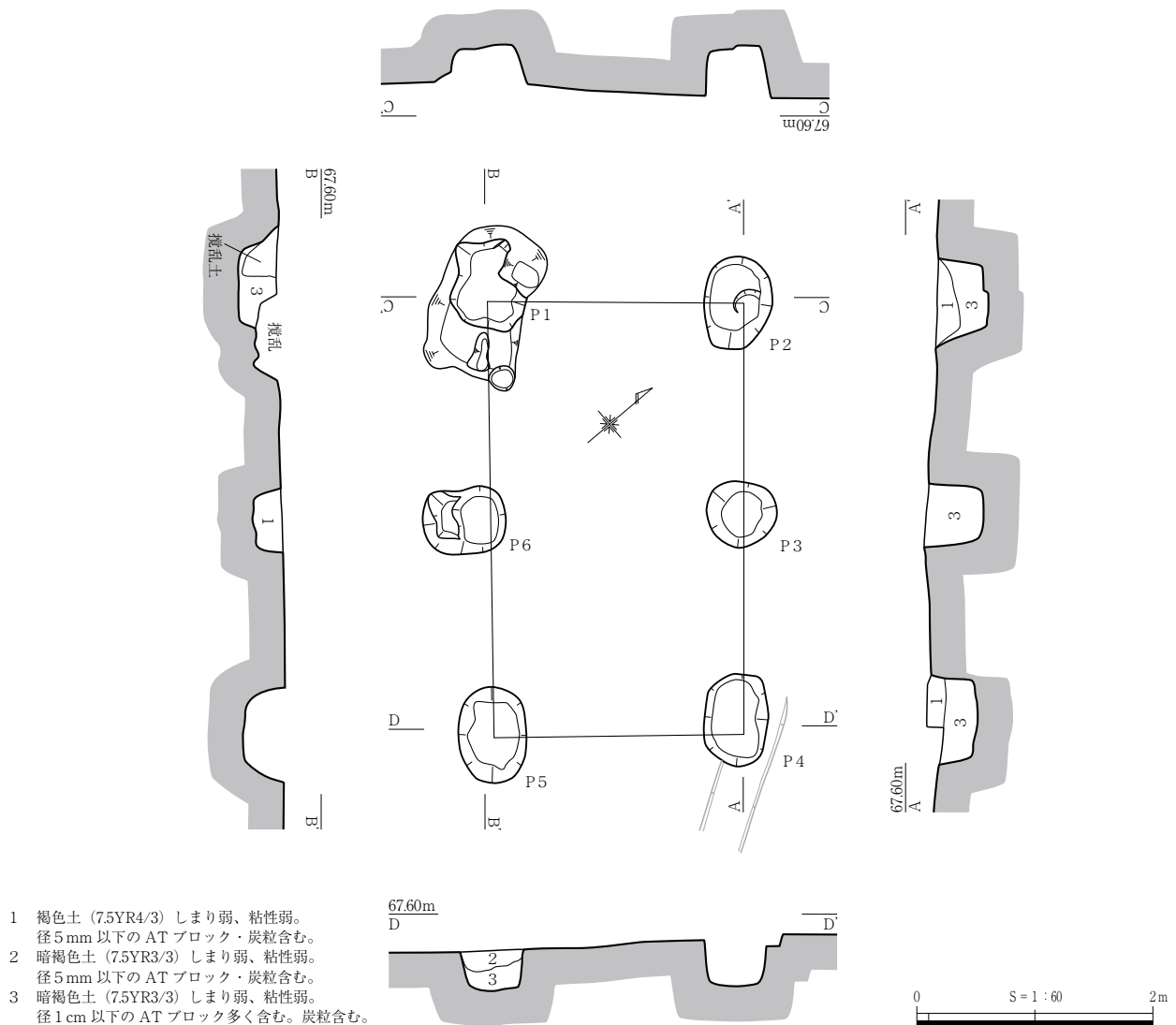
第176図 掘立柱建物5

土坑 17 (第 180 図)

東区A区、M3グリッド、標高69.9mの丘陵緩斜面に位置する。平面形は径1.0mの円形を呈する。深さは68cmを測り、壁面の立ち上がりが急で、しっかりとした掘方をもつ。埋土は黒褐色土の単層である。遺物は出土せず、時期や性格は不明である。

土坑 18 (第 181 図)

東区A区、L2グリッド、標高67.5mの丘陵尾根上に位置する。平面形は長軸1.1m、短軸0.86mの歪な楕円形を呈する。断面形は皿状を呈し、深さは7cmとごく浅い。埋土は黒褐色土で、遺物は出土



第177図 掘立柱建物6

していない。時期や性格は不明である。

土坑 19 (第 182 図)

東区B区、M5グリッド、標高67.7mの緩斜面に位置する。平面形は径1.0mの円形を呈し、深さは0.58mを測る。埋土は暗褐色土で、出土遺物は無い。埋土は土坑20、21とも酷似しており、関連する遺構群と考えられるが、時期や性格は不明である。

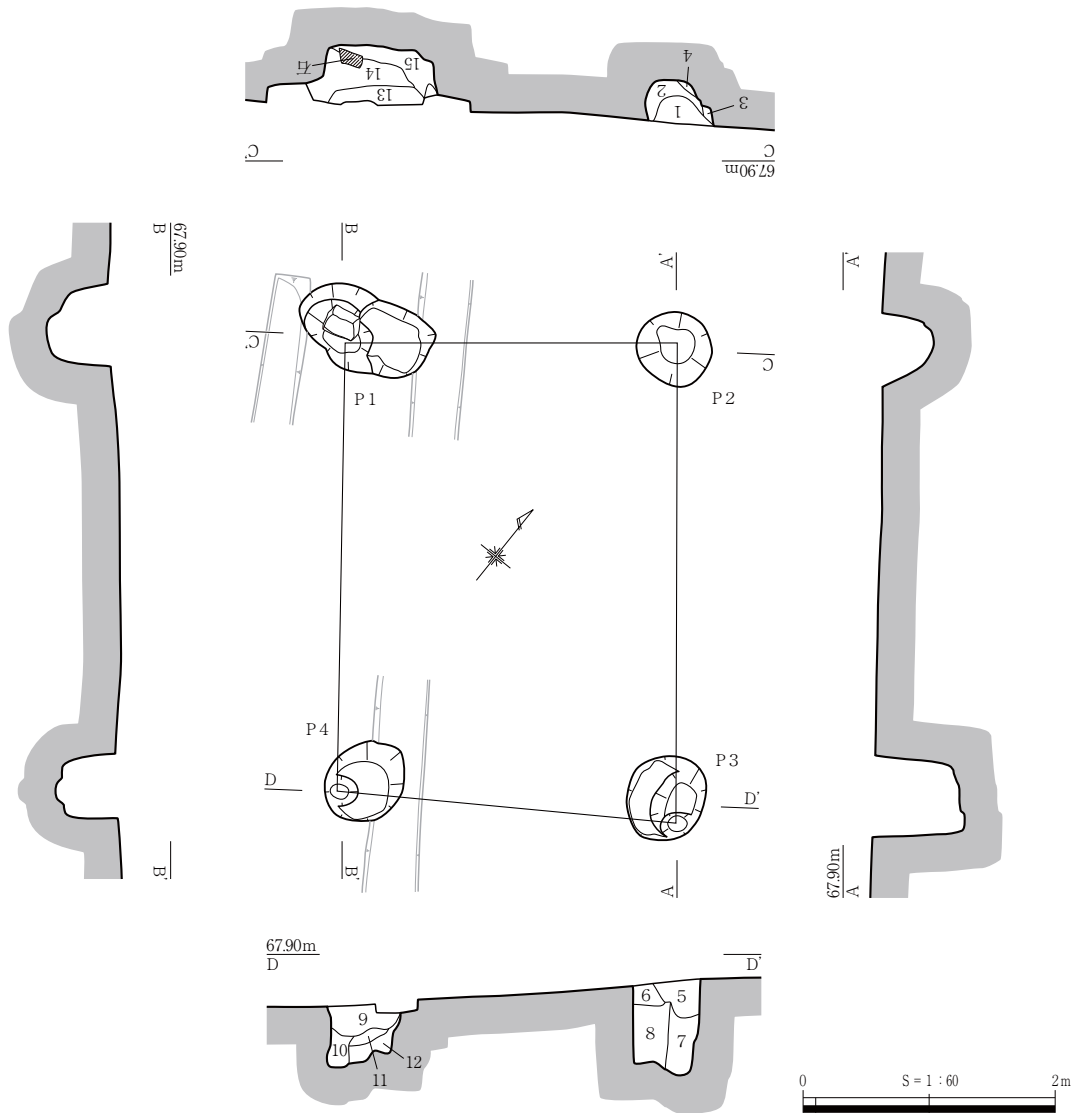
土坑 20 (第 183 図)

東区B区、M5グリッド、標高67.6mの緩斜面に位置する。平面形は径1.25mの円形を呈し、深さは0.5mを測る。断面形は皿状で、土坑19や21とは異なる。埋土は暗褐色土で、ロームの細粒を含んだしまりのない土が堆積している。出土遺物は無く、時期や性格は不明である。

土坑 21 (第 184 図)

東区B区、L4グリッド、標高68.4mの緩斜面に位置する。埋土が酷似する土坑19、20とはやや離れた位置関係にある。平面形は径1.1mの円形を呈する。断面形は逆台形を呈し、深さは0.4mを測る。埋土は黒褐色土の単層である。出土遺物は無く、時期や性格は不明である。

第3章 調査の成果



P2

- 1 暗褐色土 (7.5YR4/3) やや粘質。炭粒かに含む。
- 2 暗褐色土 (7.5YR4/3) やや粘質。ロームブロック少し含む。
- 3 にぶい橙色土 (7.5YR6/4) 炭・黒色土少し含む。
- 4 にぶい橙色粘質土 (7.5YR6/4) 炭・黒色土少し含む。

P3

- 5 灰褐色土 (7.5YR4/2) ローム粒・炭少し含む。
- 6 灰褐色土 (7.5YR4/2) ロームブロック少し含む。
- 7 暗褐色土 (7.5YR4/3) やや粘質。
- 8 暗褐色土 (7.5YR4/3) ややしまる。ロームブロック多く含む。

P4

- 9 褐色土 (7.5YR4/3) しまりやや弱、粘性弱。径5mm以下のATブロック・炭粒僅かに含む。
- 10 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり弱、粘性弱。AT粒多く含む、炭粒僅かに含む。
- 11 褐色土 (7.5YR4/4) しまりやや弱、粘性やや強。ソフトロームブロック・炭粒僅かに含む。
- 12 黒褐色 (7.5YR3/2) しまりやや弱、粘性弱。

P1

- 13 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性弱、しまり強。径2cm以下のロームを多く含む。
- 14 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘性弱、しまり中。径2cm以下のロームを多く含む。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) 粘性中、しまり弱。径2cm以下のロームを多く含む。

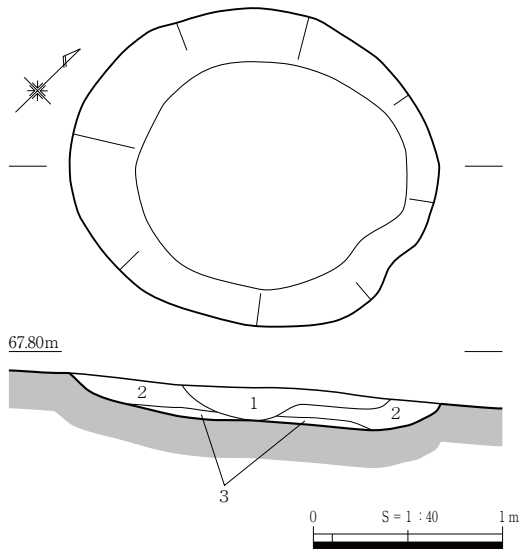
第178図 掘立柱建物7

土坑 22 (第 185 図)

西区J31グリッド、標高68.6mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸0.9m、短軸0.85mの正方形に近い隅丸方形を呈し、深さは0.2mである。埋土は暗褐色の単層で、地山由来のロームブロックを多く含んでいる。遺物は出土しておらず、遺構の性格や時期は不明である。

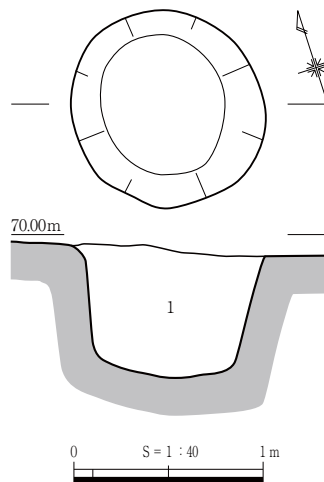
土坑 23 (第 186 図)

西区I 32グリッド、標高68.1mの丘陵平坦部に位置する。平面形は径0.75mの円形を呈し、深さは0.2mである。底面には凹凸がみられる。遺物は出土しておらず、時期や性格は不明である。



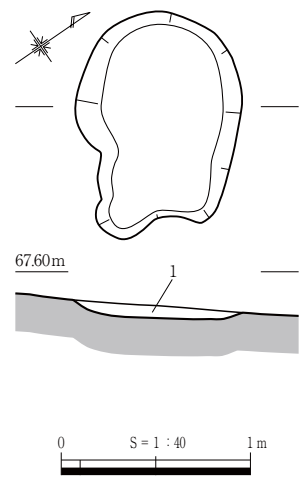
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) しまり・粘性普通。
径 0.5～1 cm のローム粒・炭粒含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) しまり・粘性普通。
径 3～5 cm のロームブロック含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) しまり・粘性普通。
径 0.5～1 cm のローム粒多く含む。

第179図 土坑16



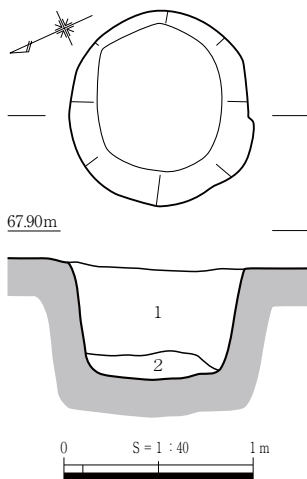
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) しまり・粘性弱。
径 0.5～2 cm のロームブロック多く含む。

第180図 土坑17



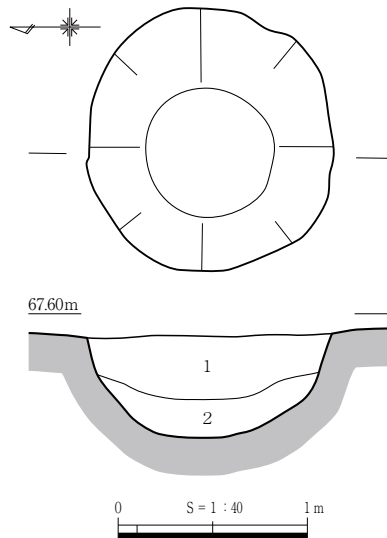
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) しまり普通、粘性やや強。
径 1～1.5 cm の炭化材、径 0.5～1 cm のローム
ブロック少し含む。底面・壁面被熱なし。

第181図 土坑18



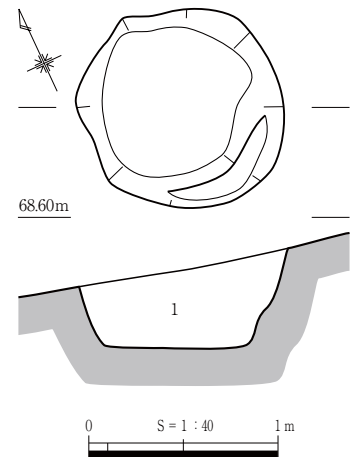
- 1 暗褐色土 (10YR3/4) しまり弱。ローム細粒・炭多く含む。
- 2 暗褐色土 (10YR2/3) しまり弱。ローム細粒多く含む。

第182図 土坑19



- 1 暗褐色土 (10YR3/4) しまり弱。ロームブロック多く含む。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) しまり弱。ロームブロック主体。

第183図 土坑20



- 1 黒褐色土 (10YR2/2) しまりやや弱、粘性強。
ソフトロームブロック少し含む。

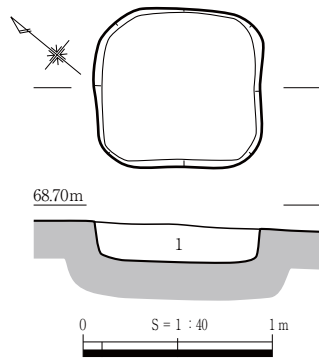
第184図 土坑21

土坑 24 (第 187 図)

西区 H31 グリッド、標高 68.9m の丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸 0.9m、短軸 0.35m の隅丸方形を呈し、深さは 0.4m を測る。埋土は褐色土を主体とする。遺物は出土しておらず、時期や性格は不明である。

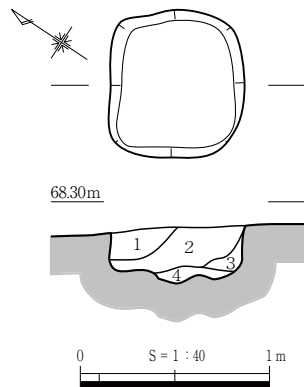
土坑 25 (第 188 図)

西区 J 33 グリッド、標高 67.2m の丘陵平坦部に位置する。本来の平面形は隅丸方形であったと考えられ、規模は長軸 1.1m、短軸 0.8m である。深さは 0.2m を測る。埋土は暗褐色土の単層である。遺物は出土せず、時期、性格とも不明である。



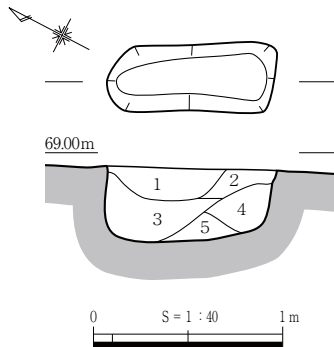
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロック含む。

第185図 土坑22



1 暗褐色土 (7.5YR3/3) ロームブロック含む。
2 黒褐色土 (7.5YR3/2) 炭含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/3) やや粘質。
4 灰褐色土 (7.5YR4/2) やや粘質。ローム粒多く含む。

第186図 土坑23



1 褐色土 (7.5YR4/3)
2 褐色土 (7.5YR4/3) 炭少し含む。
3 灰褐色土 (7.5YR4/3) 炭少し含む、ロームブロック僅かに含む。
4 灰褐色土 (7.5YR4/3) やや粘質。
5 灰褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロック多く含む。

第187図 土坑24

土坑 30 (第 194 図)

西区 I 30グリッド、標高69.4mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸1.0m、短軸0.85mのやや歪な楕円形を呈し、深さは0.13mである。底面は皿状を呈する。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

土坑 31 (第 195 図)

西区J30グリッド、標高69.6mの丘陵平坦部に位置する。平面形は、規模は長径1.3m、短径1.1mの

土坑 26 (第 189 図)

西区 I 33グリッド、標高67.3mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸1.3m、短軸0.8m隅丸方形を呈し、深さは0.4mである。底面は平坦をなす。埋土は暗褐色の単層で、埋土中にはATブロックを多く含んでいた。遺物は出土していない。規模や形態から墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

土坑 27 (第 190 図)

西区 I 33グリッド、標高67.2mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸2.2m、短軸1.3mは楕円形を呈し、深さは0.55mである。底面形は皿状を呈する。埋土は地山ロームブロックを多く含んでおり、人為的な埋め戻しが考えられる。遺物は土師器の細片が出土したが、図化しえない。

性格は墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

土坑 28 (第 191 図)

西区 I 34グリッド、標高67.0mの丘陵平坦部に位置する。単独の遺構として調査したが、最終的に方形と楕円形の2基の土坑が切り合うことを確認している。断面観察から方形の土坑、楕円形の土坑の順に形成されている。

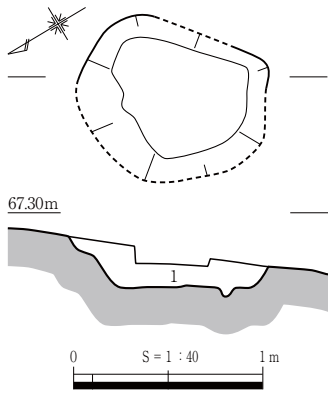
それぞれの規模は、方形土坑部分が長軸1.3m、短軸0.7m、深さ0.45mで、楕円形土坑部分が長軸2.0m、短軸1.4m、深さ0.35mである。

遺物は埋土から土師器の細片が出土したが、細片のため図化しえない。遺構の性格は墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

土坑 29 (第 192・193 図)

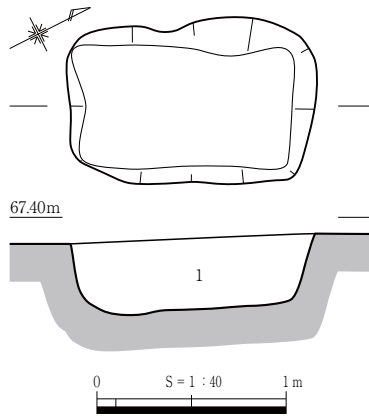
西区 J 32グリッド、標高67.5mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸1.0m、短軸0.75mの歪な楕円形を呈し、深さは0.4mである。底面形は播り鉢状である。埋土は褐色土の単層で、人為的な埋め戻しが考えられる。遺物は扁平礫が1点と黒曜石製石鏃1点が出土している。

遺構の時期や性格は不明である。



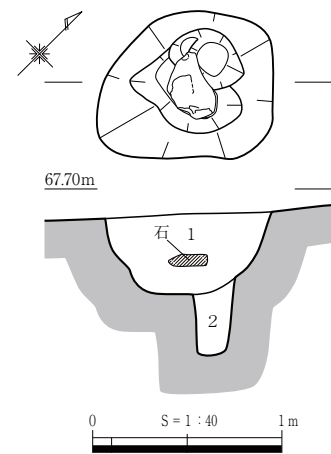
1 暗褐色土 (10YR3/4) しまり・粘性弱。
径5cm以下のロームブロック、径3mm以下の焼土粒含む。

第188図 土坑25



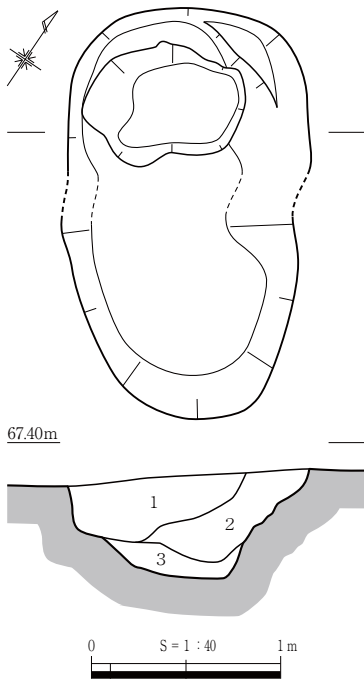
1 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり弱、粘性やや強。
径1cm以下のATブロック多く含む。

第189図 土坑26



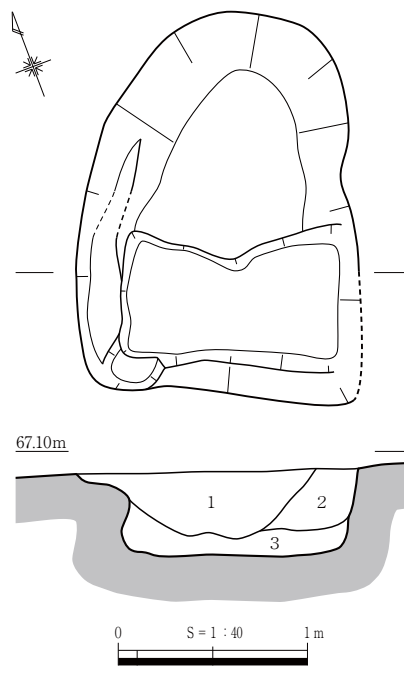
1 褐色土 (7.5YR4/4) しまりやや弱、粘性弱。
径2cm以下のAT・ソフトロームブロック含む。
2 暗褐色土 (10YR3/4) しまり弱、粘性強。
径5cm以下の黄褐色ロームブロック多く含む。

第192図 土坑29



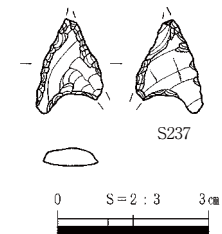
1 黄褐色土 (10YR5/6) しまりやや弱、粘性弱。
ATブロック主体。
2 暗褐色土 (10YR3/3) しまり・粘性弱。
ロームブロック含む。
3 黄褐色土 (10YR5/6) ATブロック主体。

第190図 土坑27



1 褐色土 (7.5YR4/3) しまり・粘性弱。
径1~3cmのATブロック含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり・粘性弱。
径1cm以下のATブロック多く含む。
3 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまり・粘性弱。
径1cm以下のATブロック多く含む。

第191図 土坑28



第193図 土坑29出土遺物

楕円形を呈し、深さは0.15mである。底面は細かい凹凸がみられる。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

土坑 32 (第 196 図)

西区 J 30グリッド、標高69.0mの丘陵平坦部に位置する。正確な平面形や規模は明らかでないが、

遺存する南半の形状から円形もしくは楕円形を呈する。径は1.2m前後で、深さは0.2mである。底面は皿状を呈する。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

土坑 33 (第 197 図)

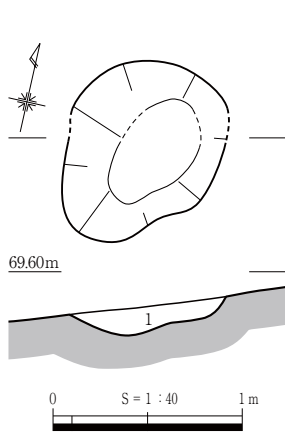
西区 K 30グリッド、標高68.9mの丘陵平坦部に位置する。正確な平面形や規模は明らかでないが、遺存する北半の形状から楕円形を呈する。規模は長軸1.0m、短軸0.7m、深さは0.4mである。断面形は掘り鉢状である。遺物も出土していない。

埋土から焼土ブロックが出土しており、炉であった可能性も考えられるが、明確ではない。

土坑 34 (第 198 図)

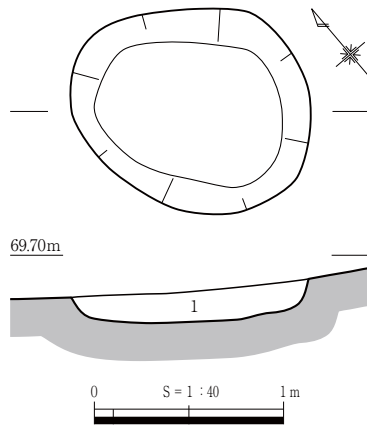
西区 J 31グリッド、標高68.8mの丘陵平坦部に位置する。平面形は1.0mの円形を呈し、深さは0.2m

第3章 調査の成果



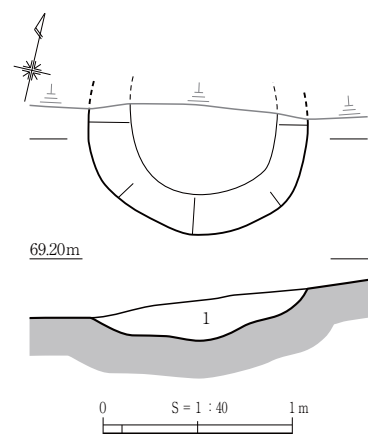
1 褐色土 (10YR4/4) しまり強、粘性弱。

第194図 土坑30



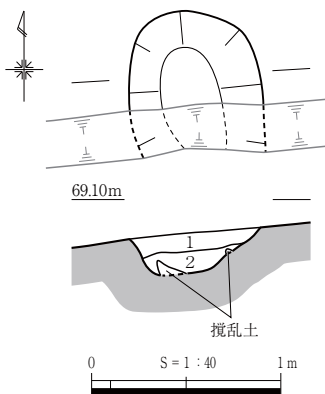
1 褐色土 (7.5YR4/3) しまり強、粘性弱。

第195図 土坑31



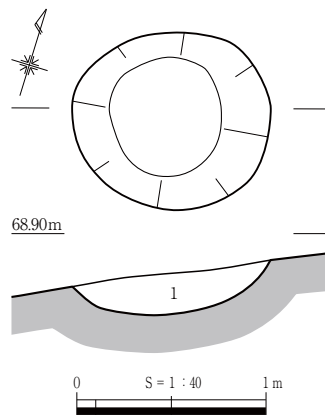
1 暗褐色土 (5YR3/6) しまり中、粘性強。

第196図 土坑32



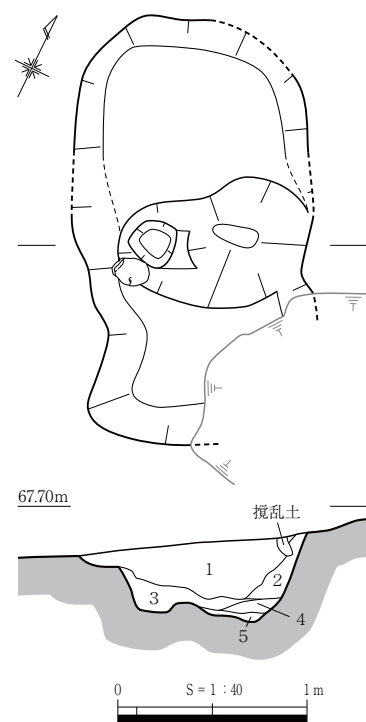
1 褐色土 (7.5YR4/3) しまり中、粘性弱。
径1cm以下の焼土ブロック多く含む。
2 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり中、粘性弱。

第197図 土坑33



1 褐色土 (7.5YR4/6) しまり強、粘性弱。
径3mm以下のローム粒僅かに含む。

第198図 土坑34



1 黒褐色土 (10YR2/2) しまり中、粘性弱。
2 黒褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性中。
径5cm以下のロームブロック多く含む。
3 黒褐色土 (10YR3/2) しまり・粘性中。
ロームブロックの含有は2層より少ない。
4 暗褐色土 (10YR3/3) しまり・粘性中。
径2cm以下のロームブロック僅かに含む。
5 褐色土 (10YR4/6) しまり・粘性中。
径3cm以下のロームブロック多く含む。

第199図 土坑35

である。埋土は褐色の単層で、底面は皿状を呈する。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

土坑 35 (第 199 図)

西区J32グリッド、標高67.6mの丘陵平坦部に位置する。南東隅を攪乱によって壊されており、遺存状況は良くない。平面形は長軸2.2m、短軸1.2mのやや歪な隅丸方形を呈する。深さは0.5mである。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

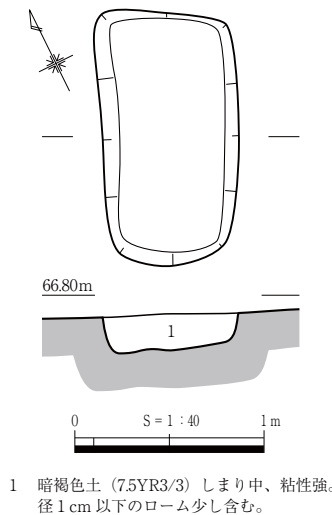
土坑 37 (第 200 図)

西区I34グリッド、標高66.7mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸1.3m、短軸0.7mの長方形を呈し、深さ0.18mである。底面は平坦である。埋土は暗褐色の単層で、円礫が1点出土している。明確な使用痕跡は認められず、その他の出土遺物もない。

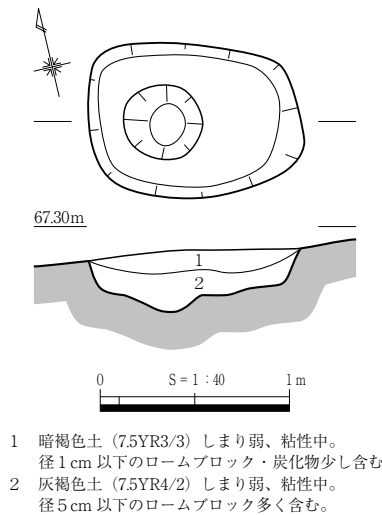
遺構の規模や形態から墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

土坑 38 (第 201 図)

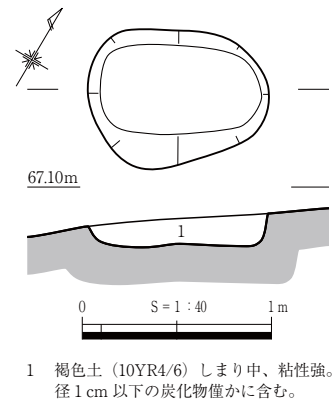
西区J32グリッド、標高67.2mの丘陵平坦部に位置する。平面形は長径1.1m、短径0.8mの楕円形を呈し、深さは0.3mである。底面は皿状を呈する。遺物は出土していない。



第200図 土坑37



第201図 土坑38



第202図 土坑39

遺構の規模や形態から墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

土坑 39 (第 202 図)

西区 I 34 グリッド、標高 67.0 m の丘陵平坦部に位置する。平面形は長軸 0.95 m、短径 0.7 m の楕円形を呈し、深さは 0.1 m である。埋土は炭化物を僅かに含む褐色の単層で、扁平な角礫が 1 点出土している。土器は出土していない。遺構の規模や形態から墓壇の可能性もあるが、明確ではない。

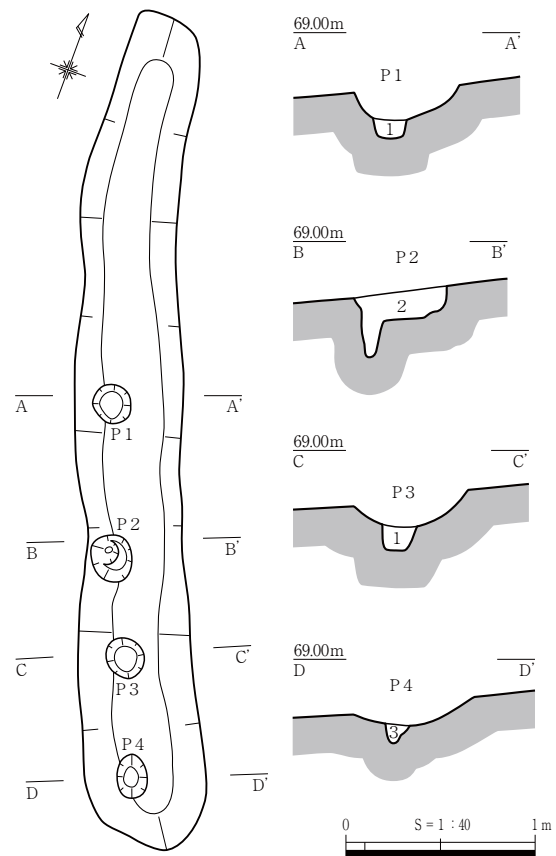
4 溝状遺構

溝 1 (第 203 図)

西区 I 31 グリッド、標高 68.8 m の丘陵平坦部に位置する。規模は長さ 4.4 m、幅 0.5 ~ 0.6 m、深さ 0.15 m である。主軸の方位は N-22° -W であるが、北端付近はやや東側に曲がっている。埋土は暗褐色の単層で、微細な炭化物や地山由来のロームブロックを少量含む。南半の底面ではピットを 4 基並んで検出された。ピットの間隔は心々で 50 ~ 80 cm である。各ピットの規模は径 10 ~ 18 cm、深さ 10 ~ 20 cm である。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

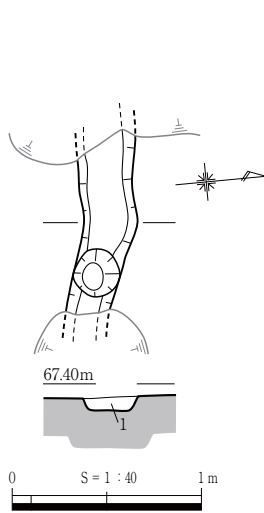
溝 2 (第 204 図)

西区 L 35 グリッド、標高 67.3 m の谷底に位置する。遺構の検出層位は谷部 V-1 層上面である。南東から北西に向かって延びる溝で、長さ 4.3 m、幅 0.7 ~ 1.3 m、深さ 0.3 m である。遺物は図化していないが、埋土から土器や石器の細片が出土している。自然流路の可能性はあるが、時期は不明である。

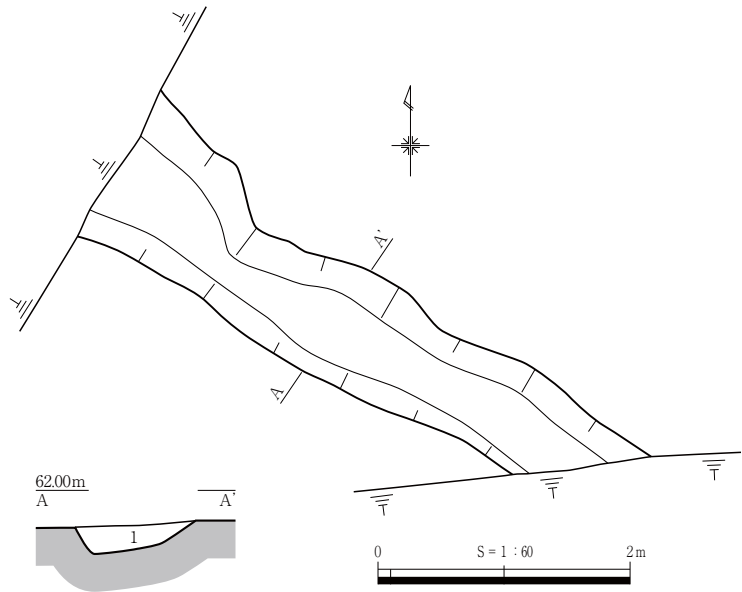


第203図 溝1

第3章 調査の成果



1 暗褐色土 (7.5YR3/3) しまり・粘性中。炭化物少し含む。



1 黒色土 (7.5YR2/1) しまり・粘性強。

第204図 溝2

第205図 溝3

溝3 (第205図)

西区J32グリッド、標高61.8mの丘陵平坦部に位置する。やや蛇行しながら東西方向に延びる溝である。掘立柱建物4と集石土坑4と重複するが、先後関係は明らかではない。規模は長さ0.9m、幅0.3m、深さ0.07mである。遺物は出土せず、遺構の時期や性格は不明である。

表8 土器観察表(1)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
1	427	掘立柱建物1 P1	第13図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 5.3△	外面: 沈線文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 明黄褐色 内面: 明黄褐色	一部スス附着。 鳥2式。
2	426	掘立柱建物1 P2	第13図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 3.1△	外面: ケズリ。 内面: ナデ。	やや密	良好	内外面: にぶい黄褐色	外面にスス附着。
3	380	掘立柱建物2 P3	第15図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△	外面: 条痕。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	
4	1719	掘立柱建物3 P6	第17図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.75△	外面: 口縁端部に接して貼付刻目突帯。 ケズリ。 内面: ナデ。	密(1mm程度の砂粒を含む。)	良好	外面: 灰黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
5	418 420 428 429 430	集石土坑1	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 21.1△ 口径: 29.4※	外面: 口縁端部に竹管文。口縁部に縦位の隆帯、隆帯上竹管文。ヘラ状工具による沈線。胴部上位条痕、下位ケズリ。 内面: 口縁部～胴部条痕、胴部下位条痕後ヘラミガキ、ヨコナデ。	密(1～2mmの長石を多く含む。)	良好	外面: 明褐色 内面: にぶい褐色	
6	406 419	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 10.61△	外面: 不定方向の条痕。 内面: 不定方向の条痕。	密(0.01～3mmの石英多く含む。)	良好	内外面: にぶい橙～褐灰色	外面に粘土つなぎ痕あり。
7	420 422 423 428 429	集石土坑1	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 16.6△	外面: 上位ナデ状調整。下位ナデ。 内面: ナデ状調整。	密(1～3mmの長石を多く含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 黄褐～黒褐色	
8	411 421 430	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 6.2△	外面: LR単節縄文。部分的にナデが施される。 内面: ナデ。	密(0.5～5mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄橙～にぶい黄褐色	
9	430	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 6.45△	外面: 口縁端部に刻目あり。口縁部に肥厚帯を形成。肥厚帯部条痕後沈線。肥厚帯下部ナデ。胴部条痕。 内面: 口縁部～胴部上位条痕後ナデ。胴部下位ハケ目状条痕。	やや粗(0.5～3mm大の砂粒を含む。5mm大の礫あり。)	良好	外面: にぶい褐～灰褐色 内面: にぶい褐～褐灰色	
10	413	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 4.9△	外面: 条痕。 内面: ナデ。	密(0.5～3mm程の長石、石英の砂粒を多量に含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 褐灰～灰褐色	
11	430	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 2.8△	外面: 平行沈線。突帯。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: にぶい黄橙～橙色 内面: 灰黄褐色	
12	415	集石土坑1 上層	第20図 PL35	縄文土器 深鉢	器高: 5.8△	外面: ナデ状調整。 内面: 口縁端部ナデ。口縁部～胴部条痕。	やや粗(1～2mm大の砂粒を多く含む。5mm大の礫を含む。)	良好	外面: 橙色 内面: 橙～明褐色	
13	390	集石土坑3	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.9△	外面: 撫糸文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい赤褐色 内面: 明赤褐色	
14	540	集石土坑3	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 1.9△	外面: 撫糸文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 橙色 内面: 灰褐色	
15	531	集石土坑3 2層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 7.1△	外面: 撫糸文。 内面: ナデ。	やや粗	良好	内外面: 褐色	
16	517	集石土坑3 2-3層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 8.0△	外面: 撫糸文。 内面: 二枚貝による条痕。	やや粗(3～4mmの礫・砂粒を多く含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 灰黄褐色	

表9 土器観察表(2)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
17	551	集石土坑3 1層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△	外面: 捺糸文。 内面: 上位ナデ。下位ケズリ後ナデ。	密(長石・雲母含 む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 明褐色	内外面にスス付 着。 粘土つなぎ痕あ り。
18	536	集石土坑3 1層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.8△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(1~3.5mmの長 石含む。)	良好	外面: にぶい赤褐色 内面: にぶい赤褐色	
19	390	集石土坑3	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.1△	外面: 捺糸文。ナデ。 内面: ナデ。	密(0.5~1mm程の 長石を数点含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
20	518	集石土坑3 3層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.8△	外面: 捺糸文後沈線。 内面: ナデ。	やや密(1~2mm程 度の砂粒を多く含 む。)	良好	外面: 褐色 内面: にぶい褐色	北白川C式。
21	551	集石土坑3 1層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 5.1△	外面: 条痕。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の 長石・石英の砂粒 を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
22	553	集石土坑3 2層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 6.4△	外面: 不定方向のケズリ後ナデ。 内面: 条痕後ナデ。	密(0.01~3mmの 長石を多く含む。雲 母含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 黒褐色	内面にスス付着 粘土つなぎ痕あ り。
23	390	集石土坑3 埋土中	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 5.8△	外面: 口縁部に肥厚帯を貼付後二枚貝条 痕。 内面: 条痕。	やや密(1~4mm程 の砂粒を多く含 む。)	良好	外面: 明赤褐色 内面: にぶい赤褐色	波子式?
24	553	集石土坑3 2層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.9△	外面: ケズリ後ナデ。 内面: 条痕。	密(0.01~1mmの長 石・雲母を多く含 む。)	良好	外面: 褐色 内面: にぶい黄褐色	
25	390	集石土坑3	第24図	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△	外面: 条痕。 内面: 条痕。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	内外面にスス付 着。
26	531	集石土坑3 2層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 4.55△	外面: 沈線文、刺突文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 赤褐色 内面: 明褐色~にぶい褐色	
27	528	集石土坑3	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 3.0△	外面: 3条の沈線。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
28	541	集石土坑3 1層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 2.2△	外面: 沈線、ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい褐色 内面: 褐色	
29	553	集石土坑3 2層	第24図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△ 底径: 8.4※	外面: ナデ。 内面: ナデ。	やや粗(1~3mm大 の砂粒を多く含 む。)	良好	外面: 橙~にぶい赤褐~ 灰褐色 内面: 灰褐色	
30	392	集石土坑4	第26図	縄文土器 深鉢	器高: 2.3△ 底径: 8.0※	外面: ナデ。 内面: ナデ、指押さえ。	やや粗	良好	内外面: 黄褐色	風化している。
31	718	集石土坑5 埋土	第28図	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 口縁部より垂下する形で貼付刻 目突帯。ナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mmの砂粒 を多く含む。)	良好	内外面: 褐色	
32	1152	集石土坑6 埋土	第30図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 6.5△	外面: RL縄文後沈線。 内面: ナデ。	密(0.1mmの長石・ 雲母・石英・砂粒 を多く含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 褐色	紡錘文(中期末 ~後期初)。 内面スス付着。
33	1143	集石土坑6 埋土	第30図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 3.8△	外面: 捺糸文。 内面: 上位ナデ。下位ケズリ。	密	良好	内外面: にぶい褐色	
34	1154	集石土坑6 埋土下層	第30図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの 石英・長石を多く 含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 灰褐色	粘土つなぎ痕あ り。
35	1748	集石土坑7 埋土	第32図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.6△	外面: ナデ。(風化、剥離あり) 内面: 不定方向のナデ。	密(0.01~0.1mmの 長石を多く含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 灰黄褐色	
36	572	落とし穴16 埋土	第50図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.0△	外面: 口縁部に刻目。口縁部突帯にC 字形の押引文。 内面: 端部LR単節縄文。以下ナデ。	密(砂粒あり)	良好	外面: 黒褐色 内面: 淡黄~黒褐色	大歳山式か。
37	320	土坑1 埋土	第61図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 縄目。 内面: ナデ。	やや密	良好	内外面: 明褐色	
38	724	土坑4 埋土	第66図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 19.9△ 口径: 41.8※	外面: 口縁部~胴部条痕。口縁部より 少し下がった位置に貼付刻目突帯。 内面: ナデ。指押さえ。	密(0.5~3mm程の 長石・石英の砂粒 を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色~明黄 褐色	内外面にスス付 着。
39	724 956	土坑4 埋土	第66図 PL39	縄文土器 深鉢	器高: 8.4△	外面: 口縁部に接して、貼付刻目突帯。 口縁部~胴部ナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mm程の砂 粒を含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色~黒褐 色 内面: 浅黄色	外面にスス付 着。
40	724	土坑4 埋土	第66図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 5.4△	外面: 口縁部に貼付突帯。口縁部~胴部 ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 明黄褐色	
41	560	土坑6 埋土	第69図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 6.5△	外面: ケズリ状擦痕。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 黒色 内面: にぶい黄褐色	外面にスス付 着。
42	1107	土坑8 埋土	第72図 PL40	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 網目状捺糸文。 内面: 条痕。	密(1.5mm以下の砂 粒を含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい黄褐色	
43	1107	土坑8 埋土	第72図	縄文土器 深鉢	器高: 4.3△	外面: 捺糸文。 内面: 条痕。	密(1.5mm以下の砂 粒を含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 灰黄褐色	
44	1107	土坑8 埋土	第72図 PL41	縄文土器 深鉢	器高: 3.8△	外面: 捺糸文。 内面: 上位ミガキ、下位ナデ。	密(3.0mm以下の砂 粒を含む。)	良好	内外面: にぶい褐色	
45	1107	土坑8 埋土	第72図	縄文土器 深鉢	器高: 2.2△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
46	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.8△	外面: 口縁部ナデ。口縁部RL単節縄文 後ナデ。 内面: 上位ナデ。下位ケズリ後ナデ。	密(1mm程の砂粒を 含む。)	良好	外面: 明褐色 内面: 黒褐色	外面にスス付 着。
47	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 3.0△	外面: 縄目。 内面: ナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 褐色	
48	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 2.8△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.5~2mm程の 長石・石英を多く 含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 褐色	
49	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 1.9△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの 長石を含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	粘土つなぎ痕あ り。
50	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 3.3△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の 長石・石英の砂粒 を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 浅黄色	
51	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 1.6△	外面: 捺糸文。 内面: 条痕。	密(0.01~0.1mmの 長石を含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
52	1716	土坑10 埋土	第75図 PL37	縄文土器 深鉢	器高: 3.9△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.5~2mm程の 長石・石英の砂粒 を多く含む。)	良好	外面: 黄褐色 内面: 浅黄色	
53	1716	土坑10 埋土	第75図	縄文土器 深鉢	器高: 3.2△	外面: 条痕。 内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの 石英・雲母・長石 を多く含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい黄褐色	

第3章 調査の成果

表10 土器観察表(3)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
54	1716	土坑10埋土	第75図 PL41	縄文土器 深鉢	器高:3.0△	外面:捺糸文(LR)。内面:ナデ。	密(0.5~1mm程の石英・長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄橙色 内面:橙色	
55	1142	土坑11埋土	第77図	縄文土器 深鉢	器高:2.9△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(20mm以下の砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
56	1327	西区ビット P52W	第82図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:3.1△	外面:上位LR単節縄文。下位ナデ。内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの石英・長石を多く含む。)	良好	内外面:にぶい褐色	
57	1105 1115	西区ビット P51W	第82図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:7.0△	外面:条痕。内面:条痕。	密(1~2mmの長石・砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄色 内面:明黄褐色	
58	1936	西区ビット P138W	第82図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.6△	外面:ナデ。内面:条痕。	密(0.01~0.2mmの長石を多く含む。)	良好	内外面:黒褐色	粘土つなぎ痕が明瞭に残る。
59	1913	K33グリッド 谷0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:2.4△	外面:口縁部上位ナデ中位沈線、下位RL単節縄文。内面:ナデ。	密	良好	外面:灰黄褐色 内面:にぶい黄橙色	
60	1125	K33グリッド 谷部V-0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:3.7△	外面:口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部~突帯上ナデ、突帯下~条痕。内面:ケズリ後ナデ。	密(1~2mm程の長石を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄橙色	
61	1915	K33グリッド 谷部V-0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:3.7△	外面:ナデ。貼付突帯。内面:ナデ。指押さえ。	密(3mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面:明黄褐~にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
62	1125	K33グリッド 谷部V-0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:2.8△	外面:口縁部に接して貼付刻目突帯。突帯下~ケズリ後ナデ。内面:ケズリ後ナデ。	密(1~3mm程の石英・長石を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:淡黄色	
63	1915	K33グリッド 谷部V-0層	第83図	縄文土器 深鉢	器高:2.2△	外面:口縁部に貼付突帯。口縁部ナデ。内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:浅黄色 内面:にぶい黄褐色	
64	1915	K33グリッド 谷部V-0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:2.0△	外面:ナデ。焼成後に外面より穿孔。内面:ナデ。	密(長石・雲母を多く含む。)	良好	内外面:淡黄色	内外面共に風化している。 内外面に赤色塗彩が僅かに残る。
65	1915	K33グリッド 谷部V-0層	第83図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高:1.8△	外面:風化により調整不明。穿孔あり。内面:ナデ。	密(0.01mmの長石を含む。)	良好	外面:にぶい橙色 内面:橙色	
66	907	K34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL40	縄文土器 深鉢	器高:4.7△	外面:口縁部RL単節縄文。口縁部RL単節縄文後ナデ。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:明黄褐色	
67	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.8△	外面:無節縄文による捺糸文。内面:ナデ。	密	良好	外面:明黄褐~暗褐色 内面:にぶい黄褐~灰黄褐色	
68	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:5.0△	外面:無節縄文による捺糸文。内面:ナデ。	密(0.5~3mm程の長石・石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:浅黄~黄灰色	
69	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:5.2△	外面:無節の捺糸文。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黒褐色	
70	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.2△	外面:条痕。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
71	921	K35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.0△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(長石・石英を多く含む。)	良好	内外面:にぶい橙色	
72	780	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:3.3△	外面:ナデ。内面:条痕。	密(0.5~2mm程の長石・石英の砂粒を多めに含む。)	良好	外面:浅黄色 内面:灰黄~にぶい黄色	
73	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:3.3△	外面:横位の沈線。縦位の押圧無節縄文。内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
74	780	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:5.1△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面:黒褐色 内面:明黄褐色	
75	981	K35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:5.9△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(1~2mmの長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄色	
76	583	L33グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 浅鉢	器高:3.7△	外面:口縁部~胴部捺糸文。口縁部ナデ。内面:ナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	
77	701	L33グリッド 谷部V-1層 南壁トレンチ	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:6.1△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(0.01mmの長石を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
78	780	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.7△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(0.5~1mm程の長石・石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:浅黄色	内面に黒斑あり。
79	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:6.3△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい赤褐色 内面:にぶい赤褐色	
80	780	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.1△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を多く含む。)	良好	内外面:橙~褐灰色	粘土つなぎ痕あり。
81	786	K34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:3.5△	外面:捺糸文。内面:ケズリ後ナデ。	密(0.5~1mm程の長石・石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面:橙色 内面:にぶい黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
82	997	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:3.3△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
83	983	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:6.4△	外面:捺糸文。内面:上位ナデ。下位条痕。	密	良好	外面:褐色 内面:にぶい橙色	外面にスス付着。
84	786	K34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.4△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	内外面:黄褐色	
85	586	L34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:5.3△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(0.2~0.5mm程の長石の砂粒を多量に含む。)	良好	外面:橙色 内面:浅黄色	
86	734	L35グリッド 谷部V-1層	第84図	縄文土器 深鉢	器高:7.6△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	やや粗	良好	外面:黄褐色 内面:明黄褐色	
87	1750	K34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:6.0△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
88	786	K34グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:4.9△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	内外面:黄褐色	
89	780	L35グリッド 谷部V-1層	第84図 PL38	縄文土器 深鉢	器高:2.4△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	密	良好	内外面:橙色	

表11 土器観察表(4)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
90	588	L33グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 6.1△	外面: 擦糸文。内面: 上位ケズリ後ナデ、指押さえ。下位ケズリ。	密(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 明黄褐色	
91	788	L34グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 5.2△	外面: 擦糸文。内面: ナデ。	密	やや良	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄灰~浅黄色	
92	921	K35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 4.4△	外面: 擦糸文。内面: ケズリ後ナデ。	やや密	やや良	内外面: にぶい黄褐色	
93	937	K34グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 5.0△	外面: 擦糸文。内面: ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	
94	945	K34グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢底部	器高: 2.1△ 底径: 6.6※	外面: 擦糸文。底面外縁ケズリ、内部ナデ。内面: ヨコナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を多く含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 橙色	
95	973	L35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 3.0△	外面: 擦糸文後工具によるナデ。内面: 口縁端部強い工具によるナデ。以下ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石・石英を多く含む。雲母を含む。)	良好	外面: 明赤褐~にぶい橙色 内面: 明赤褐~褐色	粘土つなぎ痕あり。
96	587	L35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 2.55△	外面: 極細の擦糸文。内面: 上位ナデ、下位ケズリ。	密	良好	内外面: 明黄褐色	
97	786	K34グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 3.4△	外面: 極細の擦糸文。内面: ナデ。	密(1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
98	903 908 973 1105	K35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 12.0△ 口径: 31.5※	外面: 不定方向の条痕。内面: 条痕。	密(0.01~0.3mmの長石を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色・褐色	内面にスス附着。
99	947 1397	K35グリッド谷部V-1層 谷部V-2層	第84図PL41	縄文土器深鉢	器高: 5.4△	外面: 下から上へのヘラケズリ後条痕。口縁部、胴部の一部ナデ。内面: 不定方向の条痕。	密(4mm以下の微砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐~黒色 内面: にぶい黄褐色	スス附着。
100	780	L35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 4.5△	外面: 条痕。内面: 条痕。	密(0.5~3mm程の長石の砂粒を多量に含む。)	良好	内外面: 黄灰~黄褐色	
101	921	K35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 3.15△	外面: ケズリ。内面: 条痕。	密(1mm程度の長石と石英を含む。)	良好	内外面: にぶい黄色	
102	587 974 1166	L33グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 7.2△	外面: 条痕後ナデ。内面: 条痕後一部ナデ。	密	良好	外面: 黒色 内面: 暗灰黄色	
103	1137	K32グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 7.0△	外面: 擦糸文。内面: 条痕。	密	良好	内外面: 明黄褐色	
104	780	L35グリッド谷部V-1層	第84図PL38	縄文土器深鉢	器高: 5.7△	外面: 条痕後ナデ。内面: ナデ。	密(0.01~0.2mmの長石・砂粒を多く含む。)	良好	外面: 褐色 内面: 浅黄色	粘土つなぎ痕あり。
105	939	K35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 8.2△	外面: RL単節縄文。隆帯間ナデ。内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の石英・長石の砂粒を多く含む。)	良好	外面: 浅黄~暗灰黄色 内面: 淡黄色	
106	586	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.7△	外面: 口縁部上位LR単節縄文、下位条痕。後沈線。内面: ナデ。	やや粗(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	内外面: 明褐色土	北白川C式。
107	587	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 5.3△	外面: 沈線後ナデ、その後LR単節縄文。内面: ナデ。	密(1~4mmの砂粒を含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	外面スス附着。
108	907	K34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.9△	外面: RL単節縄文後ナデ、沈線。内面: ナデ。	密(1~2mmの砂粒を僅かに含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい黄色・黒褐色	
109	983	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 4.0△	外面: LR単節縄文(磨消縄文)。沈線、ナデ。内面: ナデ。屈曲部ケズリ。	やや密	良好	内外面: 明褐色	
110	587	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 4.1△	外面: 沈線後ナデ。内面: 条痕。	密(0.3~8.5mmの砂礫を含む。)	良好	外面: にぶい褐~灰褐色 内面: 赤褐色	
111	1563	K33グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.1△	外面: ナデ。焼成後穿孔。内面: 条痕。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい褐色 内面: 橙色	
112	939	K35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.5△	外面: 沈線。内面: ナデ。	密(3mm以下の石英を含む。1~2mm大の長石を含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	内面にスス附着。
113	1576	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 2.3△	外面: 口縁端部縄文。口縁部1条の沈線。縄文後刺突。内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
114	934	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 2.0△	外面: 口縁部ナデ後口縁部上位刺突、下位沈線。内面: ナデ。	密(2~4mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄色 内面: 暗灰黄色	
115	957	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.9△	外面: 口縁端部刻目。口縁部隆帯、沈線、刺突。内面: 条痕後ナデ。	密(1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: 明黄褐色 内面: 黄灰色	
116	973	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 5.9△	外面: 口縁端部刻目。口縁部隆帯部沈線、刺突。内面: 口縁部上位ナデ。下位ケズリ。	密	良好	外面: にぶい黄橙~オリーブ黒色	
117	962	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 2.0△	外面: ケズリ後ナデ。沈線。内面: ナデ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	外面: 明褐色 内面: 明褐~にぶい黄褐色	
118	774	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器壺	器高: 7.1△	外面: LR単節縄文後ナデ、沈線。口縁部に2条の沈線。内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐~黒褐色	
119	971	K36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.7△	外面: RL単節縄文による磨消縄文。内面: 指押さえ後ケズリ。所々ミガキが見られる。	密(1~2mmの砂粒を含む。)	良好	内外面: 黄褐色	福田KⅡ式(古)内面にスス附着。
120	1581	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器浅鉢	器高: 4.5△	外面: 口縁端部RL単節縄文。口縁部LR単節縄文による磨消縄文。内面: ナデ。指押さえ。	密	良好	外面: 浅黄色 内面: にぶい黄褐色	福田KⅡ式(古)。
121	983	L35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.9△	外面: RL単節縄文。沈線。ナデ。内面: ケズリ後ナデ。	密(1~3mm程の石英を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色 内面: 浅黄褐色	
122	786	K34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 4.6△	外面: RL単節縄文による磨消縄文。内面: ケズリ。	密(1~4mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 黄褐色	福田KⅡ式(古)。
123	788	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.9△	外面: RL単節縄文による磨消縄文。内面: ナデ。	密(3.0mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面: 明黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
124	994	K34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 2.3△	外面: 凹線文。内面: ナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面: 浅黄色 内面: にぶい黄色	
125	971	K36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 3.8△	外面: 凹線文。内面: ミガキ	密	良好	外面: にぶい黄橙~褐色 内面: 褐色	
126	947	K35グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高: 6.4△	外面: 沈線文。内面: ナデ。	密	良好	内外面: にぶい黄褐色	晩期前半。

第3章 調査の成果

表12 土器観察表(5)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
127	778	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:4.5△	外面:ナデ。ヘラによる刺突。内面:ナデ。上位ナデ後条痕。	密(1~4mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい褐色・にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色・黒	
128	1135	K32グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:3.7△	外面:口縁端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部上位ナデ。口縁部下位ヘラケズリ。内面:ナデ。	密(5mm程度の礫あり)	良好	内外面:淡黄色	内外面にスス付着。
129	970	J36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:4.0△	外面:口縁端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。突帯下~ナデ。内面:ナデ。	密(1~2mm程の砂粒を含む。)	良好	外面:橙色 内面:明黄褐~橙色	
130	712	L33グリッド谷部V-1層南壁トレンチ	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:2.1△	外面:口縁端部にほぼ接して貼付刻目突帯。ナデ。内面:ナデ。	密(1mm程の石英を僅かに含む。)	良好	外面:浅黄褐色 内面:明黄褐色	
131	786	K34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:2.2△	外面:口縁端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。ナデ。内面:ナデ。	密(石英・砂粒を含む。)	良好	内外面:黄褐色	
132	956	K36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:5.0△	外面:口縁端部に接して貼付刻目突帯。ナデ。内面:条痕後ナデ。	密(1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
133	960	K36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:3.6△	外面:口縁端部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。条痕。内面:条痕。	密	良好	外面:にぶい褐色 内面:にぶい橙色	
134	701	L33グリッド谷部V-1層南壁トレンチ	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:2.4△	外面:口縁端部にほぼ接して貼付刻目突帯。ナデ。内面:ナデ。	密(1mm程の長石・石英を僅かに含む。)	やや良	内外面:淡黄色	
135	960	K36グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:2.2△	外面:ナデ。口縁端部に接して貼付突帯。内面:ナデ。	密(1~3mmの石英を僅かに含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
136	934	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:2.0△	外面:刺突。沈線。内面:ナデ。	密(長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黄褐色	
137	778	L34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:6.8△	外面:ナデ。刺突か。内面:ケズリ後ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黄褐色	
138	911	K33グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:4.3△	外面:条痕後一部ナデ。内面:条痕後一部ナデ。	密(2mm程の砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
139	1563	K33グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:6.1△	外面:条痕。内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:黄灰色 内面:にぶい黄褐色	
140	907	K34グリッド谷部V-1層	第85図PL39	縄文土器深鉢	器高:4.6△	外面:条痕。内面:条痕。	密(3mm程の長石、1.5mm程の石英の砂粒をやや多めに含む。)	良好	外面:にぶい橙色 内面:橙~黄褐色	
141	938	K35グリッド谷部V-1層	第85図PL45-1	縄文土器深鉢	器高:1.3△ 底径:7.3※	外面:捺糸文。底部回転ヘラ切り痕。内面:ナデ。指押さえ。	密(微砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
142	1364	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:2.1△	外面:沈線。刺突文。内面:条痕。	密(石英、雲母を僅かに含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
143	1946	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:4.7△	外面:LR単節縄文。内面:ケズリ後ナデ。	やや密	良好	内外面:褐色	
144	1903	L33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:5.3△	外面:LR単節縄文。内面:ハケ目後ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:褐灰色	内面にスス付着。
145	1781	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:3.9△	外面:LR単節縄文。内面:ナデ。指押さえ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面:赤褐色 内面:暗赤褐色	
146	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:4.9△	外面:捺糸文。内面:ナデ。	やや密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
147	1183	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL42	縄文土器深鉢	器高:5.8△	外面:波状口縁部に隆帯。口縁部捺糸文後沈線。内面:ナデ。	密(1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面:灰黄色 内面:浅黄色	赤色塗彩の痕跡あり。
148	1189	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:6.0△	外面:波状口縁部に縦位の隆帯。沈線。内面:ナデ。	密(4mmの礫、1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面:浅黄色	船元式。
149	1761	K33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:3.8△	外面:捺糸文後沈線。内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石、石英を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
150	1182	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:6.9△	外面:上位縄目、沈線。下位ハケ目。内面:ハケ目後ナデ。	密(1~3mmの石英、長石を多く含む。)	良好	外面:褐色 内面:にぶい黄褐色	
151	1796	L33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:2.3△	外面:端部ナデ、以下捺糸文。内面:ナデ。	密(砂粒、長石あり)	良好	内外面:黒褐色	
152	1779	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:2.2△	外面:捺糸文。刺突。内面:ナデ。	密(2mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい褐色 内面:にぶい黄褐色	
153	1781	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:4.4△	外面:捺糸文後ミガキ、その後沈線、刺突文。内面:ケズリ後ミガキ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	黒斑あり。
154	1905	L35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:3.9△	外面:捺糸文幅広い突帯。内面:ナデ。	密	良好	外面:灰黄褐色 内面:褐色	口縁部付近の破片。
155	1799	L33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:8.5△	外面:捺糸文。内面:ケズリ、条痕。	密(1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
156	1374	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:8.5△	外面:捺糸文。内面:ケズリ後ナデ。	密(1~3mmの砂粒を多量に含む。)	良好	内外面:黄褐色	
157	1505	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:3.9△	外面:捺糸文。内面:条痕後ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい褐色	
158	1387	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:5.45△	外面:口縁部条痕。胴部捺糸文。内面:ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
159	1392	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:6.5△	外面:捺糸文。内面:ヨコナデ、指押さえ。	密(1mm以下の石英、長石、繊維を含む。)	良好	外面:褐灰色 内面:にぶい黄橙~褐灰色	早期。
160	1193	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:5.4△	外面:捺糸文。内面:ナデ。指押さえ。	密(1~2mm程の長石を多く含む。)	良好	外面:灰黄褐~にぶい褐色 内面:にぶい橙~にぶい褐色	縄巻捺糸文か?粘土つなぎの箇所?で割れ。
161	1503	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:4.0△	外面:捺糸文。内面:条痕。	密(微砂粒、繊維を含む。)	良好	外面:明黄褐色 内面:灰黄褐色	
162	1182	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:2.8△	外面:捺糸文。口縁端部にも捺糸文あり。内面:ハケ目後ナデ。	密(1mm程の長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
163	1369	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高:2.2△	外面:捺糸文。内面:ケズリ後ナデ。	密(1~2mmの長石を多く含む。)	良好	外面:褐色 内面:明褐色	

表13 土器観察表(6)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
164	1948	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：2.5△	外面：燃糸文。内面：ナデ。指押さえ。	密(0.01～0.1mmの長石を多く含む。)	良好	外面：明赤褐～にぶい褐～褐灰色 内面：明赤褐～灰褐色	
165	1182	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.7△	外面：燃糸文。内面：ケズリ。	密	良好	外面：暗褐色 内面：灰黄褐色	スス附着 内面に粘土つなぎ痕。
166	1901	L33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.7△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.5～2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
167	1189	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：2.8△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(砂粒を含む。)	良好	外面：暗灰黄色 内面：浅黄色	
168	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：4.4△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.5～1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面：褐色 内面：にぶい黄橙～褐灰色	
169	1193	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：6.0△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(1mm程の長石を多く含む。)	良好	外面：灰黄褐～にぶい橙色 内面：橙～オリーブ黒色	
170	1772	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.2△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(1～3mmの長石を多く含む。)	良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい褐色	
171	1311	L35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：4.0△	外面：燃糸文。一部ナデ。内面：ハケ目後ナデ。	密(0.01～0.2mmの長石を多く含む。)	良好	外面：褐灰～明赤褐色 内面：褐灰～明黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
172	1183	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.1△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.01～0.3mmの石英を多く含む。)	良好	外面：褐色 内面：灰黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
173	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.2△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.5～1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
174	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.8△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面：にぶい黄褐～灰黄褐色 内面：にぶい褐～黒褐色	
175	1772	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：2.9△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(3.0mm以下の砂粒を含む。)	良好	内外面：黄褐色	
176	1771 1775	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：4.0△	外面：口縁部刻目。燃糸文。内面：ヨコナデ。	密(0.01～0.1mmの石英、雲母を含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
177	1779	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.1△	外面：燃糸文。口縁部にも燃糸文。内面：ナデ。	密(0.01mmの長石多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐～黒褐色 内面：灰黄褐色	
178	1756	K33グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：3.2△	外面：燃糸文。口縁部ナデ。内面：横方向のナデ。	密	良好	内外面：橙色	
179	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：4.5△	外面：口縁部ナデ。燃糸文。内面：ケズリ後ナデ。	やや密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
180	1927	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：4.2△	外面：燃糸文後一部ナデ。内面：ナデ。粘土帯のつなぎ目が隆起。	密(1mm程の長石を多く含む。)	良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄褐色、褐灰色	
181	1397	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：6.0△	外面：条痕。内面：ナデ。	密(3.5mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面：明褐～灰褐色 内面：赤褐～褐色	
182	555	J30グリッド谷部V-2層	第88図PL40	縄文土器深鉢	器高：2.5△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.01mmの長石、砂粒を多く含む。)	良好	外面：にぶい褐色 内面：明赤褐色	風化が著しい。
183	1199	L35グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：2.3△	外面：沈線、燃糸文。内面：ナデ。	密(0.01～0.1mmの長石を含む。)	良好	外面：にぶい橙～橙色 内面：にぶい褐色	内面に粘土つなぎ痕あり。
184	1381	K31グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：4.9△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(4.5mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面：明赤褐～にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙～明赤褐色	
185	1761	K33グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：6.3△	外面：燃糸文。内面：ケズリ後ナデ。	密(1～3mmの長石を多く含む。)	良好	外面：にぶい褐色 内面：灰色	
186	1921	K33グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：5.2△	外面：燃糸文。内面：ケズリ後ナデ。	やや密(1～2mmの長石を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：褐色	
187	1503	K35グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：5.0△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	内外面：明黄褐～褐灰色	
188	1315	L35グリッド谷2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：4.1△	外面：燃糸文。内面：条痕。指押さえ。	密(0.01mmの石英を多く含む。)	良好	外面：褐色 内面：にぶい黄褐～黒褐色	粘土つなぎ痕あり。
189	1772	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：4.4△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
190	1390	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：9.5△	外面：燃糸文後ナデ。内面：ケズリ後ナデ。	密(0.5～4mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面：明赤褐色	
191	1905	L35グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：6.0△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密(0.01mmの砂粒を多く含む。雲母を含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
192	1368	K34グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：5.2△	外面：燃糸文。内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：褐灰～灰黄褐色	
193	1189	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：3.6△	外面：燃糸文後沈線。内面：ナデ。	密(1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面：にぶい黄褐～灰黄褐色 内面：黒褐色	
194	1189	L34グリッド谷部V-2層	第88図PL41	縄文土器深鉢	器高：3.1△	外面：極細の燃糸文。内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐～灰黄褐色 内面：にぶい黄橙～黒褐色	
195	1769	K34グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：16.6△	外面：条痕後ナデ。内面：条痕。	密(1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色、黒褐色	
196	1319	L35グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：2.65△	外面：条痕。刺突もしくは沈線。内面：条痕。	密(3.0mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面：にぶい黄橙～灰黄褐色 内面：黄褐色	
197	1176	L34グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：3.35△	外面：口縁部沈線。口縁部横方向燃糸文。胴部縦方向細かい燃糸文。内面：口縁部条痕。一部ナデ。	密(0.01～0.1mmの長石多く含む。)	良好	外面：灰黄褐～黒褐色 内面：灰黄褐色	摩耗が著しい。
198	1364	K34グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：6.7△	外面：条痕。内面：条痕。	密(0.5～3mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面：灰黄褐色 内面：暗褐色	風化している。
199	1364	K34グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：5.65△ 口径：16.1※	外面：口縁部ナデ。口縁部条痕。内面：口縁部ナデ。口縁部条痕。	やや密(1～3mm前後の砂粒を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐～黒褐色 内面：暗褐～黒褐色	内面にスス附着。
200	1948	K35グリッド谷部V-2層	第89図PL41	縄文土器深鉢	器高：5.9△	外面：節の浅い燃糸文。内面：二枚具による条痕後ナデ。	密	良好	内外面：明黄褐色	

第3章 調査の成果

表14 土器観察表(7)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
201	1183 586	L34グリッド 谷部V-2層 L34グリッド 谷部V-1層	第89図 PL41	縄文土器 深鉢	器高:5.8△	外面:撫糸文。一部ミガキ。 内面:条痕後ナデ。	密(1mm未満の砂粒 を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色、灰 黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
202	1946	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL41	縄文土器 深鉢	器高:5.9△	外面:条痕後3条の沈線。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
203	1374	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL41	縄文土器 深鉢	器高:7.1△	外面:口縁部ナデ。口縁部かなり粗い ケズリ(右→左)。胴部かなり粗いケズリ (やや右→左上)。 内面:かなり粗いケズリ(右→左)。	やや粗	良好	内外面:にぶい黄褐色	黒斑あり
204	1364	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:9.6△	外面:条痕後沈線。その後ナデ。 内面:条痕後ナデ。	密(1mm程の長石、 石英を含む。)	良好	外面:橙-灰黄褐色 内面:橙色	
205	1787	K35グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:9.4△	外面:波状口縁部頂部に刺突文。波状口 縁部に沈線。沈線間ナデ後LR単節縄文。 口縁部下位条痕後ナデ。 内面:ナデ。	密(石英、長石を多 く含む。)	良好	内外面:明褐色	北白川C式新?
206	1189	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:10.6△	外面:条痕、沈線後ナデ。刺突。波状口 縁部側面はハケ目後沈線、刺突、後ナデ。 内面:ナデ後条痕。	やや密(長石、石英 多く含む。)	良好	内外面:明褐-褐灰色	北白川C式。
207	1182	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:8.8△	外面:沈線。刺突文。 内面:ナデ。	密(0.01~0.2mmの 砂粒、長石、雲母 を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	北白川C式。
208	1903	L33グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:9.6△	外面:LR単節縄文、沈線後ナデ。 内面:ナデ。口縁部上位に爪痕。	密(長石、石英多く 含む。)	やや 良	内外面:にぶい褐色	外面は摩耗して いる。 北白川C式。
209	1182	K35グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:7.1△	外面:波状口縁部に外面から内面へ貫通 する穿孔。沈線、縄目。 内面:ナデ。	やや粗(1~3mmの 砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色-にぶ い黄褐色	外面が摩耗して いる。
210	1183	L34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:6.4△	外面:口縁部に刺突文。沈線。蓮文あり。 内面:ナデ。	密(1~3mmの砂粒 を多く含む。)	良好	内外面:明黄褐色	外面にスス付 着。北白川C式。
211	1369	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.8△	外面:LR単節縄文磨消、後沈線、円形刺 突を施す。 内面:ナデ。	密(1mm程度の砂粒 を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄橙-黒褐 色 内面:褐灰-灰黄褐色	黒斑?
212	1950	L33グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.8△	外面:LR単節縄文。蓮文(沈線。竹管文)。 内面:ナデ。	密(砂粒あり)	良好	外面:橙色 内面:褐色	
213	1364	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:2.9△	外面:沈線、円形刺突文。ナデ。 内面:ナデ。	密(2.5mm以下の砂 粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄橙-黒褐 色 内面:にぶい黄褐-黒褐 色	北白川C式。 波状口縁部左側 縁
214	1166	L34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.5△	外面:ナデ後沈線。 内面:条痕。	密	良好	内外面:にぶい橙色	
215	1930	L33グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.2△	外面:沈線。円形刺突。ナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~2mm程の 長石、石英の砂粒 を多量に含む。)	良好	外面:浅黄-にぶい黄色 内面:浅黄色	
216	1364	K34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:1.6△	外面:円形刺突文。 内面:ナデ。	密(長石を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
217	1189	L34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.3△	外面:沈線。刺突文。 内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの 長石を含む。)	良好	外面:灰黄褐-橙色 内面:にぶい黄橙-灰黄 褐色	
218	1503	K35グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.9△	外面:口縁部LR単節縄文。口縁部LR 単節縄文による磨消縄文、刺突文。下位 条痕、沈線。 内面:口縁部~口縁部LR単節縄文。	密(砂粒を多く含 む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
219	1396	K35グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:7.6△	外面:口縁部刺突文。口縁部ナデ後円 形刺突文、沈線。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい橙-灰褐色 内面:灰褐色	
220	1172	L34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:5.9△	外面:口縁部刺突文。口縁部ナデ後円 形刺突文、沈線。 内面:ナデ。	密(1~5mmの砂粒 を多く含む。)	良好	外面:浅黄色 内面:にぶい黄褐色	
221	1760	K33グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:2.5△	外面:刺突文。沈線。 内面:ナデ。指押さえ。	密(5mm程以下の砂 粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄橙-褐灰 色 内面:灰黄褐色	
222	1189	L34グリッド 谷部V-2層	第89図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.7△	外面:口縁部刻目。口縁部沈線、刺突文。 内面:ナデ。	密(0.01~0.2mmの 砂粒、長石を含む。)	良好	内外面:にぶい橙色	
223	1368	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.3△	外面:2条の凹みに細い単位の2条の沈線 を施す。ナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~2mm程の 砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
224	1182	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.3△	外面:4条の沈線。 内面:ヨコナデ。	密(0.1~0.3mmの砂 粒、0.01mmの長石 を含む。)	良好	外面:にぶい黄橙-黒褐 色 内面:にぶい黄褐色	外面にスス付 着。
225	1369	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.1△	外面:刺突。ナデ。 内面:ナデ。	密(微砂粒を多く含 む。)	良好	外面:橙色 内面:にぶい黄褐色	
226	1183	L34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:2.7△	外面:口縁部に沈線。縄文後沈線、刺突。 内面:ナデ。口縁部に沈線。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	
227	1166	L34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:2.6△	外面:撫糸文後刺突、沈線。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい橙色 内面:褐灰色	
228	1189	L34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:5.2△	外面:縄目後波状口縁部に隆帯。後沈線、 ナデ。 内面:ケズリ後ナデ。	やや密(1~3mmの 石英、長石を多く 含む。)	良好	外面:浅黄褐色 内面:淡黄色(塗彩部橙 色)	
229	1182	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:7.0△	外面:条痕後沈線。 内面:上位剥離。下位ナデ。	やや密(0.5~3mm 程の石英、長石の 砂粒を多く含む。)	やや 不良	内外面:黄褐色	
230	1503	K35グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.8△	外面:ナデ後沈線。 内面:ナデ。	密(5mm程以下の砂 粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	北白川C式。
231	1505	K35グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:4.4△	外面:沈線。ナデ。 内面:ナデ。	やや粗	良好	内外面:にぶい黄褐色	北白川C式。
232	1164	L34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢	器高:3.6△	外面:ナデ後沈線。 内面:条痕。	密(1~3mmの砂粒 を含む。)	良好	外面:橙色 内面:にぶい黄褐色	北白川C式。
233	1366	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高:1.9△	外面:条痕後上位RL単節縄文、中位貼付 突帯、突帯上ナデ。 内面:条痕。	密(0.5~3mm程の 長石、石英の砂粒 を多く含む。)	良好	外面:明黄褐色 内面:にぶい黄色	北白川C式。
234	1166	L34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高:3.2△	外面:沈線。ナデ。 内面:条痕後ナデ。	密	良好	内外面:灰黄褐色	北白川C式。
235	1368	K34グリッド 谷部V-2層	第90図 PL42	縄文土器 浅鉢?	器高:4.0△	外面:不規則な沈線。 内面:ナデ。	やや密	良好	内外面:浅黄褐色	北白川C式。

表15 土器観察表(8)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿入PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
236	1761	K33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 8.6△	外面: 条痕後沈線、その後ナデ。 内面: 条痕。	密(2.5mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面: 黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
237	1946	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.4△	外面: 条痕後指押さえ、沈線。 内面: ナデ。指押さえ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黒褐色	
238	1364	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.1△	外面: ナデ後沈線による渦巻文。 内面: ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面: 赤褐色 内面: 明赤褐色	
239	1170	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 2.4△	外面: ナデ。条痕後沈線。 内面: 条痕。	密	良好	外面: にぶい褐色 内面: にぶい褐色	
240	1901	L33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.2△	外面: 沈線による渦巻文。ナデ。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の長石の砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	北白川C式。
241	1761	K33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 5.2△	外面: 沈線。ナデ。 内面: ナデ。	密(1~4mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 橙色	摩耗している。
242	1905	L35グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 2.15△	外面: 口縁部ナデ。口縁部燃糸文後沈線文。 内面: ナデ。	密(1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
243	1178	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.0△	外面: 燃糸文。沈線。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 明褐色	
244	1761	K33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 6.3△	外面: LR単節後沈線、ナデ。 内面: 条痕。	密	良好	外面: 浅黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
245	1174	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 6.9△ 口径: 37.8※	外面: LR単節縄文後沈線。 内面: ナデ。	密(0.5~4mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: 褐色、黒色 内面: 褐色	
246	1399	K35グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.5△	外面: 口縁部上位ナデ、下位LR単節縄文後沈線文。 内面: 条痕。	密(3mm以下の石英を多く含む。)	良好	内外面: にぶい褐色	
247	1942	K33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 6.0△	外面: LR単節縄文後沈線。 内面: ナデ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐色	
248	1182	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.0△	外面: 燃糸文後沈線。沈線間ナデ。 内面: 条痕。	密(1~3mmの石粒を多く含む。)	良好	内外面: 橙色	
249	1376	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 4.3△	外面: 口縁部ナデ。口縁部ナデ。胴部縄目(LR)後ナデ、その後沈線、円形刺突。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。4.5mm程の礫を1点含む。)	良好	内外面: 橙色	
250	1183	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 7.0△	外面: 口縁部刺突。LR単節縄文後沈線。中位の沈線間ナデ。 内面: ナデ。	密(5.5mm以下の砂粒を多く含む。)	良好	外面: 明黄褐~褐灰色 内面: にぶい黄褐色	北白川C式 黒斑あり。
251	1901	L33グリッド谷部V-2層	第90図	縄文土器 深鉢	器高: 5.1△	外面: 燃糸文後2条の沈線。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 明黄褐~にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	319と接合。
252	1164 1901	L34/L33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 6.0△	外面: 条痕後沈線。部分的にRL単節縄文。 内面: ナデ。	密(1~3mmの砂粒を含む。)	良好	内外面: 褐色	
253	1174	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 4.0△	外面: 縄目後沈線。 内面: ナデ。	密(0.5~2mm程の石英、長石を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 明黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
254	1185 1387	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 6.8△	外面: RL単節縄目後沈線、ナデ。 内面: ナデ。	密(1~2mm大の砂粒を含む。)	良好	外面: にぶい褐~明褐色 内面: にぶい黄褐色	内面にスス付着。
255	1176	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 5.4△	外面: LR単節縄文後沈線、沈線間ナデ。 内面: ナデ。	密(4mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 褐色	
256	1516	K35グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 3.6△	外面: 磨消縄文か? 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 灰黄褐色	
257	1183	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.8△	外面: 上位2条の沈線、沈線間RL単節縄文、沈線。下位条痕後RL単節縄文。 内面: ナデ。	やや密(1~2mm前後の砂粒を多く含む。)	良好	外面: 明褐~にぶい褐色 内面: にぶい褐色	内面にスス付着。
258	1174	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.3△	外面: 口縁部~口縁部LR単節縄文。口縁部より少し下がった位置に1条の沈線。 内面: ナデ。	やや密(長石、石英を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
259	1905	L35グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 3.4△	外面: 口縁部ナデ。LR単節縄文、沈線。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の石英、4mm程の長石の礫を1点含む。)	良好	外面: 浅黄色 内面: にぶい黄色	
260	1185	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 3.7△	外面: 沈線。ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 明褐色 内面: 褐色	
261	1950	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 4.3△	外面: 沈線。RL単節縄文。沈線間ナデ。 内面: ナデ。	密(2.5mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄褐色	北白川C式。
262	1176	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.7△	外面: 口縁部沈線。口縁部上位LR単節縄文、沈線。下位ナデ、円形刺突文。 内面: ナデ。大部分剝離。	やや密(0.5~3mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	やや不良	内外面: 黄褐色	
263	1164	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 4.0△	外面: RL単節縄文、沈線。 内面: ナデ。	密(0.01mmの石英、長石を多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
264	1950	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 5.6△	外面: LR単節縄文後沈線、ナデ。 内面: ケズリ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 浅黄色	摩耗が著しい。
265	1182	K34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢?	器高: 4.5△	外面: 3条の沈線。RL単節縄文。 内面: ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	内外面: にぶい褐色	
266	1798	L33グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 5.0△	外面: LR単節縄文後沈線。沈線間条痕後ナデ。 内面: 条痕。	密(5mmの礫あり。1~2mmの砂粒を含む。)	良好	外面: 黒褐色 内面: 明黄褐色	外面にスス付着。
267	1195	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 4.5△	外面: 縄文(LR?)後口縁部上位ナデ、強い指頭圧痕。下位沈線文。 内面: 上位縄文、指頭圧痕。下位ナデ。	密(0.5~3mmの石英を僅かに含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黄灰褐色	
268	1178	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高: 3.9△	外面: LR単節縄文後沈線。 内面: ナデ。	密(2.5mm以下の砂粒を含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	
269	1174	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 2.7△	外面: LR単節縄文後沈線。 内面: ナデ。	密(長石、石英多く含む。)	良好	内外面: にぶい黄褐色	北白川C式。
270	1176	L34グリッド谷部V-2層	第90図 PL43	縄文土器 深鉢	器高: 3.9△	外面: 条痕後沈線、刺突。 内面: ナデ。	密(1~2mmの長石を多量に含む。)	良好	内外面: 黄褐色	

第3章 調査の成果

表16 土器観察表(9)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
271	1182	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:10.3△	外面:LR縄文後沈線、ナデ。磨消縄文。内面:条痕後ナデ。	密(2mm大の石英、1mm大の長石を少し含む。)	良好	内外面:浅黄褐色	
272	1366	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢または浅鉢	器高:5.9△	外面:磨消縄文(LR単節縄文・沈線・ナデ)。一部ケズリ痕残る。内面:ケズリ後ナデ。	密	良好	外面:黄灰色 内面:暗灰黄色	
273	1172	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:5.8△	外面:LR単節縄文後沈線、その後沈線間ナデ。内面:ナデ。	密(0.5~2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:浅黄色	突起(左側面)近くの破片。
274	1174	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢または浅鉢	器高:8.1△	外面:LR単節縄文後沈線、ナデ。内面:条痕。	密(4mm以下の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄橙~黒褐色 内面:にぶい黄褐色	外面にスス付着。
275	778 1176	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:8.0△	外面:上位LR単節縄文後ナデ、沈線。下位条痕後ナデ。口縁部RL単節縄文か。内面:条痕後ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面:黄橙~明赤褐色 内面:明黄褐~橙~黄褐色	中津式? 北白川式?
276	1745	K36グリッド谷部V-2層	第91図 PL42	縄文土器深鉢または浅鉢	器高:2.8△	外面:2条凹線、浮文。後へラミガキ。内面:ナデ。	密(0.5~1mm程の砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄橙~灰黄褐色 内面:灰黄褐~褐灰色	宮滝式。
277	1908	L35グリッド谷部V-2層	第91図	縄文土器深鉢	器高:5.0△	外面:沈線。内面:ナデ。	密	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面にスス付着。
278	1510 981	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:10.0△	外面:沈線。ケズリ後ナデ。内面:ナデ。	密(3mm以下の石英を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	外面にスス付着。
279	1170	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:6.6△ 口径:14.3	外面:ヨコ方向のナデ。刺突後沈線。内面:条痕後ナデ。	密(1mm程の長石と石英を多く含む。)	良好	外面:赤褐~褐色 内面:橙~オリーブ黒	
280	1908	L35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.0△	外面:口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄褐色~黒褐色 内面:明黄褐色	スス付着。
281	976	J36/K36グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.4△	外面:口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。胴部ケズリ。内面:ナデ。	密(砂粒あり)	良好	内外面:明黄褐色	スス付着。
282	1908	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.5△	外面:口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。突帯下~胴部ナデ。内面:ナデ。	密	良好	内外面:明黄褐色	外面にスス付着。
283	1738	J35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:5.5△	外面:口縁部に接して貼付刻目突帯。口縁部ナデ。胴部ケズリ後ナデ。内面:ナデ。	密(1~4mmの長石の砂粒を少量、礫1点を含む。0.5~1mm程の石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面:淡黄~灰色 内面:淡黄色	粘土つなぎ痕あり。
284	1182	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:2.7△	外面:口縁部に接して刻目突帯。口縁部ナデ。内面:口縁部ナデ。口縁部ケズリ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	内外面にスス付着。
285	1510	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:2.5△	外面:口縁部に接して貼付刻目突帯。ナデ。内面:ナデ。	密(0.5~1mm程の長石、石英を数点含む。)	良好	外面:明黄褐色 内面:橙色	外面にスス付着。全体摩耗。
286	1313	L35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢または浅鉢	器高:1.8△	外面:ナデ後2条の沈線。沈線内刺突。内面:ナデ。	密(2.0mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面:黄褐色~暗灰黄色 内面:黄褐~黒褐色	
287	1908	L35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.8△	外面:口縁部より少し下がった位置に貼付刻目突帯。口縁部ナデ、ハケ目。内面:ナデ。	密(2.0mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面:淡黄~黄灰色 内面:黄褐色	
288	976	J36/K36グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:4.2△	外面:口縁部に接して貼付刻目突帯。口縁部ケズリ後ナデ。内面:ナデ。	密	良好	外面:黄灰~黒褐色 内面:にぶい黄色	
289	1172	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢または浅鉢	器高:4.4△	外面:口縁部刻目。口縁部1条の沈線。沈線下ナデ。内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
290	1170	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:5.1△	外面:条痕、ケズリ。内面:ナデ。指押さえ。	密(1~2mmの砂粒を含む。)	良好	内外面:明黄褐色	スス付着。
291	1174	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:7.3△	外面:条痕後ナデ。内面:条痕。	密(0.01mmの石英、長石を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄橙~褐灰色 内面:にぶい黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
292	1182	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.3△	外面:ナデ。ケズリ。内面:ナデ。	密(1~2mm程の長石を含む。)	良好	外面:にぶい褐色 内面:褐色	
293	1790	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器浅鉢	器高:3.5△	外面:ナデ。内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:明赤褐色 内面:にぶい褐色	外面にスス付着。
294	1503	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器鉢	器高:2.0△ 口径:9.0※	外面:条痕後ナデ。内面:条痕後ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石、雲母を多く含む。)	良好	外面:赤褐~暗赤灰色 内面:赤褐~暗赤灰色	粘土つなぎ痕あり。
295	1189	L34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢?	器高:6.0△	外面:条痕。焼成後に穿孔。内面:条痕。	密	良好	内外面:にぶい褐~暗褐色	
296	1182	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:6.0△	外面:二枚目腹線による条痕。内面:ナデ。	密(石英、長石を少し含む。)	良好	内外面:褐色	
297	1769	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:3.3△	外面:ナデ。内面:凹線。もしくは工具痕。	やや粗	やや良	内外面:橙色	
298	1189	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器深鉢	器高:2.4△	外面:ナデ。内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:灰黄褐色 内面:褐灰色	粘土つなぎ痕あり。
299	1918 1798	J36グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:1.7△ 底径:11.0※	外面:ナデ。底部ナデ。内面:ケズリ後ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:明黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
300	1926	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:2.4△ 底径:7.6※	外面:撫糸文。内面:ナデ。	密(1~2mmの長石を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
301	1948	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:2.8△ 底径:5.8※	外面:ナデ。内面:ナデ後指押さえ。	密(2mm程の石英を僅かに、1mm程の石英を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
302	1397	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:1.4△ 底径:4.0※	外面:条痕。底部へラ切り後指押さえ。内面:指押さえ。	密(8mm程以下の砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐~明褐色	
303	1510	K35グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:2.9△	外面:胴部下位条痕。底部ナデ、指頭圧痕。内面:ナデ。	密(1~8mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面:黒褐色 内面:浅黄色	
304	1769	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:2.0△ 底径:6.0※	外面:ナデ。内面:指押さえ、ナデ。	密(0.01mmの長石を含む。)	良好	外面:黄褐色 内面:にぶい黄褐色	底部に黒斑あり。
305	1376	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:3.6△	外面:条痕後ナデ。底部ナデ。内面:ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄橙~にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
306	1784	K34グリッド谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器深鉢	器高:1.45△ 底径:7.0※	外面:胴部下半撫糸文、底部工具による強い押さえ。内面:ナデ。	密(0.01~0.1mmの石英、長石、雲母を多く含む。)	良好	外面:にぶい橙~褐灰色 内面:にぶい橙色	底部にスス、黒斑あり。粘土つなぎ痕あり。

表17 土器観察表(10)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	量目(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
307	1758 1760 1923	K33グリッド 谷部V-2層	第91図 PL36-3	縄文土器 深鉢	器高：8.8△ 底径：5.3	外面：捺糸文、ナデ。底部ナデ。 内面：ナデ。底部ミガキ。	密(1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：明黄褐色、橙色	
308	1183	L34グリッド 谷部V-2層	第91図 PL45-1	縄文土器 深鉢	器高：5.3△ 底径：11.4※	外面：胴部下位条痕。底部ナデ、指押さえ。 内面：ハケ目後ナデ。	密(1～3mmの長石、砂粒を多く含む。)	良好	外面：明黄褐色 内面：黒褐色	粘土つなぎ痕あり。
309	976	J36/K36グリッド 谷部V-2層	第91図 PL44	縄文土器 深鉢	器高：7.3△	外面：ヘラケズリ後押さえ。幅広い凹線文。 内面：ミガキ。	密(1.5mm程の長石を少し含む。)	良好	外面：浅黄～黄灰色 内面：淡黄～にぶい黄色	外面に赤色塗彩。大洞式。
310	758	L35グリッド 谷部V-3層 南壁グリッド	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：3.7△	外面：口縁部に肥厚帯。ナデ。 内面：ナデ。	密(3mm以下の砂粒を含む。)	良好	外面：黄褐～灰黄褐色 内面：黄褐～にぶい黄褐色	
311	760	L34グリッド 南壁トレンチ 谷部V-3層	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：4.4△	外面：捺糸文。沈線。 内面：ケズリ後ナデ。	密(1mm程の長石をふつうに含む。)	良好	外面：にぶい黄橙～黄灰色 内面：にぶい黄褐色	
312	739	K35グリッド 谷部V-3層	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：4.5△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐～明褐色 内面：にぶい黄褐～褐灰色	
313	760	L34グリッド 谷部V-3層南壁 トレンチ	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：2.7△	外面：上位捺糸文。下位条痕。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
314	760	L34グリッド 南壁トレンチ 谷部V-3層	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：1.85△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面：橙～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	
315	739	K35グリッド 谷部V-3層	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：2.7△	外面：条痕後沈線。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：暗褐色	
316	739	K35グリッド 谷部V-3層	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：2.7△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(1～2mm程の砂粒を含む。)	良好	外面：にぶい橙色 内面：明黄褐色	
317	760	L34グリッド 谷部V-3層 南壁トレンチ	第95図 PL45-2	縄文土器 深鉢	器高：2.0△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(1mm程の石英の砂粒を少し含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
318	739	K35グリッド 谷部V-3層	第95図 PL40	縄文土器 深鉢	器高：3.0△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(1～2mmの石英、砂粒を含む。)	良好	内外面：明褐色	
319	760	L34グリッド 谷部V-3層南壁 トレンチ	第95図 PL42	縄文土器 深鉢	器高：5.5△	外面：ナデ。蓮文(沈線・円形刺突文)。 内面：ナデ。	密	良好	外面：浅黄橙～にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	波状口縁右側面 北白川C式。 251と接合。
320	760	L34グリッド 谷部V-3層 南壁トレンチ	第95図 PL40	縄文土器 深鉢	器高：4.3△	外面：LR縄文後沈線。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	船元式。
321	760	L34グリッド 谷部V-3層 南壁トレンチ	第95図 PL45-1	縄文土器 深鉢	器高：2.1△ 底径：4.5※	外面：ナデ。底部工具によるナデ。 内面：ケズリ後ナデ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
322	735	L35グリッド 谷部V-3層	第95図 PL45-1	縄文土器 深鉢	器高：1.6△ 底径：5.0※	外面：条痕。底部ナデ。 内面：ナデ。	やや密	良好	内外面：明褐色	
323	287	C5グリッド 攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：6.5△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(0.1mmの長石、0.01mmの雲母を含む。)	良好	外面：黄褐色 内面：橙色	粘土つなぎ痕あり。
324	34	L2グリッド 検出面	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：4.3△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(0.01mmの石英、長石を含む。)	良好	外面：灰黄色 内面：にぶい黄褐色	外面に粘土つなぎ痕あり。一部ススあり。内面風化している。
325	266	C5グリッド 攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：3.2△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
326	436	D6グリッド 攪乱土	第96図 PL40	縄文土器 深鉢	器高：2.8△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：粗いナデ。	密(1mm程の長石を含む。)	良好	外面：橙色 内面：にぶい赤褐色	
327	74	D7グリッド 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：2.3△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：斜行沈線。	密	良好	内外面：明褐色	
328	37	M2グリッド 検出面	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：2.5△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(0.01mmの長石を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：橙色	
329	4	排土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：2.3△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(0.01mmの砂粒を含む。雲母含む。)	良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい	
330	2045	C区	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：1.9△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：橙色	口縁部か？
331	42	K2グリッド 褐色土	第96図 PL45-3	縄文土器 深鉢	器高：2.8△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(0.5～1mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：明黄褐色	高山寺式。
332	8	K2グリッド 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：3.5△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密	良好	外面：橙色 内面：浅黄色	底部付近か。 高山寺式。
333	1749	J36グリッド 流土	第96図	縄文土器 深鉢	器高：2.8△	外面：ポジティブ楕円押型文。 内面：ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面：橙色 内面：にぶい黄褐色	高山寺式。
334	707	J31グリッド 攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：1.8△	外面：口縁部刻目。口縁部RL単節縄文。 内面：口縁部上位RL単節縄文。下位ナデ。	密(0.5～1mm程の長石・石英の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：明黄褐色	菱根式。
335	340	J32グリッド 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：2.6△	外面：半截竹管による刺突文。貼付突帯。 内面：ナデ。	密	良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄褐色	特殊突帯文。
336	598	L35グリッド 南壁トレンチ 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：3.6△	外面：捺糸文後沈線。 内面：ケズリ後ナデ。	密(0.5～1mm程の長石の砂粒を多量に含む。)	良好	外面：暗灰黄色 内面：にぶい黄褐色	
337	598	L35グリッド 南壁トレンチ 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：2.5△	外面：捺糸文後沈線。 内面：ナデ、指押さえ。	密(0.2～0.5mmの長石の砂粒を多量に含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：浅黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
338	8	K2グリッド 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：4.7△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(0.5～2mm程の長石・石英を多く含む。)	良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄褐色	
339	52	J2グリッド	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：6.0△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密	良好	外面：黄色 内面：明黄褐色	里木Ⅱ式。
340	598	L35グリッド 南壁トレンチ 表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高：4.8△	外面：捺糸文。 内面：ナデ。	密(7mmの礫2点と、0.5～2mm程の長石と石英の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：にぶい黄褐色	
341	8	K2グリッド 表土	第96図	縄文土器 深鉢	器高：6.4△	外面：捺糸文。 内面：ヨコナデ。	密(0.1mmの長石を含む。)	良好	外面：橙色 内面：橙～褐灰色	外面に粘土つなぎ痕あり。

第3章 調査の成果

表18 土器観察表(11)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
342	590	L33グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.5△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を含む。)	良好	外面: におい褐色 内面: 灰黄褐~黒褐色	内面にスス付着。
343	169	H31グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.6△	外面: 条痕。 内面: 条痕後ナデ。	密(1~2mm程の石英・長石を僅かに含む。)	良好	外面: におい黄橙色 内面: 褐色	
344	50	K2グリッド褐色土	第96図 PL45-3	縄文土器 深鉢	器高: 3.5△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.01~0.1mmの長石を多く含む。)	良好	外面: におい橙色 内面: 褐色	
345	30	J2グリッド褐色土	第96図 PL45-3	縄文土器 深鉢	器高: 4.6△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.5~1mm程度の石英・長石の砂粒を含む。)	良好	外面: 明黄褐色 内面: におい黄橙色	
346	100	J4グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.3△	外面: 口縁部捺糸文。口縁部捺糸文。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: 明黄褐色	
347	17	J2グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 6.15△	外面: 捺糸文。口縁部捺糸文。 内面: 条痕後ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面: 明黄褐~褐灰色 内面: 明黄褐~褐色	外面にスス付着。
348	50	K2グリッド褐色土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 7.5△	外面: 1条の凹線。胴部捺糸文。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: 橙~明赤褐色 内面: 褐色	粘土つなぎ痕あり。
349	21	L2グリッド暗褐色土	第96図 PL45-3	縄文土器 深鉢	器高: 4.2△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.5~3mm程の長石・石英の砂粒を多く含む。)	良好	内外面: におい黄橙色	
350	593	L34グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL40	縄文土器 深鉢	器高: 4.2△	外面: 捺糸文後ナデ。 内面: ナデ。	密(微砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	
351	253	D34グリッド攪乱土	第96図 PL40	縄文土器 深鉢	器高: 5.8△	外面: 捺糸文。口縁部にも捺糸文。 内面: ナデ。	密(1~2mm程の長石をやや含む。)	良好	内外面: におい黄褐色	
352	1918	J36グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.4△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 明褐色 内面: 褐色	
353	9	L2/M2グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.2△	外面: 捺糸文。 内面: ナデ。	密(0.01mmの長石を含む。)	良好	内外面: におい橙色	
354	964	J35グリッド表土	第96図 PL40	縄文土器 深鉢	器高: 3.0△	外面: 捺糸文。 内面: 二枚貝条痕。	密(0.5~2mm程の長石と石英を多く含む。)	良好	内外面: におい黄橙色	
355	98	C区D6グリッド攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 6.3△	外面: 条痕。 内面: 条痕後ナデ。	やや密(0.5~1.5mm大の砂粒を含む。)	良好	外面: におい黄橙色 内面: 灰黄褐色	外面にスス付着。
356	540	J32グリッド攪乱土	第96図 PL36-1	縄文土器 深鉢	器高: 2.4△	外面: 条痕後波状沈線。 内面: 条痕。	密(0.01~0.1mmの長石を含む。)	良好	外面: におい黄褐色 内面: 褐灰色	内面に黒斑・ススあり。
357	590	L33グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.5△	外面: 条痕。 内面: 条痕。一部条痕後ナデ。	密	良好	外面: におい褐色 内面: におい橙~褐灰色	粘土つなぎ痕あり。
358	256	L34グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.2△	外面: 条痕後ナデ。2条の沈線。 内面: 条痕後ナデ。	密(0.5~1mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: におい黄橙色 内面: におい黄色	北白川C式。
359	593	L34グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.3△	外面: ナデ。沈線。ハケ目状条痕あり。 内面: ナデ。	密(石英・砂粒を含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	
360	1918	J36グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 6.0△	外面: 条痕後沈線。 内面: 条痕。	密(1~2mmの砂粒を含む。)	良好	外面: 明褐色 内面: 明赤褐~黒褐色	内面下位に焼けた痕跡あり。北白川C式。
361	1939	J33グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 9.0△	外面: 縄文地に沈線。 内面: 条痕。	密	良好	外面: 黒褐~におい黒褐色 内面: におい黄褐色	北白川C式。
362	108	L35グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.0△	外面: LR単節縄文後沈線。一部沈線間ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: におい褐色	北白川C式(古)。
363	1939	K33グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 6.3△	外面: LR単節縄文後沈線。沈線間一部ナデ。一部条痕。 内面: 条痕。部分的にナデ。	やや密	良好	外面: 褐色 内面: におい黄橙色	北白川C式 外面にスス付着。
364	1937	J36グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.1△	外面: LR単節縄文。沈線。 内面: ナデ。	やや粗(1~2mmの砂粒を含む。)	良好	外面: 黒褐色 内面: 黄褐色	
365	593	L34グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.4△	外面: ナデ。沈線。 内面: ナデ。	密(1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	外面: におい黄褐色 内面: 黒褐色	
366	590	L33グリッド南壁トレンチ表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.3△	外面: RL単節縄文後沈線。刺突。 内面: ナデ。	密(砂粒含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	北白川C式。
367	181	K33グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.0△	外面: RL単節縄文後条痕。沈線。 内面: ナデ。	密(0.2~1mm程の長石・石英の砂粒を含む。)	良好	内外面: におい黄色	粘土つなぎ痕あり。 北白川C式
368	1918	J36グリッド流土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.6△	外面: LR単節縄文による磨消縄文。 内面: 条痕。	密	良好	内外面: におい黄褐色	福田KⅡ式(古)。
369	93	D6グリッド攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.1△	外面: 2条沈線。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 橙~明黄褐色 内面: 橙~褐灰色	福田KⅡ式(新)。
370	61	E6グリッド	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.6△	外面: 3条の沈線。 内面: 上位ヨコナデ。下位ケズリ。	密	良好	外面: におい黄褐色 内面: におい黄褐色・黒色	福田KⅡ式(新)。
371	254	堅穴建物5	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 5.7△	外面: 3条沈線によるRL単節の磨消縄文。 内面: ナデ。	密	良好	外面: 明黄褐~黒 内面: におい黄橙~黒	福田KⅡ式(新)。
372	91	D6グリッド攪乱土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 3.6△	外面: 3条沈線による磨消縄文。 内面: ヘラミガキ。	やや密(径0.5~1mm程度の砂粒を含む。)	良好	外面: 橙~黒褐色 内面: におい黄橙~におい橙~黒褐色	福田KⅡ式(新)~布勢式。
373	357 359	K31グリッド	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 12.9△ 口径: 24.2※	外面: 口縁部~胴部ケズリ。胴部下位ケズリ後ナデ。ミガキ。 内面: 口縁部~胴部上位ケズリ後ミガキ。胴部下位ケズリ後ナデ。	密(1~3mmの石英を僅かに含む。)	良好	外面: 褐色 内面: におい黄褐色	外面にスス付着。
374	540	J32グリッド攪乱土	第96図 PL36	縄文土器 深鉢	器高: 2.5△	外面: 口縁部刻目。口縁部沈線。ナデ。 内面: ナデ。	密	良好	内外面: におい黄褐色	粘土つなぎ痕あり。
375	974 1940	J36グリッド	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 6.2△ 口径: 27.3※	外面: 貼付刻目突帯。口縁部~突帯上までナデ。突帯下~胴部ケズリ後ナデ(左方向)。 内面: ケズリ後ナデ(左方向)。	密(0.5~1.5mm程度の砂粒を含む。)	良好	外面: 明黄褐~褐色 内面: におい黄橙~褐色	粘土つなぎ痕あり。
376	385	J30グリッド	第96図 PL44	縄文土器 深鉢	器高: 5.9△	外面: 口縁部に接して貼付刻目突帯。口縁部ナデ。 内面: ヨコナデ。指押さえあり。	密(4mm程度の石英・1~2mmの砂粒あり)	良好	外面: 赤褐~黒褐色 内面: 暗褐色	内外面スス付着。
377	17	J2グリッド表土	第96図	縄文土器 深鉢	器高: 3.8△	外面: 口縁部ナデ。口縁部より少し下がった位置に刻目突帯。 内面: ナデ。	密(1~2mm前後の砂粒を含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	

表19 土器観察表(12)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
378	82	D3グリッド表土	第96図 PL46	縄文土器 深鉢	器高: 4.9△	外面: 条痕。沈線。 内面: 条痕。	密(0.5~2mm程の長石・石英の砂粒を多量に含む。)	良好	内外面: にぶい橙色	
379	593	L34グリッド表土	第96図	縄文土器 深鉢	器高: 7.3△	外面: ナデ。 内面: 条痕。	密(砂粒あり)	良好	内外面: 浅黄色	
380	359	K31グリッド南トレンチ	第96図 PL44	縄文土器 深鉢	器高: 4.6△	外面: ケズリ後ナデ。 内面: ケズリ後ナデ。	密(1~4mm程の石英・長石を少し含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 淡黄色	
381	2025	F区 風倒木	第96図	縄文土器 深鉢	器高: 5.1△	外面: 工具によるナデ。 内面: ナデ。	密(0.01~0.2mmの石英・長石を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: にぶい黄褐色	
382	77	D4グリッド表土	第96図 PL47-1	縄文土器 深鉢	器高: 1.8△ 底径: 4.2※	外面: ナデ。 内面: ナデ、指押さえ。条痕が残る。	ふつう(3mm程の長石の砂粒を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 褐色	
383	50	K2グリッド褐色土	第96図	縄文土器 深鉢	器高: 2.3△ 底径: 9.0※	外面: ヨコナデ。 内面: ナデ。	密(0.1~0.01mmの長石、石英を含む。)	良好	外面: にぶい橙色 内面: 橙色	外面にスス付着、黒斑あり。内面に粘土つなぎ痕あり。
384	17	J2グリッド表土	第96図 PL47-1	縄文土器 深鉢	器高: 1.25△ 底径: 6.0※	外面: 条痕後ナデ。底部ナデ。 内面: ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	内外面: 明黄褐色	
385	337	J33グリッド	第96図 PL45-3	縄文土器 深鉢もしくは浅鉢	器高: 2.3△	外面: 口縁部刻目。2条沈線による工字文。 内面: ヨコナデ。	密(3mm以下の長石・石英を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 褐色	大洞A I式?
386	607	竪穴建物1埋土	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 2.7△	外面: 口縁部に3条の凹線。頸部ナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	密(砂粒含む。)	良好	内外面: 褐色土	外面にスス付着。
387	607	竪穴建物1埋土	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 4.4△	外面: 口縁部5条の凹線、ナデ。頸部ナデ。胴部上位に貝殻腹線による押し沈線文。 内面: 口縁部~頸部ナデ。胴部ヘラケズリ。	密	良好	内外面: 浅黄褐色	外面口縁部にスス付着。
388	656	竪穴建物1焼土層	第104図 PL48	弥生土器 壺または甕	器高: 4.7△ 口径: 24.0※	外面: 口縁部凹線。頸部ナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	密(1~2mmの石英粒を多量に含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 浅黄色	
389	669	竪穴建物1埋土	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 4.2△	外面: 口縁部4条の凹線。頸部ミガキ、穿孔あり。 内面: 口縁部~頸部上位ミガキ。頸部下位ケズリ。	密(0.5~2mm程の長石、石英の砂粒を多めに含む。)	良好	内外面: にぶい赤褐~橙色	内外面に赤色塗彩。
390	658	竪穴建物1焼土層	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 4.0△	外面: 口縁部に5条の凹線、頸部ヨコナデ。 内面: ナデ。	密	良好	外面: にぶい黄褐色 内面: 黒褐色	内面全面にスス付着。
391	668	竪穴建物1埋土	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 6.2△ 口径: 16.4※	外面: 口縁部に7条の平行沈線。口縁下縁~頸部ナデ、頸部下位~胴部上位に板状工具による刺突文。胴部ナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ヨコナデ。頸部下位ケズリ後ナデ。胴部ケズリ。	密	良好	内外面: 橙色	外面にスス付着。
392	496	竪穴建物1周辺攪乱	第104図 PL48	弥生土器 甕	器高: 4.15△ 口径: 19.6※	外面: 口縁部ヨコナデ。口縁部6条の凹線。口縁下縁~頸部ヨコナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	密(2mm程の長石の砂粒を含む。)	良好	外面: 浅黄橙~黒 内面: 橙色	
393	694	竪穴建物1埋土	第104図 PL48	弥生土器 鉢?	器高: 6.0△ 口径: 16.6※	外面: ヨコナデ。胴部上位に刺突文。 内面: 口縁部ヨコナデ。胴部ケズリ後ナデ。	密	良好	内外面: 浅黄色	外面全面、口縁部内面の上位に赤色塗彩。
394	665	竪穴建物1埋土	第104図	弥生土器 器台	器高: 2.9△	外面: 平行沈線ナデ消し。 内面: ナデ。	やや粗	良好	内外面: にぶい黄褐色	外面に部分的に赤色塗彩が残る。内外面にスス付着。
395	469	竪穴建物1周辺攪乱	第104図 PL48	弥生土器 高坏	器高: 5.3△ 口径: 29.7※	外面: 口縁部ヨコナデ。口縁部~体部ヨコ方向のヘラミガキ。 内面: 口縁部ヨコナデ。口縁部ヨコ方向のヘラミガキ。体部ヘラミガキ。	密(0.5~2mm大の砂粒を含む。)	良好	外面: 浅黄橙~橙~褐色 内面: 浅黄橙~橙色	
396	469	竪穴建物1周辺攪乱	第104図	弥生土器 高坏	器高: 6.4△	外面: 脚部上位ヘラケズリ後ミガキ、下位ミガキ。内面: ケズリ後ナデ、しぼり目。	密(0.01mmの石英、長石、雲母、砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 橙色	外面全面、脚部内面の下に赤色塗彩。
397	496	竪穴建物1周辺攪乱	第104図 PL48	弥生土器 器台	器高: 4.0△ 口径: 19.0※	外面: 口縁部櫛状の文様ナデ消し。頸部ヨコナデ。 内面: ヨコナデ。	密	良好	外面: にぶい黄橙~にぶい黄褐色	口縁部内面に赤色塗彩あり。
398	2112	竪穴建物4埋土	第109図 PL48	弥生土器 壺	器高: 4.6△ 口径: 15.2※	外面: 口縁部上位ナデ、下位5条凹線ナデ消し。頸部ナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ後ナデ。	密	良好	外面: にぶい橙~黒色 内面: にぶい黄褐色	
399	2112	竪穴建物4埋土	第109図 PL48	弥生土器 甕	器高: 4.0△ 口径: 14.0※	外面: 口縁部摩擦により不明。頸部ナデ。 内面: 口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	やや密	やや良	内外面: にぶい黄褐色	内外面にスス付着、外面口縁部に黒斑あり。
400	2112	竪穴建物4埋土	第109図 PL48	弥生土器 甕	器高: 3.5△	外面: 口縁部4条の凹線。頸部ナデ、頸部下位に刺突文。 内面: 口縁部~頸部上位ヘラミガキ。頸部下位ヘラケズリ。	密(1~2mm程の石英、長石を少し含む。)	良好	外面: 浅黄褐色 内面: 明黄褐色	
401	2115	竪穴建物4床面直上	第109図 PL47-3	弥生土器 壺	器高: 12.4△ 口径: 15.4※	外面: 口縁部6条の凹線。口縁部~頸部ヨコナデ。頸部に穿孔あり。胴部ヨコナデ後丁寧なヘラミガキ。 内面: 口縁部~頸部丁寧なヘラミガキ。胴部ケズリ後ナデ。	密(1mmの石英を多く含む。)	良好	外面: にぶい黄褐色、淡赤褐色 内面: にぶい黄褐色、浅黄色	外面から内面へ貫通する4つの穿孔。外面全体にスス付着。
402	2116	竪穴建物4埋土	第109図 PL48	弥生土器 甕	器高: 9.5△ 口径: 17.4※	外面: 口縁部に4条の凹線。頸部~胴部ナデ。胴部上位に斜行文。 内面: 口縁部ヨコナデ。頸部~胴部ヘラケズリ。	密(1~2mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面: 淡黄色	内外面にスス付着。
403	2114	竪穴建物4埋土	第109図 PL47-3	弥生土器 高坏	器高: 8.1 口径: 13.0※ 底径: 7.0	外面: 口縁部に4条の凹線。体部~脚部上位ミガキ。脚部下位4条の凹線。 内面: 口縁部~体部上位ミガキ。脚部上位ナデ、中位ケズリ、下位ナデ。	密(0.5~2mm程の長石、石英の砂粒を多く含む。)	良好	内面: 明赤褐~にぶい褐色 内面: 赤褐~にぶい褐色	外面全面、口縁部~体部内面の上位に赤色塗彩。体部内面の下位剥離のため調整不明。
404	2117	竪穴建物4床面直上	第109図 PL47-5	弥生土器 水差し形土器	器高: 14.5△ 口径: 8.5※ 底径: 3.2※	外面: 口縁部ナデ。頸部かすかにミガキ。胴部風化しており調整不明。 内面: 口縁部~頸部上位ミガキ。	密(0.1mmの長石、砂粒を多く含む。)	良好	外面: 浅黄橙~にぶい橙色 内面: 浅黄褐色	外面風化
405	225	竪穴建物5	第111図 PL50-1	土師器 甕または壺	器高: 3.3△	外面: ナデ。口縁部中位、頸部は強いナデ。 内面: ナデ。	密(0.5~1mm程の石英、長石の砂粒を疎らに含む。)	良好	内外面: 浅黄色	外面にスス付着。

第3章 調査の成果

表20 土器観察表(13)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	法量(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
406	221	堅穴建物5下層	第111図 PL50-1	土師器 甕または壺	器高:3.5△	外面:ナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~1mm程の長石の砂粒を僅かに含む。)	良好	外面:明黄褐色 内面:にぶい黄色	外面にスス付着。
407	221	堅穴建物5下層	第111図 PL50-1	土師器 小型丸底壺	器高:5.0△	外面:口縁部ナデ。頸部強いナデ。胴部ハケ目。 内面:口縁部ナデ。頸部ケズリ。胴部上位ナデ後指押さえ、下位ケズリ。	密(0.5~2mm程の石英、長石を含む。)	良好	内外面:橙色	内面所々風化して剥離している。
408	212	堅穴建物5	第111図 PL49-2	土師器 羽釜状土製品	器高:6.4 口径:5.6※	外面:ナデ。指押さえ。頸上部指押さえ。 内面:ナデ。胴部上位指押さえ。	密	良好	内外面:浅黄色	ほぼ完存。
409	26 32 36 41 43 45 50 52 61 91 210 217 219 254	堅穴建物5下層	第111図 PL49-1	土師器 甕形土器	器高:52.3 口径:43.6 底径:15.8※	外面:体部タテハケ。狭口部タガ状突帯剥落。ヨコナデ。 内面:広口部ヨコナデ。以下ケズリ。中位付近指押さえ痕。	密(1~5mmの石英含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい橙色	把手欠損。
410	630 631 632	堅穴建物6	第113図 PL49-3	土師器 壺	器高:14.8 口径:11.2	外面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ハケ目。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴部上位指頭圧痕。下位ヘラケズリ。底部指頭圧痕。	密(1~3mmの石英を多く含む。)	良好	外面:橙色 内面:にぶい黄褐色	
411	634	堅穴建物6	第113図 PL49-4	土師器 高坏	器高:7.8△ 底径:9.3	外面:脚部上半横方向ミガキ。脚部下半ヨコナデ。 内面:脚部上半ケズリ後ナデ。脚部下半ハケ目。	密(1~3mmの砂粒含む。)	良好	内外面:橙色	
412	1410	堅穴建物7	第114図 PL50-1	土師器 甕	器高:4.2△	外面:ヨコナデ。 内面:ヨコナデ。	密(石英、長石等含む。)	良好	内外面:褐色	
413	1889	堅穴建物7 P4	第114図 PL50-1	土師器 甕	器高:7.2△ 口径:11.7※	外面:ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:橙色 内面:褐色	
414	1491	堅穴建物7 4層	第114図 PL49-5	土師器 小型丸底壺	器高:6.2△ 口径:6.0※	外面:ヨコナデ。 内面:胴部上位ナデ、ナデ後指押さえ。中位ヘラケズリ。下位ナデ後指押さえ。	密	良好	内外面:橙色	
415	1347	堅穴建物8 床面直上	第117図 PL50-1	土師器 甕	器高:3.9△	外面:ヨコナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:にぶい黄橙~黒色 内面:褐色	
416	1115	堅穴建物8 7層	第117図 PL50-1	土師器 甕	器高:4.8△	外面:ナデ。 内面:ナデ。	密	良好	外面:浅黄褐色 内面:明黄褐色	
417	1121	堅穴建物8	第117図	土師器 甕	器高:24.0 口径:14.2	外面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ハケ目。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ケズリ。底部指押さえ。	密	やや不良	内外面:浅黄褐色	外面にスス付着。天神川V期。
418	1346	堅穴建物8 床面直上	第117図 PL50-1	弥生土器 壺	器高:11.8△	外面:胴部上位ヨコナデ。胴部ハケ目後貝殻腹縁による刺突。 内面:胴部上位ナデ、指押さえ。下位ケズリ後ナデ。	密(3mm以下の砂粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄橙~黒褐色	内外面にスス付着。
419	1566	堅穴建物8 床面直上	第117図 PL50-1	土師器 壺	器高:8.5△	外面:ハケ目。 内面:胴部上位ナデ、指押さえ。下位左方向のヘラケズリ後ナデ。	密(微砂粒を含む。)	良好	内外面:黄褐色	
420	1574	堅穴建物8	第117図 PL50-1	土師器 小型丸底壺	器高:7.6△ 口径:10.7※ 胴部最大径:10.0※	外面:口縁部~頸部タテハケ後ヨコナデ。口縁部ヨコナデ。胴部ヨコハケ後ヨコナデ。 内面:口縁部~頸部ヨコナデ。胴部ケズリか。	密(2mm以下の石英、長石を含む。)	良好	外面:褐色 内面:浅黄褐色	
421	1345	堅穴建物8 3層	第117図 PL49-7	土師器 高坏	器高:9.8△ 底径:9.6△	外面:坏部~脚部中位ミガキ。脚部上位にナデ押さえ。脚部下位ミガキ。 内面:坏部ナデもしくはミガキ。脚部上位しぼり、下位しぼり後指押さえ、ナデ。	密(2mm以下の石英、長石を含む。)	やや不良	内外面:浅黄褐色	外面の摩滅が著しい。
422	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.1△	外面:網目状捺糸文。 内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
423	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.4△	外面:口縁部ナデ。口縁部条痕。 内面:条痕。	密	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:橙~浅黄褐色	
424	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:5.45△	外面:捺糸文。 内面:ナデ。	密	良好	外面:褐色 内面:にぶい黄橙~褐色	
425	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:3.0△	外面:ナデ。1条の沈線。 内面:条痕。	密(0.5~2mm程の長石・石英を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
426	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:3.0△	外面:上位LR単節縄文後沈線。下位沈線。 内面:ナデ。	密(0.1~1mm程の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:灰黄褐色	
427	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.35△	外面:条痕後ナデ。沈線内に円形刺突を施す。 内面:上位ナデ(端部近くに条痕。下位ケズリ後ナデ。)	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面:にぶい黄褐~にぶい褐色 内面:にぶい褐色	
428	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:5.6△	外面:LR単節縄文。沈線。 内面:ナデ。	密(砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:黄褐色	北白川C式。
429	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:6.5cm	外面:LR単節縄文後ナデ。沈線、刺突。一部RL単節縄文。 内面:ナデ	密(砂粒を含む)	良好	内外面:にぶい黄褐色	北白川C式。
430	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.5△	外面:工具による刺突。ナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~2mm程の長石・石英の砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
431	1555	K33グリッド P52W	第119図 PL43	縄文土器 深鉢または浅鉢	器高:3.6△	外面:磨消縄文(LR単節縄文)。 内面:条痕。	密(4mm以下の砂粒を多く含む。)	良好	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい黄褐色	
432	1123	テラス2 埋土	第119図 PL43	縄文土器 深鉢	器高:3.8△	外面:沈線。ハケ状条痕。 内面:ナデ。	密(砂粒含む。)	良好	内外面:黄褐色	北白川C式。
433	1553	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:4.0△	外面:磨消縄文(LR単節縄文・沈線・ナデ)。 内面:ナデ。	密	良好	外面:黒褐~にぶい黄褐色 内面:明褐色	
434	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.3△	外面:磨消縄文(LR単節縄文)1条の沈線。 内面:ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	外面:明黄褐~灰黄褐色 内面:明黄褐色	
435	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.8△	外面:口縁部に接して貼付刻目突帯。口縁部工具によるナデ。 内面:ナデ。	密(0.5~2mm程の石英・長石の砂粒を多めに含む。)	良好	内外面:褐色	
436	1151	テラス2 埋土	第119図 PL37	縄文土器 深鉢	器高:2.5△	外面:貼付刻目突帯。突帯後口縁部上位ナデ。下位ケズリ後ナデ。 内面:上位ナデ。下位ケズリ後ナデ。	密(1mm前後の砂粒を含む。)	良好	内外面:にぶい黄褐色	
437	1554	テラス2 埋土	第119図 PL50-1	土師器 甕	器高:4.9△ 口径:15.8※	外面:ナデ。 内面:口縁部~頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	密	良好	外面:褐色 内面:にぶい黄褐色	

表21 土器観察表(14)

※復元値 △現存値

遺物番号	取上番号	遺構層位名	挿図PL	種類器種	量目(cm)	手法上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
438	704	土坑13埋土	第121図 PL50-1	土師器 甕	器高：3.6△ 口径：12.7※	外面：口縁部～頸部上位ヨコナデ。頸部下位ハケ目。 内面：口縁部～頸部上位ヨコナデ。頸部下位右方向のケズリ。	密(砂粒、雲母含む。)	良好	外面：灰黄褐色 内面：橙色	天神川I期。
439	2128	G区表土	第124図	縄文土器 深鉢	器高：6.6△	外面：口縁部ナデ。貼付突帯。口縁部～頸部ナデ。 内面：ナデ。	密(2mm程度の砂粒を含む。)	良好	内外面：にぶい黄橙色	口縁部内面に糊圧痕2カ所あり。
440	1896	F区表土	第124図	弥生土器 壺	器高：8.7△	外面：胴部上位3条の沈線。胴部中位に4条の沈線に斜格子文が伴う。 内面：ナデ。	密(0.5～2mmの砂粒を多く含む。)	良好	内外面：明黄褐色	外面にスス付着。
441	2124	J10グリッド旧表土	第124図 PL48	弥生土器 甕	器高：15.0△ 口径：16.2※ 胴部最大径：17.6※	外面：口縁部凹線後ナデ。頸部上位ナデ。頸部下位～胴部中位ミガキ後ナデ。胴部下位ナデ。 内面：口縁部ナデ。頸部～胴部ケズリ。胴部下位指押さえ。	密(3mm程の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：にぶい黄橙色	
442	2124	J10グリッド旧表土	第124図	弥生土器 甕	器高：4.3△ 口径：16.0※	外面：口縁部に3条の凹線。頸部上位ナデ、下位工具痕あり。胴部板状工具によるナデ。 内面：口縁部～頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ後ナデ。	密(2～3mmの砂粒を多く含む。)	やや良	内外面：にぶい黄橙色	
443	2128	G区表土	第124図 PL48	弥生土器 甕または壺	器高：2.7△	外面：口縁部4条の凹線。頸部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ。頸部ケズリ。	密	良好	外面：明赤褐～黒褐色 内面：明赤褐～にぶい褐色	
444	464	I14グリッド表土	第124図	弥生土器 甕	器高：3.5△ 口径：15.6※	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部中位ヘラミガキ。頸部中位より下はヘラケズリ。	密(1mm程の長石を僅かに含む。)	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	外面にスス付着。
445	2100	G区(I10付近)表土	第124図 PL48	弥生土器 甕	器高：5.4△ 口径：17.0※	外面：口縁部多条痕ナデ消し。頸部ナデ、胴部上位刺突。 内面：口縁部～頸部ヘラミガキ後ナデ。胴部ケズリ。	密(1mm程の長石の砂粒を多く含む。)	良好	内外面：灰黄褐～橙色	
446	2128	G区表土	第124図 PL48	弥生土器 台付壺 脚部	器高：1.7△ 底径：9.2※	外面：脚部上位ナデ、下位6条の沈線。 内面：ナデ。	密	良好	内外面：黄褐色	
447	547	H34グリッド表土	第124図 PL50-2	弥生土器 甕	器高：5.08△	外面：口縁部～頸部ナデ。口縁部凹線ナデ消しか。 内面：口縁部～頸部上位ナデ。頸部下位ヘラケズリ。	密	良好	外面：にぶい黄褐色 内面：橙色	
448	115	J34グリッド表土	第124図	弥生土器 甕	器高：4.25△	外面：口縁部上位に波状文。下位ナデ。 内面：ヨコナデ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
449	315	H32グリッド表土	第124図	弥生土器 甕	器高：4.3△ 口径：14.4※	外面：口縁部4条の凹線。頸部ナデ。 内面：口縁部～頸部上位ナデ、指頭圧痕あり。頸部下位ケズリ。	密	良好	内外面：にぶい黄褐色	
450	315	H32グリッド表土	第124図 PL50-2	弥生土器 甕	器高：5.6△ 口径：14.6※	外面：多条の平行沈線か。頸部ナデ。 内面：口縁部～頸部上位ナデ。頸部下位ケズリ。	密	良好	内外面：浅黄褐色	
451	111	H34グリッド表土	第124図 PL50-2	弥生土器 甕	器高：5.7△	外面：口縁部ヘラ掃平行沈線。 内面：口縁部～頸部上位ナデ。頸部下位ヘラケズリ。	密(0.5～3mmの石英を多く含む。)	良好	外面：明黄褐色 内面：橙色	外面にスス付着。
452	706	K31グリッド	第124図 PL50-2	弥生土器 甕	器高：4.9△ 口径：15.6※	外面：ヨコケズリ。 内面：口縁部～頸部上位ナデ。頸部下位左方向のケズリ。	密(1～2mm程の石英、長石を含む。)	良好	内外面：淡黄色	
453	121	J31グリッド	第124図	土師器 甕	器高：4.5△	外面：ケズリ後ナデ。 内面：ケズリ後ナデ。	密(2mm程度の砂粒を含む。)	良好	外面：灰白色 内面：淡黄色	
454	1909 1948	K35グリッド谷部V-2層	第124図 PL50-2	土師器 甕	器高：12.5△ 内面：14.2※	外面：口縁部～胴部上位ヨコナデ。胴部中位～下位不定方向のハケ目。 内面：口縁部～頸部上位ヨコナデ。頸部下位～胴部上位ナデ、指押さえ。胴部中位～下位ヘラケズリ、指押さえ。	密(5mm程以下の砂粒を多く含む。)	良好	外面：にぶい黄橙～黒褐色 内面：にぶい黄褐色	外面にスス付着。
455	949	K36グリッド谷部V-1層	第124図 PL50-2	土師器 甕	器高：5.2△ 口径：14.6※	外面：ヨコナデ。 内面：口縁部～頸部ヨコナデ。胴部ケズリ。	密(2mm程度の砂粒を含む。)	良好	内外面：橙色	
456	778 988	K33/L34グリッド谷部V-1層	第124図	土師器 高坏	器高：7.8△	外面：坏部ハケ目、脚部タテミガキ。 内面：ミガキ。	密(1～3mmの長石を含む。)	良好	内外面：橙色	
457	2001 2002 2011 2012 2023	道1	第135図 PL51-1	須恵器 坏蓋	器高：3.6△ 口径：18.8※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
458	1500	道1	第135図 PL51-1	須恵器 高台付坏	器高：4.6 口径：5.7※ 底径：8.0※	外面：回転ナデ。底部ヘラ切り後回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	やや不良	内外面：灰色	
459	2006 2008 2009 2010	道1	第135図 PL51-2	須恵器 高台付坏	器高：4.6△ 口径：9.0※ 底径：7.4※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	やや不良	内外面：灰色	
460	1500	道1	第135図 PL51-1	須恵器 高台付坏	器高：4.2 口径：12.2※ 底径：7.8※	外面：回転ナデ。底部ヘラ切り後回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	やや不良	内外面：灰色	ほぼ完存。
461	1500	道1	第135図 PL51-1	須恵器 坏	器高：7.3 口径：15.6※ 底径：9.2※	外面：回転ナデ。底部ヘラ切りか。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
462	2012	道1	第135図 PL51-2	須恵器 高台付坏	器高：5.8△ 口径：16.4※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
463	2004 2013 2029 2031	道1	第135図 PL51-2	須恵器 坏または碗	器高：5.95△ 口径：17.4※ 底径：10.0※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
464	2009 2012 2028 2032	道1	第135図 PL51-2	須恵器 高台付皿	器高：3.2 口径：16.0※ 底径：11.8※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：浅黄色	
465	1500	道1	第135図 PL51-2	須恵器 長頸瓶	器高：1.2△ 口径：12.4※	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密	良好	内外面：灰色	
466	1228	テラス1下流土	第136図 PL51-2	須恵器 長頸瓶	器高：3.8△	外面：回転ナデ。 内面：回転ナデ。	密(1～2mmの石英粒を含む。)	良好	内外面：灰色(やや白みがる。)	

第3章 調査の成果

表22 石器観察表(1)

△現存値

遺物番号	遺構名 層位	取上 番号	挿図 PL	種類	石材	法量 (cm)	手法上の特徴	重量 (g)
S 1	集石土坑 1	416	第21図 PL59-2	凹石	デイスাইト	最大長:13.2 最大厚:6.2	楕円形を呈す安山岩製凹石。片面に敲打面あり。	1120.00
S 2	集石土坑 3 2層	519	第24図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.3	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.46
S 3	集石土坑 3 2層	538	第24図 PL55-1	楔形石器	黒曜石	最大長:1.85 最大厚:1.0	黒曜石製楔形石器	4.39
S 4	集石土坑 5	752	第28図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:1.6△ 最大厚:0.4	黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.52
S 5	集石土坑 6	1144	第30図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:2.35 最大厚:0.3	細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.64
S 6	集石土坑 6	1144	第30図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。挟り浅い。	0.74
S 7	集石土坑 6	1144	第30図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.2	小型で扁平な黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.25
S 8	集石土坑 6	1153	第30図 PL58-5	磨製石斧	砂岩	最大長:7.45 最大厚:1.8	小型の定角式磨製石斧。全面研磨。完形。	106.00
S 9	集石土坑 7	1934	第32図 PL58-2	石皿	溶岩	最大長:16.9△ △最大厚:7.5	石皿。約3/4欠損。使用面は大きく窪む。	2043.00
S 10	落とし穴 4	585	第37図 PL57-2	石鏃	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.4	幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.27
S 11	土坑 1	321	第61図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:2.15 最大厚:0.35	黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。挟り浅い。	0.67
S 12	土坑 1	321	第61図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.4	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.4
S 13	土坑 3	1360	第64図 PL55-1	調整体	黒曜石	最大長:2.9 最大厚:0.7	不整形形状を呈す黒曜石製調整体。表面調整剥離。	2.88
S 14	土坑36	1527	第80図 PL55-1	石鏃	黒曜石	最大長:2.15 最大厚:0.6	厚手の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.87
S 15	P30W	574	第82図 PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:1.35△ 最大厚:0.2	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部先端一部欠く。	0.25
S 16	K33グリッド 谷部V-0層	1571	第83図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.95 最大厚:0.35	黒曜石製平基無茎石鏃。完形。	0.76
S 17	K33グリッド 谷部V-0層	1562	第83図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.4△ 最大厚:0.4	細長で厚手の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	1.03
S 18	K33グリッド 谷部V-0層	1914	第83図 PL56-2	楔形石器	黒曜石	最大長:2.7 最大厚:0.9	逆三角形形状を呈す黒曜石製楔形石器。	3.83
S 19	K33グリッド 谷部V-0層	1562	第83図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.25 最大厚:0.35	黒曜石製石鏃未成品。擦痕認められる。	0.39
S 20	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.6	大型で幅広、肉厚の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	2.54
S 21	L35グリッド 谷部V-1層	773	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.95 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.61
S 22	L35グリッド 谷部V-1層	984	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.88 最大厚:0.37	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.58
S 23	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.35 最大厚:0.3	細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.54
S 24	L35グリッド 谷部V-1層	1584	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.8 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.51
S 25	L35グリッド 谷部V-1層	1584	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.36
S 26	L35グリッド 谷部V-1層	963	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.41
S 27	K34グリッド 谷部V-1層	995	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.6 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.43
S 28	L35グリッド 谷部V-1層	773	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.55 最大厚:0.3	小型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.27
S 29	L34グリッド 谷部V-1層	933	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.55 最大厚:0.2	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.28
S 30	L34グリッド 谷部V-1層	778	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.3 最大厚:0.2	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.17
S 31	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.3 最大厚:0.2	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.14
S 32	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図	石鏃	黒曜石	最大長:1.4 最大厚:0.25	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.25
S 33	L35グリッド 谷部V-1層	790	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:0.9 最大厚:0.3	非常に小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.25
S 34	L34グリッド 谷部V-1層	775	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.75 最大厚:0.4	黒曜石製凹基無茎石鏃。挟り浅い。完形。	0.80
S 35	L35グリッド 谷部V-1層	594	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.3	小型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。縁辺部のみ剥離。完形。	0.27
S 36	L35グリッド 谷部V-1層	594	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.15 最大厚:0.35	小型の凹基無茎石鏃。挟り浅い。完形。	0.34
S 37	K33グリッド 谷部V-1層	1564	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.5△ 最大厚:0.2	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.26
S 38	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.2	小型の黒曜石製平基無茎石鏃。一部欠く。	0.28
S 39	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.2△ 最大厚:0.25	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.28
S 40	L35グリッド 谷部V-1層	1584	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.8 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。片側欠損。	0.19
S 41	L34グリッド 谷部V-1層	779	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.4 最大厚:0.4	小型で肉厚の黒曜石製平基無茎石鏃。完形。	0.55
S 42	L35グリッド 谷部V-1層	781	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.3△ 最大厚:0.3	黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.53
S 43	K34グリッド 谷部V-1層	785	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.9 最大厚:0.35	大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.94
S 44	L35グリッド 谷部V-1層	790	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.5△ 最大厚:0.3	大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.79
S 45	L35グリッド 谷部V-1層	723	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.55 最大厚:0.35	大型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.67
S 46	K33グリッド 谷部V-1層	1564	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.3 最大厚:0.3	細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。	0.46

表23 石器観察表(2)

△現存値

遺物番号	遺構層位名	取上番号	挿図PL	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)
S47	K34グリッド谷部V-1層	786	第86図	石鏃	黒曜石	最大長:2.65 最大厚:0.3	最大幅:1.4 大型で細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。ほぼ完成。	0.81
S48	L35グリッド谷部V-1層	723	第86図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.6 最大厚:0.4	最大幅:1.5△ 大型で細身の黒曜石製凹基無莖石鏃。かえり部一部欠く。	1.26
S49	L35グリッド谷部V-1層	984	第86図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.3	最大幅:1.2 細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.52
S50	L34グリッド谷部V-1層	787	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.6	最大幅:1.6 黒曜石製石鏃未成品。平基か。	1.74
S51	L34グリッド谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.45 最大厚:0.6	最大幅:1.75 黒曜石製石鏃未成品。母岩面残す。	1.97
S52	L34グリッド谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.3	最大幅:1.4 黒曜石製石鏃未成品。先端部欠く。平基か。	0.86
S53	L34グリッド谷部V-1層	787	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.65 最大厚:0.4	最大幅:1.4 黒曜石製石鏃未成品。平基か。	0.93
S54	L34グリッド谷部V-1層	787	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.4	最大幅:1.35 黒曜石製凹基無莖石鏃未成品。	1.02
S55	L34グリッド谷部V-1層	779	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.0 最大厚:0.4	最大幅:1.5 黒曜石製石鏃未成品。平基か。	1.01
S56	K34グリッド谷部V-1層	995	第86図 PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.55 最大厚:0.2	最大幅:1.6 薄手の黒曜石製石鏃未成品。	0.62
S57	K33グリッド谷部V-1層	1564	第86図 PL54	石鏃	サヌカイト	最大長:2.65 最大厚:0.35	最大幅:1.55 大型で細身のサヌカイト製凹基無莖石鏃。完成。	1.61
S58	K34グリッド谷部V-1層	785	第86図 PL52	石鏃	サヌカイト	最大長:1.8△ 最大厚:0.3	最大幅:1.4 サヌカイト製平基無莖石鏃。先端部欠く。	0.67
S59	J35グリッド谷部V-1層	969	第86図 PL54	石鏃	サヌカイト	最大長:1.8 最大厚:0.3	最大幅:1.3 サヌカイト製凹基無莖石鏃。完成。	0.43
S60	L34グリッド谷部V-1層	779	第87図 PL56-2	石匙	サヌカイト	最大長:5.05 最大厚:0.7	最大幅:3.2 サヌカイト製横型石匙。完成。	9.61
S61	L34グリッド谷部V-1層	779	第87図 PL56-2	楔形石器	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.4	最大幅:1.6 断面菱形を呈す黒曜石製楔形石器	1.09
S62	L35グリッド谷部V-1層	594	第87図 PL56-2	削器	黒曜石	最大長:3.2△ 最大厚:0.7	最大幅:2.3 三角形を呈すと思われる削器。一方に刃部、一部欠損。	4.29
S63	L34グリッド谷部V-1層	779	第87図 PL56-1	石核	黒曜石	最大長:2.85 最大厚:2.0	最大幅:2.4 五角形状を呈す黒曜石石核。	8.57
S64	K35グリッド谷部V-1層	1550	第87図 PL58-4	磨製石斧	頁岩	最大長:5.95△ 最大厚:3.05	最大幅:4.25△ 太い磨製石斧片。刃部欠く。全面研磨。	127.00
S65	K35グリッド谷部V-1層	940	第87図 PL58-4	敲石	デイサイト	最大長:8.1 最大厚:4.3	最大幅:7.75 扁平で円形を呈す敲石。敲打面は一面。一部剥離。	382.00
S66	L34グリッド谷部V-1層	784	第87図 PL58-3	石皿	溶岩	最大長:27.8△ 最大厚:13.7	最大幅:30.1△ 大型の石皿。一部欠く。使用面は大きく窪む。	13260.00
S67	L34グリッド谷部V-2層	1173	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.25 最大厚:0.3	最大幅:1.65 大型の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.72
S68	L35グリッド谷部V-2層	1320	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.86 最大厚:0.3	最大幅:1.33 黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.46
S69	L34グリッド谷部V-2層	1171	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.0 最大厚:0.3	最大幅:1.35 黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.54
S70	K34グリッド谷部V-2層	1365	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.0△ 最大厚:0.25	最大幅:1.5△ 大型の黒曜石製石鏃刃部。基部欠く。	0.66
S71	L33グリッド谷部V-2層	1931	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.1△ 最大厚:0.4	最大幅:1.65△ 大型の黒曜石製石鏃刃部。基部欠く。	1.02
S72	L34グリッド谷部V-2層	1173	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.35 最大厚:0.45	最大幅:1.3△ 大型の黒曜石製凹基無莖石鏃。かえり部一方欠く。	0.85
S73	K34グリッド谷部V-2層	1382	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.1△ 最大厚:0.35	最大幅:1.85△ 大型の黒曜石製石鏃刃部。基部欠く。	1.07
S74	L34グリッド谷部V-2層	1167	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.0△ 最大厚:0.4	最大幅:1.4△ 大型の黒曜石製石鏃。基部欠く。平基か。	0.96
S75	L34グリッド谷部V-2層	1179	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.75△ 最大厚:0.25	最大幅:1.3△ 黒曜石製石鏃。基部欠く。凹基か。	0.38
S76	L34グリッド谷部V-2層	1167	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.55△ 最大厚:0.4	最大幅:1.5 黒曜石製凹基無莖石鏃。先端部欠く。	0.58
S77	L34グリッド谷部V-2層	1169	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.45△ 最大厚:0.25	最大幅:1.35 黒曜石製凹基無莖石鏃。先端部欠く。	0.37
S78	L34グリッド谷部V-2層	1167	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.4△ 最大厚:0.25	最大幅:1.4 黒曜石製凹基無莖石鏃。先端部欠く。	0.37
S79	K34グリッド谷部V-2層	1379	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.3	最大幅:1.2 小型の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.35
S80	L34グリッド谷部V-2層	1192	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.25	最大幅:1.35 小型の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.35
S81	K33グリッド谷部V-2層	991	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.3 最大厚:0.3	最大幅:1.25 小型の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.37
S82	L34グリッド谷部V-2層	1184	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.35 最大厚:0.35	最大幅:1.2 小型の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.31
S83	L34グリッド谷部V-2層	1184	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.3 最大厚:0.3	最大幅:1.3 小型の黒曜石製凹基無莖石鏃。挟り浅い。	0.29
S84	L34グリッド谷部V-2層	1190	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.6 最大厚:0.2	最大幅:1.45 黒曜石製凹基無莖石鏃。挟り深い。完成。	0.38
S85	K33グリッド谷部V-2層	1755	第92図 PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.45△ 最大厚:0.21	最大幅:1.40 黒曜石製凹基無莖石鏃。先端部欠く。	0.3
S86	L34グリッド谷部V-2層	1167	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.0 最大厚:0.33	最大幅:1.37 細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。挟り浅い。完成。	0.59
S87	L34グリッド谷部V-2層	1188	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.55 最大厚:0.4	最大幅:1.05 細身の黒曜石製凹基無莖石鏃。挟り浅い。完成。	0.45
S88	L34グリッド谷部V-2層	1177	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.8 最大厚:0.3	最大幅:1.5 大型で細身の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.83
S89	K34グリッド谷部V-2層	1373	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.5 最大厚:0.35	最大幅:1.3 細身の黒曜石製凹基無莖石鏃。挟り浅い。完成。	0.82
S90	L34グリッド谷部V-2層	1169	第92図 PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.35 最大厚:0.38	最大幅:1.25△ 細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。かえり部一部欠く。	0.61
S91	L35グリッド谷部V-2層	1906	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.15 最大厚:0.35	最大幅:1.3 細身の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.63
S92	K34グリッド谷部V-2層	1758	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.25	最大幅:1.25 非常に細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。完成。	0.33
S93	L35グリッド谷部V-2層	1906	第92図 PL54	石鏃	黒曜石	最大長:3.0 最大厚:0.4	最大幅:1.1 細長の黒曜石製凹基無莖石鏃。側縁一部欠く。	0.65

第3章 調査の成果

表24 石器観察表(3)

△現存値

遺物番号	遺構層位名	取上番号	挿図PL	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)
S94	L34グリッド谷部V-2層	1169	第92図PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.75 最大厚:0.2	最大幅:0.9 細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.24
S95	L34グリッド谷部V-2層	1169	第92図PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.15	最大幅:0.9△ 小型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.21
S96	L35グリッド谷部V-2層	1906	第92図PL52	石鏃	黒曜石	最大長:3.0△ 最大厚:0.3	最大幅:1.6△ 大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.89
S97	L33グリッド谷部V-2層	1797	第92図PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.25	最大幅:1.4 大型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.64
S98	K33グリッド谷部V-2層	1945	第92図PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.3	最大幅:1.8△ 黒曜石製凹基無茎石鏃。片側使用時に欠損か。	0.42
S99	L34グリッド谷部V-2層	1188	第92図PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.8 最大厚:0.25	最大幅:1.2 異形の黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.45
S100	L34グリッド谷部V-2層	1173	第92図PL54	石鏃	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.5	最大幅:1.5 肉厚の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部細い。完形。	0.71
S101	L35グリッド谷部V-2層	1906	第92図PL54	石鏃	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.6	最大幅:1.6 幅広厚手の黒曜石製平基無茎石鏃。完形。	1.10
S102	L34グリッド谷部V-2層	1196	第92図PL52	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.4	最大幅:1.2 小型の黒曜石製平基無茎石鏃。完形。	0.54
S103	K34グリッド谷部V-2層	1379	第92図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.05 最大厚:0.2	最大幅:1.15 黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。	0.41
S104	L35グリッド谷部V-2層	1906	第92図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.8 最大厚:0.3	最大幅:1.65 黒曜石製石鏃未成品。平基か。	0.67
S105	L33グリッド谷部V-2層	1797	第92図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.95 最大厚:0.8	最大幅:1.6 黒曜石製石鏃未成品。木葉形か。	3.82
S106	K33グリッド谷部V-2層	1945	第92図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.3 最大厚:0.6	最大幅:1.2 黒曜石製石鏃未成品。木葉形か。	1.73
S107	K34グリッド谷部V-2層	1367	第92図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.3	最大幅:1.25 黒曜石製石鏃未成品。平基か。	0.63
S108	K34グリッド谷部V-2層	1947	第93図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.6	最大幅:1.8 黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。	2.10
S109	L35グリッド谷部V-2層	1906	第93図PL54	石鏃	サヌカイト	最大長:2.75 最大厚:0.35	最大幅:1.85 大型で細長のサヌカイト製凹基無茎石鏃。完形。	1.24
S110	L35グリッド谷部V-2層	1200	第93図PL54	石鏃	サヌカイト	最大長:2.0 最大厚:0.25	最大幅:1.1 細長のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。完形。	0.60
S111	L34グリッド谷部V-2層	1169	第93図PL52	石鏃	サヌカイト	最大長:1.6 最大厚:0.15	最大幅:0.9△ 扁平で細長のサヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.26
S112	K34グリッド谷部V-2層	1785	第93図PL56-2	石匙	サヌカイト	最大長:4.5 最大厚:0.45	最大幅:1.9 サヌカイト製の縦型石匙。完形。	3.43
S113	J35グリッド谷部V-2層	1741	第93図PL56-2	石錐	黒曜石	最大長:4.35 最大厚:0.8	最大幅:1.1 不定形な黒曜石製石錐。	3.55
S114	L34グリッド谷部V-2層	1179	第93図PL56-2	削器	黒曜石	最大長:6.35 最大厚:1.35	最大幅:4.9 断面三角形状を呈す黒曜石製削器。一側縁に湾曲した刃部。	37.59
S115	K34グリッド谷部V-2層	1770	第93図PL56-2	削器	黒曜石	最大長:3.1 最大厚:1.4	最大幅:2.9 楕円形、断面三角形状を呈す削器。一側縁に刃部。	10.92
S116	K33-34グリッド谷部V-2層	1329	第93図PL56-2	削器	サヌカイト	最大長:4.5 最大厚:0.7	最大幅:2.8 台形状を呈すサヌカイト製削器。一側縁に刃部。	11.51
S117	K35グリッド谷部V-2層	1793	第93図PL56-2	削器	サヌカイト	最大長:7.85 最大厚:0.6	最大幅:5.0 扁平な三角形状を呈すサヌカイト製削器。一側縁に刃部。	29.00
S118	L34グリッド谷部V-2層	1171	第93図PL56-2	楔形石器	黒曜石	最大長:3.45 最大厚:1.2	最大幅:2.8 黒曜石製楔形石器。	10.73
S119	K36グリッド谷部V-2層	1746	第93図PL56-1	楔形石器	黒曜石	最大長:3.4 最大厚:1.2	最大幅:1.75 柱状の黒曜石製楔形石器。	8.40
S120	J36グリッド谷部V-2層	1568	第93図PL56-1	石核	黒曜石	最大長:2.9 最大厚:1.35	最大幅:2.25 小型の黒曜石石核。	10.37
S121	L34グリッド谷部V-2層	1175	第93図PL56-1	石核	黒曜石	最大長:12.3 最大厚:1.9	最大幅:4.5 大型で細長の黒曜石石核。	106.00
S122	L34グリッド谷部V-2層	1175	第93図PL56-2	二次加工のある剥片	サヌカイト	最大長:10.3 最大厚:0.85	最大幅:5.0 縦長のサヌカイト剥片。縁部調整あり。	49.67
S123	K34グリッド谷II層	1379	第93図PL56-1	剥片	黒曜石	最大長:7.15 最大厚:1.1	最大幅:4.9 黒曜石剥片。	36.87
S124	K34グリッド谷部V-2層	1181	第94図PL58-4	磨製石斧	頁岩	最大長:7.55△ 最大厚:1.85	最大幅:4.25 扁平な磨製石斧。刃部欠く。	85.0
S125	L34グリッド谷部V-2層	1194	第94図PL58-4	切目石鏃	粘板岩	最大長:4.9 最大厚:0.7	最大幅:2.75 小型扁平で細長の切れ目石鏃。	13.00
S126	L34グリッド谷部V-2層	1179	第94図PL59-1	打欠石鏃	デイサイト	最大長:5.1 最大厚:1.4	最大幅:3.3 長楕円形を呈す小型の打ち欠き石鏃。	35.00
S127	K34グリッド谷部V-2層	1162	第94図PL59-1	打欠石鏃	デイサイト	最大長:5.035 最大厚:1.95	最大幅:4.0 楕円形を呈す小型の打ち欠き石鏃。	58.00
S128	K33グリッド谷部V-2層	1920	第94図PL59-1	切目石鏃	粘板岩	最大長:8.2 最大厚:0.95	最大幅:2.75 扁平棒状の小型の切れ目石鏃。	32.00
S129	L34グリッド谷部V-2層	1165	第94図PL59-1	打欠石鏃	デイサイト	最大長:8.7 最大厚:2.65	最大幅:5.0 長楕円形を呈す大型の打ち欠き石鏃。	160.00
S130	K34グリッド谷部V-2層	1765	第94図PL59-1	打欠石鏃	角閃石安山岩	最大長:9.3 最大厚:4.15	最大幅:6.65 長楕円形を呈す大型の打ち欠き石鏃。	297.00
S131	K34グリッド谷部V-2層	1778	第94図PL59-1	打欠石鏃	デイサイト	最大長:8.6 最大厚:2.45	最大幅:6.05 長楕円形を呈す大型の打ち欠き石鏃。	169.00
S132	K34グリッド谷部V-2層	1367	第94図PL58-4	凹石	角閃石安山岩	最大長:11.1 最大厚:5.3	最大幅:10.7 扁平で円形を呈す凹石。両面中央に敲打面あり。	834.00
S133	L34グリッド谷部V-2層	1165	第94図PL58-4	磨石	デイサイト	最大長:13.25 最大厚:5.05	最大幅:8.5 長楕円形を呈す磨石。全面研磨。	842.00
S134	K34グリッド谷部V-2層	1161	第94図PL58-1	磨石	デイサイト	最大長:11.15 最大厚:4.5	最大幅:9.5 扁平で楕円形を呈す磨石。全面研磨。	828.00
S135	L34グリッド谷部V-2層	1194	第94図PL58-4	磨石	花崗岩	最大長:9.6 最大厚:5.5	最大幅:8.3 扁平円形を呈す磨石。全面研磨。	640.00
S136	L34グリッド谷部V-3層	760	第95図PL52	石鏃	黒曜石	最大長:2.65△ 最大厚:0.35	最大幅:1.5△ 大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠損。	0.83
S137	K35グリッド谷部V-3層	739	第95図PL56-2	石鏃	サヌカイト	最大長:2.5 最大厚:0.25	最大幅:1.45△ 大型で細長のサヌカイト製平基無茎石鏃。基部一部欠く。	1.54
S138	L34グリッド谷部V-3層	759	第95図PL56-2	削器	サヌカイト	最大長:3.4 最大厚:0.6	最大幅:3.4 撥形の小型の黒曜石製削器。一側縁に湾曲した刃部。	6.35
S139	K35グリッド谷部V-3層	800	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.55 最大厚:0.4	最大幅:2.2 大型で幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.55
S140	I31グリッドIV-1層	354	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.4	最大幅:1.55 大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.97

表25 石器観察表(4)

△現存値

遺物番号	遺構層位石	取上番号	挿図PL	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)
S141	I2グリッド表土	2139	第97図PL57	石鏃	黒曜石	最大長:2.15△ 最大厚:0.35	最大幅:1.65 大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。挟り深い。	1.33
S142	L34グリッド表土	107	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.3	最大幅:1.4△ 大型の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。挟り深い。	0.73
S143	J30グリッド	776	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.36	最大幅:1.97 大型で幅広い黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.33
S144	J35グリッド表土	339	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.4	最大幅:1.5 大型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.74
S145	L35グリッド表土	599	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.15 最大厚:0.55	最大幅:1.7 厚手の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.19
S146	K34グリッド	129	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.4△ 最大厚:0.25	最大幅:1.4△ 黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部・かえり部一部欠く。	0.63
S147	K33グリッド	912	第97図	石鏃	黒曜石	最大長:2.0 最大厚:0.35	最大幅:1.3 黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.65
S148	L34グリッド表土	107	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.82 最大厚:0.3	最大幅:1.54 扁平な黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.59
S149	K35グリッド	948	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.3	最大幅:1.5 黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.47
S150	H32グリッドIV-1層	507	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.35	最大幅:1.15 黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.50
S151	H31グリッドIV-1層	360	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.3	最大幅:1.15 黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.43
S152	J32グリッド表土	341	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.65 最大厚:0.35	最大幅:1.3△ 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.45
S153	J31グリッドIV-1層	365	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.35	最大幅:1.2 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.42
S154	L34グリッド表土	107	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.62 最大厚:0.25	最大幅:1.35 扁平な黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.35
S155	C3グリッド	251	第97図	石鏃	黒曜石	最大長:1.5△ 最大厚:0.3	最大幅:1.25 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.39
S156	K32グリッド表土	737	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.45 最大厚:0.3	最大幅:1.2 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.33
S157	K31グリッド	369	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.6 最大厚:0.2	最大幅:1.05△ 小型でやや細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.31
S158	I32グリッド表土	104	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.3 最大厚:0.3	最大幅:1.3 小型で幅広い黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.30
S159	L35グリッド表土	599	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.55 最大厚:0.4	最大幅:1.15 厚手の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.48
S160	L33グリッド	791	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.4 最大厚:0.25	最大幅:1.2 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.32
S161	J32グリッドIV-1層	526	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.65 最大厚:0.45	最大幅:1.3 厚手で小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.63
S162	L35グリッド表土	109	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.75 最大厚:0.35	最大幅:1.3 不定形な黒曜石製凹基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.64
S163	西区表土	102	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.5△ 最大厚:0.25	最大幅:1.1△ 黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.36
S164	L33グリッド表土	591	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.6△ 最大厚:0.2	最大幅:1.15 黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.27
S165	L34グリッド表土	107	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.1△ 最大厚:0.3	最大幅:0.9△ 小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.29
S166	K33グリッド	905	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.25△ 最大厚:0.2	最大幅:1.25 小型で扁平な黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。挟り深い。	0.25
S167	L34グリッド表土	389	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.5△ 最大厚:0.2	最大幅:1.2 黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.32
S168	K31グリッド攪乱土	709	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.35△ 最大厚:0.35	最大幅:1.3 黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.51
S169	J31グリッドIV-1層	122	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.05 最大厚:0.2	最大幅:1.05 非常に小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.16
S170	K33グリッド攪乱土	1594	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.0 最大厚:0.35	最大幅:1.05 非常に小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.26
S171	J32グリッド表土	168	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.15 最大厚:0.25	最大幅:0.75 非常に小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。一面のみ刃部調整。完形。	0.16
S172	K31グリッドIV-2層	558	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:0.9 最大厚:0.25	最大幅:0.8 非常に小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.15
S173	K33グリッド	905	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.4 最大厚:0.2	最大幅:0.9△ 小型で扁平な黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。	0.15
S174	K34グリッド	798	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.65△ 最大厚:0.2	最大幅:1.3 黒曜石製平基無茎石鏃か。	0.46
S175	J30グリッドIV-1層	349	第97図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.25	最大幅:1.4 黒曜石製平基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.65
S176	J32グリッド表土	187	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:3.0 最大厚:0.35	最大幅:1.6 非常に大型で細長い凹基無茎石鏃。完形。	0.85
S177	J31グリッドIV-1層	365	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:3.05 最大厚:0.3	最大幅:1.2 大型で細長い黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.73
S178	K31グリッドIV-1層	130	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.65 最大厚:0.5	最大幅:1.9 厚手の大型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	1.18
S179	K33グリッド	944	第98図	石鏃	黒曜石	最大長:2.15 最大厚:0.3	最大幅:1.2 大型で細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.49
S180	K32グリッド表土	737	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.9 最大厚:0.25	最大幅:1.1 細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.44
S181	H34グリッドIV-2層	1338	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.3 最大厚:0.3	最大幅:1.35 大型で細野荷の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.74
S182	L33グリッド表土	591	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.2 最大厚:0.35	最大幅:1.25 細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.47
S183	L35グリッド表土	599	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.95 最大厚:0.4	最大幅:1.8 幅広くて鉄身細い黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.48
S184	J33グリッド表土	327	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:2.5△ 最大厚:0.3	最大幅:1.1△ 大型で細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.89
S185	K33グリッド	905	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.95△ 最大厚:0.15	最大幅:1.0△ 扁平で大型、細身の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.28
S186	K33グリッド	905	第98図PL53	石鏃	黒曜石	最大長:1.7△ 最大厚:0.3	最大幅:1.3 細長の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く。	0.54
S187	K33グリッド	935	第98図PL52	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.5	最大幅:1.2 細長の黒曜石製石鏃未成品。	1.32
S188	K33グリッド	924	第98図PL53	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.3 最大厚:0.3	最大幅:1.3 黒曜石製石鏃未成品。	0.71

第3章 調査の成果

表26 石器観察表(5)

△現存値

遺物番号	遺構位名	取上番号	挿図PL	種類	石材	法量(cm)	手法上の特徴	重量(g)	
S189	L33グリッド表土	591	第98図PL53	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.7 最大厚:0.4	最大幅:1.4△	幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。かえり部一方欠く。	0.58
S190	D3グリッド攪乱土	250	第98図	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.5 最大厚:0.4	最大幅:1.2	黒曜石製石鏃未成品。裏面調整なし。平基か。	0.49
S191	L35グリッド表土	599	第98図PL53	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.55 最大厚:0.55	最大幅:1.8	大型の黒曜石製平基無茎石鏃未成品。断面長方形。	2.40
S192	L35グリッド表土	599	第98図PL53	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.1 最大厚:0.45	最大幅:2.0	幅広の黒曜石製石鏃未成品。	1.13
S193	L34グリッド表土	389	第98図PL53	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.25△ 最大厚:0.25	最大幅:1.4	黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。挟り深い。先端部欠く。	0.34
S194	E3グリッド攪乱土	215	第98図PL57-2	石鏃	サヌカイト	最大長:2.8 最大厚:0.35	最大幅:1.95	大型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	1.48
S195	F区表土	1897	第98図	石鏃	サヌカイト	最大長:2.7 最大厚:0.3	最大幅:1.5	大型で細長のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	0.99
S196	L33グリッド	798	第98図PL53	石鏃	サヌカイト	最大長:2.3 最大厚:0.4	最大幅:1.75△	大型で細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。	0.65
S197	J35グリッド表土	338	第98図PL53	石鏃	サヌカイト	最大長:2.55△ 最大厚:0.35	最大幅:1.2△	大型で細身のサヌカイト製凹基無茎石鏃。先端部・かえり部一部欠く。	0.78
S198	E3グリッド攪乱土	215	第98図	石鏃未成品	サヌカイト	最大長:1.9 最大厚:0.3	最大幅:1.3	サヌカイト製平基無茎石鏃未成品。	0.74
S199	H12グリッド攪乱土	459	第98図PL57-2	石鏃	サヌカイト	最大長:2.0 最大厚:0.35	最大幅:1.55	サヌカイト製平基無茎石鏃。完形。	0.88
S200	H14グリッド攪乱土	461	第98図PL57-2	石鏃	サヌカイト	最大長:2.35 最大厚:0.4	最大幅:1.65	大型のサヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り浅い。	1.66
S201	E6グリッド攪乱土	96	第98図PL57-2	石鏃	サヌカイト	最大長:1.7△ 最大厚:0.3	最大幅:1.55△	サヌカイト製凹基無茎石鏃。挟り深い。かえり部欠く。	0.62
S202	I32グリッド攪乱土	525	第98図	石鏃	サヌカイト	最大長:1.6 最大厚:0.2	最大幅:1.2△	扁平なサヌカイト製凹基無茎石鏃。かえり部一方欠く。	0.39
S203	K35グリッド	800	第98図PL53	石鏃	サヌカイト	最大長:1.65 最大厚:0.5	最大幅:1.2	サヌカイト製平基無茎石鏃。ほぼ完形。	0.82
S204	J32グリッド遺構外	383	第98図PL57-1	石匙	サヌカイト	最大長:4.6 最大厚:0.6	最大幅:2.8	小型の横型石匙。	7.54
S205	K34グリッド	919	第98図PL57-1	石匙	サヌカイト	最大長:3.7 最大厚:0.45	最大幅:2.3	サヌカイト製縦型石匙。つまみ斜めに付く。	3.23
S206	I32グリッド攪乱土	525	第98図PL57-1	石錐	サヌカイト	最大長:2.8△ 最大厚:0.3	最大幅:1.1	扁平なサヌカイト製石錐。基部欠く。	0.75
S207	L35グリッド黒色土	733	第98図PL57-1	削器	サヌカイト	最大長:4.5 最大厚:0.6	最大幅:2.3	横長のサヌカイト製削器。	7.44
S208	K33グリッド	912	第99図PL57-1	楔形石器	黒曜石	最大長:2.95 最大厚:0.9	最大幅:1.85	断面三角形状を呈す黒曜石製楔形石器。	4.29
S209	K31グリッド遺構外	358	第99図PL57-1	楔形石器	黒曜石	最大長:2.95 最大厚:1.05	最大幅:2.0	断面三角形状を呈す黒曜石製楔形石器。	6.06
S210	I31グリッド攪乱土	191	第99図PL57-1	楔形石器	サヌカイト	最大長:1.9 最大厚:0.5	最大幅:1.5	サヌカイト製楔形石器。	1.91
S211	D3グリッド表土	94	第99図PL57-2	楔形石器	黒曜石	最大長:2.4 最大厚:0.2	最大幅:1.1	不整形な形状を呈す黒曜石製楔形石器。	0.99
S212	I35グリッド表土	311	第99図PL57-1	二次加工のある剥片	黒曜石	最大長:2.9 最大厚:1.2	最大幅:2.2	平断面三角形状を呈す二次加工のある黒曜石剥片。	4.41
S213	L33グリッド表土	591	第99図PL57-1	加工痕のある剥片	黒曜石	最大長:2.9 最大厚:0.6	最大幅:1.55	J字形を呈す加工痕のある黒曜石剥片。	2.60
S214	K33グリッド	796	第99図PL57-1	加工痕のある剥片	黒曜石	最大長:2.25 最大厚:0.5	最大幅:1.55	黒曜石の加工痕のある剥片。	2.44
S215	西区表土	102	第99図	両極剥片	黒曜石	最大長:2.0 最大厚:0.35	最大幅:1.5	扁平な黒曜石両極剥片。	1.39
S216	K35グリッド	922	第99図PL57-4	原石	黒曜石	最大長:10.65 最大厚:5.7	最大幅:9.55	大型の黒曜石原石。	528.00
S217	西区一括遺構外	1952	第99図PL59-2	打欠石鏃	デイサイト	最大長:4.95 最大厚:1.2	最大幅:3.15	小型で長楕円形を呈す打ち欠き石鏃。	23.00
S218	A区	49	第99図PL59-2	打欠石鏃	デイサイト	最大長:4.4 最大厚:1.45	最大幅:4.0	小型で不定形な打ち欠き石鏃。打ち欠きは1箇所。	27.00
S219	A区	49	第99図PL59-2	打欠石鏃	デイサイト	最大長:5.2 最大厚:1.2	最大幅:3.0	長楕円形を呈す小型の打ち欠き石鏃。	36.00
S220	I31グリッド表土	173	第99図PL59-1	打欠石鏃	デイサイト	最大長:5.95△ 最大厚:1.7	最大幅:4.35	楕円形を呈す中型の打ち欠き石鏃。	54.00
S221	J2グリッド	18	第99図	打欠石鏃	デイサイト	最大長:6.5 最大厚:1.8	最大幅:3.7	長楕円形を呈す小型の打ち欠き石鏃。	70.50
S222	J2グリッド	25	第99図	打欠石鏃	デイサイト	最大長:6.0 最大厚:1.5	最大幅:3.8	楕円形を呈す打ち欠き石鏃。裏面剥離。	36.00
S223	I32グリッド表土	162	第99図PL59-2	石鏃	硬質安山岩	最大長:11.9△ 最大厚:2.2	最大幅:8.9	撥形を呈す小型の打製石鏃。基部欠く。	283
S224	K31グリッド	369	第99図PL58-1	石皿	溶岩	最大長:35.9 最大厚:7.7	最大幅:24.1	楕円形を呈す大型の石皿。使用面はよく使い込まれ、大きく窪んでいる。	7630.00
S225	竪穴建物跡5	230	第111図	石鏃	黒曜石	最大長:1.2△	最大幅:1.4 最大厚:0.3	小型で幅広の黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部欠く	0.36
S226	竪穴建物跡8	1110	第117図PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:1.7	最大幅:1.45 最大厚:0.35	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.56
S227	竪穴建物跡8	1110	第117図	石鏃	黒曜石	最大長:1.3△	最大幅:1.0△ 最大厚:0.3	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部欠く。	0.19
S228	竪穴建物跡8	1121	第117図PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:1.5△	最大幅:1.2△ 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃。先端部・かえり部一方欠く。	0.34
S229	竪穴建物跡8	1120	第117図PL55-2	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.6	最大幅:1.5 最大厚:0.5	幅広の黒曜石製石鏃未成品。	1.02
S230	竪穴建物跡8	1112	第117図PL55-2	楔形石器	黒曜石	最大長:1.4	最大幅:1.5 最大厚:0.45	逆台形状を呈す黒曜石製楔形石器。	1.31
S231	テラス2	1152	第119図PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:2.1	最大幅:1.5 最大厚:0.4	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.90
S232	テラス2	1152	第119図PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:1.9	最大幅:1.2 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃。完形。	0.51
S233	テラス2	1560	第119図PL55-2	石鏃	黒曜石	最大長:1.2△	最大幅:0.9△ 最大厚:0.2	小型の黒曜石製石鏃片。先端部・基部欠く。	0.18
S234	テラス2	1124	第119図PL55-2	石鏃未成品	黒曜石	最大長:1.35	最大幅:1.25 最大厚:0.3	小型の黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。	0.48
S235	テラス2	1557	第119図PL55-2	石匙	サヌカイト	最大長:2.4	最大幅:2.8 最大厚:0.35	サヌカイト製横型石匙。約半分欠損。つまみ大型。	2.53
S236	道6	2274	第141図PL57-2	石鏃未成品	黒曜石	最大長:2.0	最大幅:1.4 最大厚:0.25	黒曜石製凹基無茎石鏃未成品。	0.76
S237	土坑29	585	第193図	石鏃	黒曜石	最大長:1.9	最大幅:1.3△ 最大厚:0.35	黒曜石製凹基無茎石鏃。かえり部一部欠く。	0.81
S238	B区	2149	第97図PL57.3	有茎尖頭器	サヌカイト	最大長:4.05△	再大幅:2.5 最大厚:0.58	サヌカイト製有茎尖頭器。先端部を僅かに欠く。	3.91

表27 玉製品観察表

△現存値

遺物番号	遺構 地区 層位名	取上 番号	挿図/PL	種類	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量(g)	備考
J 1	堅穴建物 1	692	第104図/PL59-4	管玉	碧玉	1.6	0.35	0.2 ~ 0.4	0.17	孔径：0.05 ~ 0.1cm ほぼ完形
J 2	D3	227	第124図/PL59-4	勾玉	蛇紋岩	2.05	1.25	0.60	1.832	孔径：0.15cm
J 3	H17	462	第124図/PL59-4	管玉	碧玉	2.1△	0.5	0.6	1.02	孔径：0.3cm 一部欠損

表28 製鉄関連遺物観察表(1)

構成 番号	挿図 PL	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
1	第153図	B区	1号製鉄炉 地下構造	炉壁	3.0	4.1	2.6	18	1	なし	厚さ2cmほどの炉壁小破片。内面上半と外面下半がやや面をなしているが、表皮が剥離している可能性が高い。側部全周と外面の半分以上が破面になっており、被熱色は褐色基調である。芯部は吸炭きみて、内面下端のごく小範囲が灰白色に被熱する。胎土中には短いスサと粉殻を含んでいる。箱形炉長軸側の炉壁表面破片である。
2		B区	1号製鉄炉 炉床	被熱砂鉄・生砂鉄混在物	-	-	-	268	6	なし	1号製鉄炉の炉床部から回収された土砂中より分離された砂鉄資料である。色調は黒褐色を示し、無光沢で茶褐色気味の被熱砂鉄と生砂鉄の混在物である。また一部に炉壁土に由来する赤褐色の石粒も混在する。砂鉄の粒度は0.15mm大～0.05mm大と幅をもっており、中心粒度は0.1mm大を測る。光沢をもつ砂鉄粒子はやや角ばっており、光沢のない被熱砂鉄は角ばっている粒子から、丸みをもつ粒子までが含まれている。生砂鉄の比率は見かけ上では2割以下か。
3		B区	1号製鉄炉 地下構造	被熱砂鉄・滓粉混在物	-	-	-	443	5	なし	分析資料No.1。分析資料詳細観察表参照。
4	第153図 PL64-2	B区	1号製鉄炉 地下構造	砂鉄焼結塊 (マグネサイト系滓付き・含鉄)	6.55	4.8	3.7	76	6	H(○)	下面が緩やかな平坦面となっている砂鉄焼結塊。全体に錆色で部分的に黒錆が滲んでいる。最大厚みは3.7cm程度で、側部は連続的な破面になる。表面は内部に木炭痕とみられる1cm大以下の窪みが点在する。外面の平坦面は炉壁表面からの剥離面であろう。砂鉄粒子の還元は進んでおり、2mm大程度に膨らんだ部分から、滓化して気孔が目立つ部分まで幅広い。
5	第153図 PL64-2	B区	1号製鉄炉 炉直上	マグネサイト系遺物 (生砂鉄付き・含鉄)	2.8	2.0	1.3	7	3	錆化(△)	左側部寄りの表面が微細な垂れに変わりつつあるマグネサイト系遺物小破片。側部は破面に囲まれ、裏面は剥離面様となる。右半分の表面には焼結した砂鉄部分が露出し、芯部は含鉄部の錆化が進む。
6		B区	1号製鉄炉 地下構造	粒状の滓	-	-	-	1 (17個)	1	なし	総数17点程の「粒状の滓」一括品。径は最大5.5mm大～最小0.4mm大と幅を持っており、形態的にはほぼ正円に近い個体が多い。2個連結した資料や表面の2箇所程度に内部のガスが吹き出したような突起をもつ資料が含まれる。滓表面に微細な気孔が露出し、一見、月面状となる個体あり。色調は粘土質の滓にも似ている。
7		B区	1号製鉄炉 地下構造	粒状の滓	-	-	-	81 (219個)	1	なし	前者と名称的には同じながら、形状の歪んだ個体が目立つ資料である。総点数は219個を数える。小さなじゃがいも状の個体から扁平塊状、さらには滓破片のような形状まで多様な個体が含まれている。大きさは最小2.5mm大から最大1.5cm大の幅をもつ。中空ではなく芯部まで滓主体であるためか、見かけよりやや比重が高い。表面に錆色の見られる個体も1割程度が含まれている。
8	第153図 PL65-3	B区	1号製鉄炉 地下構造	工具付着滓	3.6	2.4	0.4	5	2	なし	側部全周が小破面になった厚さ4mm以下の工具付着滓破片。内面には2単位を数える丸棒状の圧痕が左右方向に伸びている。内面の半分以上が光沢面で、外面は土砂に接して微細な凹凸を生じている。工具表面は1.3cm大程度の丸棒状か。
9	第153図 PL65-3	B区	1号製鉄炉 地下構造	工具付着滓	3.8	1.9	0.6	7	1	なし	前者と同様、やや薄手の工具付着滓破片。側部は全周が小破面に囲まれて最大厚みは3mm程度を測る。内面は平滑ながら光沢はない。外面は微細な皺をもつ半流動状になる。長軸方向がやや弧状に曲がる形態を示す。
10	第153図 PL65-3	B区	1号製鉄炉 地下構造	工具付着滓	2.8	2.3	0.6	8	1	なし	内面の工具痕の曲がり方が強い工具付着滓破片。厚みは最大8mm程度を測り、側部には小破面が巡る。外面は下面側がイガイガしており、上手側の側部は半流動状。滓部の流動性が低く、工具痕は丸棒状の工具の先端部圧痕の可能性が高い。
11	第153図	B区	1号製鉄炉 地下構造	流出孔滓 (工具付着滓付き)	2.8	3.4	1.5	17	1	なし	径3cm大の表面に凹凸が目立つ流出孔滓破片。右側部は明らかな破面で、下手側の側部には工具付着滓を巻き込んでいる。工具付着滓は径1cmほどの丸棒状で、側部の破面は滓化してやや丸みをもつ。流出孔滓としては上下逆の可能性を残す。
12	第153図	B区	1号製鉄炉 地下構造	流出溝滓 (含鉄)	6.0	5.0	2.5	82	3	特L(☆)	分析資料No.2。分析資料詳細観察表参照。
13	第153図 PL65-2	B区	1号製鉄炉 地下構造	流動滓	4.9	1.2	0.7	6	1	なし	極めて細い流動単位が3条以上重層した流動滓破片。左側部が破面で、右側部から上手側の側部にかけては溶先端部が小さな瘤状に収束する。上面には流れ皺あり。炉床の粉炭層に貫入するような形で生成された可能性あり。
14	第153図 PL65-2	B区	1号製鉄炉 地下構造	流動滓	6.1	2.8	0.7	6	1	なし	前者と基本的に類似する細身の流動滓破片。幅4mm程度の流動滓が2条重層したもので、左右の側部がごく狭い破面となる。上面は平滑で、下面は灰色の炉壁粉に接した状態で固化する。
15	第153図	B区	1号製鉄炉 地下構造	炉底塊 (含鉄)	5.4	15.3	3.7	296	2	錆化(△)	側部全周と上面の9割以上が破面になっている炉底塊破片。厚さ3.8cm程度の炉底塊の中核部破片と見られる。上面や上手側の側部が僅かに生きており、下面は幅広く丸みをもった舟底状となる。滓質は緻密で、上手側面に微細な気孔が目立つ。また、下面沿いに錆化部分あり。
16	第153図	B区	1号製鉄炉 地下構造	炉内滓 (含鉄)	3.2	2.5	1.7	23	3	H(○)	黒錆に覆われ、表面の各所に錆影れの欠けが生じている含鉄の炉内滓破片。厚さは2.3cm程度で、側部は全周が破面の可能性をもっている。上面は錆により表皮が剥落きみて、下面は浅い碗形を示す。含鉄部は芯部に広めながら錆化も激しい。
17	第153図 PL65-1	B区	1号製鉄炉 地下構造	鉄塊系遺物 (含鉄)	2.8	4.5	1.7	18	3	H(○)	勾玉状の外観をもつ鉄塊系遺物。表面は錆色の酸化土砂に覆われ、下手側の側部には1cm大を超える突出した錆影れが生じている。左右の側部は破面の可能性を持っており、左上側の側部には砂鉄焼結部が認められる。含鉄の炉内滓的な外観の資料である。
18	第153図 PL65-1	B区	1号製鉄炉 地下構造	鉄塊系遺物 (含鉄)	3.4	1.7	1.0	7	3	L(●)	左側の側部が錆影れによる破面になった小塊状の鉄塊系遺物破片。木炭の隙間に貫入したような外観をもっており、小さなS字状にうねりながら形成されている。表面には点々と錆影れが認められる。
19	第153図	B区	テラス1 粘土面	炉壁 (補修・砂鉄焼結付き・ マグネサイト系滓付き)	6.4	8.8	3.2	171	5	なし	内面に幅広く砂鉄焼結部が確認される炉壁破片。側部全周と外面は破面になっている。焼結した砂鉄の厚みは最大1cm程度で、内面下半はマグネサイト系の滓化をして微細な垂れになる。内面上部は段をなす形で塗られており、粘土単位のつなぎ目の影響を受けた横方向に伸びる窪みの側部にあたる可能性大。外面には短いスサと粉殻を混じえる密度の低い炉壁土が残存する。内面の一部に補修痕らしき部分あり。
20	第153図	B区	テラス1 粘土面	炉壁 (通風孔周辺付き)	11.5	12.1	5.6	183	2	なし	右下の部分が通風孔部周辺と推定される炉壁破片。側部は全周が破面で、外面全体も大破面となる。炉壁内面は溶損が進み、通風孔部に向かって盛り上がる形となる。炉壁側には不規則な窪みや短い垂れが生じ、通風孔部周辺には先端部が丸みをもった垂れが生じている。胎土はスサ入りで練りが甘く、ひび割れも目立つ。左上の部分には胎土中の径4.5cm大の扁平な被熱石が顔を出す。左側部中段の破面の一部分が補修痕をなしている。
21	第153図	B区	テラス1 粘土面	炉壁 (含鉄)	11.3	15.4	2.9	651	5	錆化(△)	右下の部分に10cm大前後の大きさをもつ含鉄の炉内滓が再結合している炉壁破片。炉壁側は炉壁基部から通風孔部にかけての破片で、左右の側部表面には通風孔部周辺が残されている。炉壁は左右の側部と上部に加えて、外面全体が破面になる。炉壁内面は通風孔部が深く溶損して、基部側では突出気味を示す。通風孔部そのものは存在しないが、通風孔部の芯々間隔は9cm前後と推定される。含鉄部の滓部は酸化土砂が厚く、芯部からは黒錆が吹く。

第3章 調査の成果

表29 製鉄関連遺物観察表(2)

構成番号	挿入PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
22	第153区	B区	テラス1 粘土面	工具付着滓	3.0	2.4	0.8	15	1	なし	内面に大振りの工具痕を残す工具付着滓破片。左右の側部が破面になっており、短軸側の側部は下面表皮が溶化して丸みをもつ。工具痕は不整多角形をした2.2cm大の角棒状で、圧痕の一部に光沢を残す。外面のうち、下面が土砂に接している。
23	第153区 PL65-3	B区	テラス1 粘土面	工具付着滓	4.2	2.9	2.3	29	1	なし	外周部の滓が最大2.1cm程度と厚い工具付着滓破片。左右の側部が主破面で、短軸側の側部にも小破面あり。内面の工具痕は幅1.4cm程のやや丸みをもった角棒状で、内面が平滑になっている。構成No.11と似た要素も認められるため、流出孔滓の工具痕付きである可能性を残す。滓部は重層して、下手側の側部が土砂に接している。
24	第153区	B区	テラス1 粘土面	工具付着滓	5.5	3.1	1.2	31	1	なし	分析資料No.3。分析資料詳細観察表参照。
25	第153区	B区	テラス1 粘土面	炉底塊	7.1	12.9	5.0	457	2	なし	厚さ4cmほどの炉底塊破片。側部は全周が破面で、右下手側の側部に一部、自然面を残す。上面がやや盛り上がり、下面はごく浅い舟底状になる。下面には炉壁粉または、炉床土様の付着土砂があり、右側の一部が流動状に突出する。炉底塊としては下手側の側部沿いの滓部か。
26	第153区	B区	テラス1 粘土面	炉底塊 (含鉄)	19.6	9.9	3.1	785	3	錆化(△)	厚さ4cmほどの左右方向に長手の炉底塊破片。側部は全周が破面で、上面上手側も表層が剥離する。上手側が厚く下手側が薄い形状を示し、右下手側が流動気味となっている。下面はごく浅い皿状で、灰色の炉壁粉が点々と固着する。滓質はやや気孔が多めの炉内滓様。
27	第153区	B区	テラス1 粘土面	炉底塊 (含鉄)	11.8	5.6	3.5	228	3	L(●)	厚さ2.5cmほどの含鉄の炉底塊破片。側部全周と上面下手側が破面となっており、浅い皿状の下面のうち、左下手側が錆彫れにより突出する。滓質は中小の気孔が目立ちながらも緻密で、下面沿いには含鉄部が広がっている。含鉄部の確認のために小割りされた炉底塊の一部か。
28	第153区	B区	テラス1 粘土面	炉底塊 (工具痕付き・含鉄)	11.2	7.6	4.6	636	3	L(●)	厚さ5cmほどの含鉄の炉底塊破片。側部は破面になっており、下手側の肩部から上手側に向かい2条の工具痕が残されている。工具痕は径1.7cm程度の丸棒状を示す。破面状態は部位により異なり、左側部では気孔や木炭痕がやや密となる。下面はほぼ平坦に近い状態で、上面に炉床土が貼り付いている。上面肩部には再結合部分あり。含鉄部は上面表皮沿いに複数箇所が確認される。
29	第153区 PL68-2	B区	テラス1 粘土面	炉内滓 (含鉄)	6.6	7.0	4.5	208	6	H(○)	側部全周が連続的な破面になった含鉄の炉内滓破片。炉底塊の中核破片でもあり、厚さは4cm前後を測る。右側部の破面には土砂が分厚く固着する。含鉄部は上面表皮沿いで、黒錆の滲みや放射割れに加えて、1cm大の黒鉛化木炭も固着する。
30	第153区 PL68-2	B区	テラス1 粘土面	炉内滓 (含鉄)	3.1	4.7	1.6	26	4	L(●)	厚さ1.7cmほど扁平塊状をした含鉄の炉内滓。表面全体に黒錆や酸化土砂が目立ち、側部を中心に錆彫れが複数箇所突出する一見、鉄塊系遺物様。含鉄部は芯部から下面にかけての部分で主体になる。
31		B区	テラス1 粘土面	再結合滓	-	-	-	748 (15個)	2	なし	5cm大以下の小塊15片からなる再結合滓破片。芯部は炉内滓破片が主体の再結合滓で、表面には黄褐色気味の土砂が取り巻いている。再結合滓中には、流動滓や炉内滓に加えて、木炭や黒鉛化木炭なども含まれている。表面の土砂はテラス貼床由来の部分で、当初の排滓場西側を埋めて造成された二次的な作業場由来とする。含鉄の滓や工具付着滓の出土が目立つ遺構である。
32		B区	テラス1 粘土面	木炭	-	-	-	103	1	なし	分析資料No.4。分析資料詳細観察表参照。
33	第153区 PL60	B区	テラス1	炉壁 (上段)	2.8	3.1	3.2	21	1	なし	構成No.33～No.60までの28点は、テラス1作業場出土の炉壁から構成された炉壁セットである。上段上半から下段下半までの6段分の部位を寄せ集めたもので、通風孔部をもつ長軸側と、やや分厚くて平面形がカーブしている短軸側またはコーナー部の部品を示している。本資料は長軸側の上段上半の資料である。厚さ2.8cmほどの炉壁破片で、側部全周と内外面の半分以上が破面になっている。内面上半部には本来の炉壁内面を残しており、芯部が赤褐色に被熱するのに対して、この部分のみ明るい褐色となっている。胎土は短スサや粉殻を混ぜる、ざっくりとした粘土質。
34	第153区 PL60	B区 L4 s20	テラス1	炉壁 (砂鉄焼結付き・含鉄)	3.0	3.8	1.7	18	2	錆化(△)	内面の一部がマグネタイト系の溶化を示す炉壁小破片。側部から外面は全面破面で、外面寄りの中段の部分には砂鉄焼結部が広がっている。砂鉄焼結部は0.1mm大～0.2mm大で、やや角ばった粒子が確認される。
35	第153区 PL60	B区	テラス1	炉壁	6.3	5.5	3.6	58	2	なし	内外面が生きている厚さ4.4cmほどの炉壁破片。側部は全周が破面で、内外面の一部も剥落する。内面は微細な垂れが生じ始めて下半ほどマグネタイト系の滓部に変わっていく。なお、滓部の色調は暗紫紅色を示す。胎土中には短スサや粉殻も混ぜて密度は低め。
36	第153区 PL60	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段下半) (砂鉄焼結付き・含鉄)	3.9	7.5	1.8	49	5	なし	内面全体に厚さ7mm前後の砂鉄焼結部が残る横長の炉壁破片。構成No.19とやや類似する炉壁資料で、内面は下半ほど還元が進んでいる。側部から外面は全面破面。内面上端部は緩やかに外傾して、砂鉄焼結部をなす層部になっている。粘土単位の接合部由来の可能性大。砂鉄粒子同士の融着が進み、見かけ以上に還元は進んでいる。
37	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段上半) (補修・砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	9.8	9.3	3.8	274	4	なし	側部全周と外面が破面になった補修痕の残る炉壁破片。左側部や上段の破面には補修痕と推定される粘土単位が2条ないし3条確認される。補修痕は明瞭な一線をなす形ではなく、全体的にみれば確認されるという程度である。少なくとも当初の壁面に対して2回の補修作業が行われている。内面右側から右側部にかけては砂鉄焼結部由来のマグネタイト系の滓部が発達する。表皮の窪んだ部分では暗紫紅色が強い。
38	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段上半) (マグネタイト系滓付き)	5.9	6.5	2.5	75	3	なし	前者を小振りにしたような中段上半相当の補修壁破片。側部から外面は破面で、左側部には補修による重層状態が露出する。内面右上の部分は砂鉄焼結部に覆われており、炉壁表面には微細な垂れと暗紫紅色が目立つ。砂鉄焼結部の状態はまちまち。
39	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・中段上半) (縦方向接合痕付き・ マグネタイト系滓付き)	5.7	6.85	2.5	95	2	なし	補修により内面上半部が肥厚する補修壁破片。側部から外面は破面になる。内面表皮には垂れが生じ始めているが光沢はなし。左下方ほど炉壁の溶損が進む。
40	第154区	B区	テラス1 床面直上	炉壁	4.8	6.0	2.9	34	1	なし	内面の溶化がやや強い炉壁破片。側部から外面は破面になる。炉壁の内面側は胎土中の石英質鉱物が白色系の発色をみせて点々と露出する。胎土は短スサ入りで、ざっくりとした粘土質。
41	第154区 PL61	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・通風孔周辺付き・ 被熱石付き)	6.9	11.7	4.3	222	3	なし	中段下半相当の補修痕の残る炉壁破片。側部から外面が全面破面で、内面左側の溶損が進んでいる。右側部下半は通風孔部側のため被熱色が赤褐色となるが、突出部とはならない。胎土中には径5cm大の礫が含まれている。補修痕は2枚を数える。
42	第154区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修)	11.0	7.9	3.9	297	3	なし	分析資料No.5。分析資料詳細観察表参照。
43	第154区 PL61	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・通風孔周辺付き)	15.1	8.95	3.5	326	4	なし	前者と同様、2枚または3枚の補修痕を残す炉壁破片。上下に長い炉壁破片で、内面は面的に溶化して下半部では垂れが生じ始めている。内面上半部の色調はくすんだ暗紫紅色。胎土は短スサ入りで練りが甘く、ひび割れが目立つ。
44	第154区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・中段下半) (通風孔周辺付き)	13.9	10.7	4.5	450	4	なし	側部から外面が破面になった中段下半相当の炉壁破片。側部の破面には2枚の補修痕が重層して、3枚の炉壁表面が確認できる。内面は面的に溶化して、下端部側は溶損が進む。また、内面表皮は暗紫紅色が強い。胎土は短スサや小礫を混ぜてひび割れが発達する。
45	第154区 PL61	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・通風孔周辺付き)	15.5	8.6	5.1	500	4	なし	前者と類似した、2枚ないし3枚の補修面を数える中段下半相当の炉壁破片。平面形は右寄りがやや弧状になっており、炉壁短軸側コーナー部寄り、または、通風孔部沿いを示す可能性あり。側部から外面は全面破面になっている。各補修部分の隙間が開いてしまっており、中空部が目立つ。

表30 製鉄関連遺物観察表(3)

構成番号	挿入PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
46	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段上半) (補修・通風孔1孔付き・ マグネタイト系滓付き)	5.2	3.15	3.5	36	3	なし	右側部に補修痕と通風孔の一部を残す炉壁小破片。山形に盛り上がった通風孔左側の破片で、側部全周と当初の通風孔を除く壁面表皮が剥落する。本資料を含む構成No.46～No.52等により、通風孔部付の下段下半から上半にかけても補修が行われていることが明瞭に分かる資料である。内面の通風孔部外面も浮化していることから、通風孔部の内面を補修したのではなく、山形に突出しながら溶損する当初の壁面自体を通風孔部を含んだ形で全面的に補修していることが読み取れる。
47	第154区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き)	5.3	4.9	3.7	59	2	なし	左側部下半に円孔状の通風孔部壁面を残す炉壁破片。本資料は補修痕の認められない例外的な炉壁資料である。炉壁内面は通風孔部に向かってややせり上がる形で溶損しており、表面には胎土中の石英質の粒子が浮き出すように残されている。残る側部から外面は破面。炉壁としては通風孔部から右上の部分にかけての小破片である。
48	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段上半) (補修・通風孔1孔付き・ マグネタイト系滓付き)	5.1	4.15	3.0	24	2	なし	右側部に補修痕の残る通風孔部を残す薄皮状の炉壁破片。通風孔部は上下に長い楕円孔状で、壁面そのものが2重ないし3重に上塗りされている。外面は溶損が進み、頸部側にはツララ状の垂れが発達する。残る側部から外面は破面で内面表皮は暗紫紅色となる。さらに表面には、もう一枚の補修痕の残欠あり。
49	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き・ マグネタイト系滓付き)	5.1	4.4	2.2	30	3	なし	左側部下半に通風孔部の壁面を残す炉壁小破片。箱形炉の下段上半に相当する炉壁破片で、通風孔部右上にあたる。炉壁内面は溶損して、表面が発泡気味となっている。通風孔部を除く側面から外面が破面。
50	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き)	4.8	3.8	3.0	29	2	なし	右側部中段に円孔と推定される通風孔部壁面が残る炉壁小破片。炉壁としては通風孔部の左側破片で、内面が溶損気味で、表面には垂れが生じ、表皮は暗紫紅色になる。補修痕を残しておる側部が重層する。破面は通風孔部を除く側部から外面全体。
51	第154区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔周辺付き)	8.3	10.3	2.4	102	2	なし	下端部に通風孔部の上顎部分を残す炉壁破片。側部から外面は破面になる。炉壁内面は通風孔部側がやや盛り上がる形の溶損状態で、表面は半流動状を示す。通風孔部周辺に赤褐色の面を成す炉床土が確認され、補修痕の可能性もあり。胎土は短いスス入りで、ひび割れも目立つ。
52	第154区 PL63-1	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (補修・通風孔2孔付き・ 基部接合痕付き)	13.2	12.1	10.2	814	2	なし	左右の肩部に通風孔部1孔と通風孔部周辺部分を残す炉壁基部破片。補修のため通風孔部周辺から基部側の平坦面が明らかな2重になっている。補修痕は壁面全体に1枚数えられ、右側の通風孔部壁面にも補修痕が残る。左右の側部から上面に加えて外面全体が破面になっている。当初の壁面と補修痕の隙間は上端部で1.5cmを測り、基部の平坦面は補修後の壁面が2.5cm上方に移動している。新旧の炉壁基部は水平気味で、上方では壁面全体が前傾している。上部からみると、左右の通風孔部が大きく突出して中間部分の溶損が激しい。当初の炉壁基部から通風孔部までの高さは8cm前後と前傾によりさらに狭くなっている。通風孔部2孔の芯々間隔は10cm前後か。
53	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	8.8	8.65	5.5	359	2	なし	通風孔部を確認することができない炉壁基部破片。側部から外面は破面になっており、炉壁側と基部の間には隙間が生じている。炉壁内面は表皮が進み、下端部は炉壁溶解物が肥厚する。胎土は短いスス入りで、ややひび割れが目立つ。炉壁側の被熱色がくすんでいる。
54	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	6.2	11.0	6.5	375	1	なし	前者と同様、明瞭な通風孔部を確認することができない炉壁基部破片。側部から外面は破面になっており、炉壁基部には横方向に伸びる低い段が生じている。炉壁内面は溶損して、下半部は厚さ4cm前後の粘土質溶解物に覆われている。
55	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	5.1	10.2	5.5	180	2	なし	内面が黒色ガラス質に浮化して、大きく溶損や垂れが生じている炉壁基部破片。側部から外面は破面で、炉壁基部直下には厚さ1.3cm程度の炉内流動滓が形成されている。炉壁内面は下半部で紫紅色が強し、外面には褐色基調の炉壁土の破面が露出する。胎土は小礫を含み、ざっくりとした粘土質。
56	第154区	B区	テラス1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (通風孔周辺付き・基部接 合痕付き・滓付き)	6.8	9.7	5.4	200	1	なし	左側の肩部に通風孔部頸部周辺とみられる色調を残す炉壁基部破片。下端部は水平方向に途切れた炉壁基部側で、炉壁上部は通風孔部側が強く前傾する。炉壁内面は気孔の肥大したイガイガした溶層に覆われている。
57	第155区 PL60	B区	テラス1	炉壁 (短軸側・コーナー部・上 段下半)(砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き・滓付 き・含鉄)	6.7	9.45	4.0	232	5	錆化(△)	炉壁内面に2cm前後の厚みをもつ砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が形成された炉壁破片。平面形は緩やかな弧状で、炉壁コーナー部のうちで最も上段下半部相当と推定される。焼結した砂鉄粒子は0.1mm大前後が主体で、還元が進むにつれて各粒子が肥大する。内面下半部では溶化が進み、垂れや錆化部分が認められる。炉壁から滓部にかけての部分で前後2枚数えられ、補修痕の可能性大。
58	第155区	B区	テラス1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段上半)(補修・マグネタイト 系滓付き)	9.8	9.1	3.5	280	4	なし	側部から外面全体が破面になった炉壁コーナー部破片。平面形が明瞭な弧状で、側部の破面からみると重層状態が明瞭となる。炉壁表面は溶化して、下端部では垂れが生じ始めている。また、下端部寄りの紫紅色が強い。
59	第155区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段下半)(補修・マグネタイト 系滓付き・木舞孔付き?)	14.6	15.5	6.4	913	2	なし	側部から外面全体が破面になった炉壁破片。平面形はやや弧状で、炉壁短軸側から長軸側へわたる部位と推定される。明瞭な補修痕は1枚で、もう1枚、疑われる痕跡が残されている。側部から外面は全面破面。補修後の炉壁内面は左側が平板に溶化しているのに対して右側では垂れや溶損が目立ち、表皮の紫紅色も強い。胎土は練りが悪く微細なひび割れが目立つ。
60	第155区	B区	テラス1 床面直上	炉壁 (短軸側・コーナー部・下 段上半)(補修)	12.3	18.0	4.4	671	3	なし	緩やかな弧状の平面をもつ大型の炉壁破片。側部から外面は全面破面で、内側に補修部分が重層する。内面は前後の壁面とも溶化、溶損が進み、不規則な窪みや垂れが生じている。胎土は礫も含まれた練りの悪い粘土質。
61	第155区	B区	テラス1・ 排滓土坑 1	炉壁 (通風孔周辺付き・滓付き 炉床土付き・基部接合痕付 き・炉内流動滓付き)	5.8	17.4	8.5	898	1	なし	分析資料No.6。分析資料詳細観察表参照。
62	第155区	B区	テラス1	炉床土 (滓付き)	3.3	8.3	2.6	105	1	なし	内面が薄皮状に溶化した炉床土破片。側部から外面は破面になっており、外面には軽石混じりの灰色基調に被熱した炉床土が露出する。内面下手側では粘土質の溶層が肥厚して垂れも生じている。
63	B区 J4 a6	テラス1		生砂鉄	-	-	-	2663	6	なし	青光りする生砂鉄である。B区J4-a6区画より回収された砂鉄で、重量2663gを量る。粒度は0.4mm大～0.18mm大の幅をもち、平均粒度は0.18mm大程度となる。やや角ばった砂鉄粒子主体で、半分以上の粒子が光沢をもつ。残る無光沢の粒子はやや黒褐色の色調を示す。被熱の有無は不明。
64	B区 J4 b4	テラス1		生砂鉄	-	-	-	2530	6	なし	前者と同様、B区J4-b4区画より回収された生砂鉄である。重量2530gを量る。粒度や色調は前者と同じで、光沢をもつ砂鉄粒子と無光沢で黒褐色の粒子が半々程度に混在する。角が丸みをもちながらも、やや多角形の粒子が主体となっている。平均的な粒度は0.18mm大前後を測る。
65	B区 J4 b6	テラス1		生砂鉄	-	-	-	5642	6	なし	分析資料No.7。分析資料詳細観察表参照。
66	B区 I4 s11	テラス1 床面直上		被熱砂鉄・生砂鉄混在物	-	-	-	313	6	なし	分析資料No.8。分析資料詳細観察表参照。
67	第155区 PL64-2	B区	テラス1	砂鉄焼結塊 (マグネタイト系滓付き・ 含鉄)	4.6	5.7	2.9	62	6	H(○)	厚さ2cmほどのやや板状をした砂鉄焼結塊。側部は基本的に破面とみられ、下面は炉壁表面からの剥離痕と想定される緩やかな面を成す。砂鉄の焼結が進んで一部が含鉄部となっているためか、全体に濃茶褐色を示す。また、砂鉄の融着が強し還元が進んでいるものと推定される。
68	B区 J4 a6	テラス1		粒状の滓	-	-	-	0.2 (11)	1	なし	分析資料No.9。分析資料詳細観察表参照。

第3章 調査の成果

表31 製鉄関連遺物観察表(4)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
69		B区 J4 a5	テラス1	粒状の滓	-	-	-	24(54)	1	なし	径1cm以下不定形粒状をした粒状の滓一挿品。総数54点を数える。不整形から扁平塊状のものまで様々な形態を示す資料が含まれている。含鉄量のためか、一割程度の粒子に錆色が認められる。また、各粒子の表面には木炭痕や炉壁粉の圧痕が残されている。
70	第155図 PL64-2	B区	テラス1	マグネタイト系遺物	4.7	4.5	2.6	90	3	なし	厚さ2.5cmほどの塊状をしたマグネタイト系遺物破片。左側部は木炭痕様で、残る側部三方に不規則な破面が残されている。下面は砂鉄焼結部から変化した顆粒状の滓になっており、炉壁表面からの剥離面と推定される。上面は半流動状で僅かに錆色が認められる。また、磁着が強く全体がマグネタイト系の滓部になっている。
71	第155図 PL65-3	B区	テラス1 床面直上	工具付着滓	5.1	1.9	0.4	6	2	なし	内面に幅1.2cmほどの隅丸方形の工具痕を残す工具付着滓破片。最大厚みは4mmほどで、外面には土砂の圧痕様の凹凸面を生じている。内面の工具痕の表面は黒褐色で光沢をもつ。滓質は緻密で気孔も極めて少ない。
72	第155図 PL65-3	B区	テラス1 床面直上	工具付着滓	4.0	2.5	0.5	11	1	なし	前者と同様、隅丸方形の断面形をもつ工具付着滓破片。側部4方が破面になっており、外面は右側が重層して最大厚みが8mm程度になる。左側の3分の2は重層せず、2.5mmほどの厚みをもつきれいな滓部となる。内面は青光りして一部に砂鉄由来の光沢を残したザラザラした表面部分あり。
73	第155図 PL65-3	B区	テラス1 床面直上	工具付着滓	4.7	2.7	1.0	16	1	なし	外面に厚い滓層が形成された工具付着滓破片。内面の工具痕は前二者と同様、径1.4cm前後を測る隅丸方形の断面形となる。側部全周が破面で、外面上方は半流動状。下面は土砂の圧痕や炉壁粉の固着状態が認められる。工具痕沿いのみが緻密な滓となっており、それを取り巻く外周部の滓は密度が低い。
74	PL65-3	B区	テラス1	工具付着滓 (含鉄)	2.2	1.6	0.2	2	1	錆化(△)	錆色をした含鉄量の工具付着滓小破片。内面には径1.4cm前後の隅丸方形断面を示す工具痕が残り、内外面に加えて側部の破面にも錆色や錆跡が生じている。通常の工具付着滓が炉内の滓層を突いているのに対して、本資料は鉄部を工具で突いている証拠となる。
75	第155図 PL65-3	B区	テラス1 床面直上	工具付着滓 (含鉄)	7.2	2.6	0.8	20	1	錆化(△)	内面の工具痕が緩やかな弧状を描く工具付着滓破片。径1.3cm大の隅丸方形または円形断面をもつ工具痕が確認され、左右の中間部分では段を生じている。側部全周が破面で、滓層の最大厚みは9mm前後を測る。内面が青光りしているのに対して、外面はザラザラした流動性に欠ける状態を示す。
76	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	8.0	3.4	2.1	47	1	なし	左右の側面が破面になった流出孔滓破片。右方向に向かって幅広になって上面には流れ跡が強い。下面は浅い舟底状で炉壁粉の圧痕が連続する。滓表面はやや暗紫紅色気味。
77	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	7.9	4.1	1.4	57	2	なし	一見、大型の工具付着滓様の流出孔滓破片。流出孔底に沿って流動した流出孔滓と推定される。左右の側部が主破面で、右寄りの肩部にも小破面あり。上面は幅2.8cmほどで楕状に窪んでおり、下面は炉壁粉が密に固着するきれいな舟底状となる。左側部の破面には結晶が発達する。
78	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	10.1	3.8	3.0	115	1	なし	左側部に大きな破面が残る流出孔滓破片。右方向に向かい細くなる形態で、右側の3分の2の部分は傾斜角度がより強くなっている。底面左側は中央部が強く突出した舟底状で、工具による流出孔底の傷を写している可能性大。滓質は緻密ながら、上面表皮沿いに気孔がやや肥大する。
79	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	4.9	10.8	2.9	171	1	なし	左右の側面が破面になった整った形状をもつ流出孔滓破片。短軸側の側部上方が先行する滓層のため張り出しており、さらに別単位の滓層が重層する形態を成す。上面は緩やかに流動して、側部から下面は炉壁粉の残る舟底状となる。左側の破面はやや不自然な欠けの状態を示す。
80	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	9.5	5.0	3.2	253	1	なし	やや丸棒状の外観を示す流出孔滓破片。左側の側部が主破面で、上面左側が浅い楕状に窪んだ形となる。右側は肥厚して厚みを増し、右上手側の側部が工具痕様に窪む。滓質は結晶が発達して緻密ながら微細な気孔をもつ。
81	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓	10.0	5.7	4.0	146	1	なし	左側部がシャープな破面になった流出孔滓の先端部破片。上面は小さな瘤状の滓が並ぶ平坦面で、右方向から幅1.5cm前後の丸棒状の断面形をした工具痕が残されている。縦断面形は深いU字状で、流出孔底を工具により掘り広げていることを物語る。そのためか、下面が右から左側に向かい急激に深くなっている。
82	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓 (工具痕付き)	9.0	3.9	3.3	302	1	なし	上面左側に複数の工具痕を残す幅広の流出孔滓破片。左側部下半から下手側の側部にかけてが破面で、右側部の滓先端部は急角度で流れ下がった形で収束する。工具痕は最大2.8cm幅程度で、流出孔中で詰まった滓を取り除こうとした状況証拠を示す。そのため、滓先端部が工具痕の左側で不自然に欠けている。下面は丸みをもった舟底状。
83	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓 (工具痕付き)	6.7	7.2	5.3	568	2	なし	前者をさらに横方向に広げた形の流動性の低い流出孔滓の先端部破片。厚みをもった扁平塊状で、右側の肩部や上面に工具痕が残されて左側部側が不自然に欠けている。滓の流動性の低さは流出孔中に詰まった状態の滓を取り除いた際の証拠となろう。側部から下面は炉壁粉の圧痕に覆われる。
84	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓 (工具痕付き)	8.0	8.7	4.5	475	2	なし	右側部下半に2単位を数える工具痕が残る流出孔滓破片。左側部下半が破面になっており、右側部上半は工具痕により上方に折れ曲がった形の不自然な滓層となっている。上面左側は流動性の良好な滓層で、表皮は平滑さ。側部から下面はきれいな丸みをもった舟底状で、炉壁粉の圧痕や粉炭痕主体。滓質は緻密ながら、やや流動性の低い滓の可能性大。
85	第155図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓 (工具痕付き)	11.4	6.9	4.6	842	2	なし	左右で滓質の異なる滓が一体となった流出孔滓破片。右上部の滓は極めて流動性の低い滓で、右側の上面には少なくとも5単位の工具痕が残されている。また、イガイガした滓の各所がひび割れて、工具による変化も読み取れる。左下手側の滓は流動性の滓で、右側の滓の下面にも先端部を盛り込ませる状況で固まっている。破面は左上手側の上下の滓にまたがる。左右の滓の側部から下面はほぼ一体化して舟底状を示す。
86	第156図 PL66-1	B区	テラス1	流出孔滓 (工具痕付き)	14.3	9.2	4.8	33	4	なし	不定形塊状をした含鉄の流出孔滓破片。やや滓質の異なる滓が一体化した状態で固着しており、含鉄部は左上部にある塊状の部分と推定される。残る下半は再結合の滓層で、様々な形態の滓片を含んでいる。
87	第156図 B区	テラス1	流出孔滓 (含鉄)	4.3	3.7	2.7	45	3	H(○)	上面表皮直下に径1.7cm大の含鉄部を含む流出孔滓または、流出溝滓破片。側部3方と下手側が破面になっており、下面の中央部を肥大した気孔が占めている。この部分は一見、工具痕様に見えるが、滓内部のガスが溜まった気孔の一種と考えられる。炉内で生成された小塊状の鉄部の滓と共に流れ出ている状況を示すものであろう。	
88	第156図 B区	テラス1	流出溝滓 (含鉄)	4.3	4.0	2.4	171	1	L(●)	流出溝滓または、流出孔滓の先端部寄り破片。左側部が直線状の破面で、上面には流れ跡が生じている。先端部は丸みをもって収束し、側部から下面には様々な色調の炉壁粉が固着する。	
89	第156図 B区	テラス1	流出溝滓	8.4	5.4	3.0	280	2	なし	左側部が破面となった流出溝滓の先端部破片。半流動状の滓が流れ出ている状況を示す滓で、側部から下面には隙間が生じ、炉壁粉の圧痕も目立つ。上手側の側部の塊状をした部分は別単位の滓片を巻き込んでいる可能性大。	
90	第156図 PL67-1	B区	テラス1	流出溝滓	11.3	7.3	3.3	560	1	なし	内面の側部が浅い楕状に窪む炉壁粉。平面形は明瞭な弧状になっており、側部全体が破面となる。右側部内面寄りの破面には長さ4cm程度の木の葉の圧痕が残されている。炉壁胎土の調整時に混入したものであるか。あるいは粘土を練り合わせる折に加えた水に含まれていたものかもしれない。炉壁の厚みは8cm以上が残る。粘土質の胎土にはササをやや多く混じり小さなひび割れも生じている。
91	第156図 B区	テラス1	流出溝滓	7.4	7.4	4.6	337	1	なし	左右の側部がシャープな破面になった流出溝滓破片。上下面共に盛り上がったための滓で、短軸方向の縦断面形は楕円形になっている。左側部の破面中央には気孔の可能性が高い径1.7cm大の中空部が残されている。滓質は緻密で、やや流出孔滓の疑いも残る。	
92	第156図 B区	テラス1	流出溝滓	10.9	9.1	3.7	532	2	なし	左側部が破面になった流出溝滓または、炉内流動滓破片。上面は平滑で、大型の木炭痕が側部を中心に残されている。滓質は緻密で、破面が結晶が発達して青光りさ。右側部は重層した形で収束しており、下面は浅い舟底状になる。やや特異な資料といえる。	
93	第156図 B区	テラス1	流出溝滓	14.5	9.2	3.2	629	1	なし	分析資料No.10。分析資料詳細観察表参照。	

表32 製鉄関連遺物観察表(5)

構成番号	挿入PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
94	第156図 PL67-1	B区	テラス1	流出溝滓	13.1	13.0	6.6	1359	1	なし	幅11cmほどの流出溝滓破片。左側部が主破面で右側部にも小破面が生じている。滓上半と下半では滓質が異なり、上半部にゆつりと流動する流動単位が5単位以上重層する形になる。側部から下面は右方向にせり上がりぎみの舟底状を示す。流出孔の出口から近い流出溝滓であろう。
95	第156図 PL65-2	B区	テラス1	流動滓	3.9	1.4	0.8	7	1	なし	左側部が破面になった流動滓の先端部破片。上面が平滑で右側が丸みをもって収束する。下面は炉壁粉の圧痕主体。
96	第156図 PL65-2	B区	テラス1	流動滓	6.6	5.5	2.7	128	1	なし	一見、鳥の足状の形態をもつ流動滓破片。斜め左上から流れ下り、流動方向を変えて流れ始めた形で収束する。当初の滓の表面には流れ皺が目立ち、右上手側では滓が重層する。細い流動単位が連続した一般的な鳥の足状の流動滓とは異なった条件下で生成された可能性大。滓質は緻密で芯部の気孔が発達する。
97	第156図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(含鉄)	8.2	16.8	7.3	898	4	錆化(△)	厚さ7cmほどの炉底塊破片。左右の側部が主破面で短軸側の側部に小破面あり。大型の木炭痕と錆跡を覆う形の酸化土砂が目立つ資料で、含鉄部が散在する。但し、鉄部個々の大きさは小さいものと推定される。下面の一部も破面になっている。炉底塊の上半部破片であろう。
98	第156図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(含鉄)	10.1	19.0	9.6	1489	6	錆化(△)	厚さ8cmほどの炉底塊長軸端部寄り破片。左側部と下手側の側部が主破面で、上手側の側部にも小破面が推定される。下面の中央部や上手側には瘤状の酸化土砂が固着している。上面は緩やかな平滑面で、一部に1.5cm大以下の木炭痕が認められる。右側部は不規則な段を成す自然面、下面は短い垂れが連続する自然面となる。含鉄部は上面表皮沿いに複数箇所が想定されるが、範囲は狭い。
99	第156図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	14.5	14.7	7.7	1175	6	H(○)	炉底塊コーナー部破片。左側部から上手側にかけてが大破面になっており、全体は大型の塊形鍛冶滓の肩状を示す。上面は低い凹凸が連続する自然面、側部から下面は立ち上がりの急な塊形になっている。表面には短いツララ状の流動部分が連続する。下面には木炭痕や大きな隙間が数多い。含鉄部は散在する状態で範囲は狭い。
100	第156図	B区	テラス1	炉底塊(工具痕付き・含鉄)	17.3	12.5	5.3	2162	3	H(○)	右方向に向かい狭まる形の炉底塊長軸端部破片。一見、幅広の流出溝滓様で、上面が平坦気味になっている。左側部が主破面で、右側部にも小破面あり。右下手方向からの工具痕が数多く、少なくとも7単位が数えられる。方向や工具単位が重層している。側部から下面は浅い塊形になっており、炉床土の圧痕に覆われている。上面中央には黒錆の滲みが見られるが範囲は狭い。
101	第157図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(マグネタイト系滓付き・コーナー部・工具痕付き・含鉄)	15.7	24.3	7.2	3477	4	H(○)	上面上手側にマグネタイト系の滓部が広範囲に広がっている炉底塊破片。左側部と下手側の側部の一部が破面、右側部から上手側側部にかけては炉底塊の長軸コーナー部寄りとなっている。右側の側部にも径4.5cm大を超える幅広い極度の工具痕あり。これに接する右側部は破面となる。下面は左上手側が突出気味のく浅い舟底状で、炉床土の土砂が面的に固着する。含鉄部は下手側の中核部から上皮寄り、黒錆と放射割れが生じている。箱形炉の長軸から短軸への変換点に設けられた通風孔部を想定できる炉底塊の端部破片である。また、マグネタイト系の滓部が通風孔部直下に広範囲の生成を想定できる点からも特異な資料である。
102	第157図	B区	テラス1	炉底塊(工具痕付き・コーナー部・含鉄)	9.1	18.9	8.2	1500	4	H(○)	左側部が主破面になった炉底塊の長軸端部破片。短軸方向の両側部と右側部が収束きみで、右下手側の側部には斜め下方向の工具痕が残されている。上面は浅く窪み、上手側の側部から流動状の滓が広がる。下面は幅広い塊形の一部を成し、表面の再結合滓中には流動系の滓が多く含まれている。上面上手側から下手側の側部にかけてはやや不自然な表面観を残しており、さらに下手側に広がる可能性もある。含鉄部は極めて小範囲とみられ、左側部の破面には中核部から1cm大強の部分が突出する。
103	第157図	B区	テラス1	炉底塊(工具付着滓付き・含鉄)	5.4	12.7	4.7	233	3	M(◎)	上下面と下手側の側部の一部が生きている炉底塊破片。厚さは4cm程度で、左右の側部から下手側の側部が破面と考えられる。含鉄部は左側部や上手側下半。下面の一部に工具付着滓の小破片が固着する。含鉄部の確認のために打割された炉底塊の破片であろう。
104	第157図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(含鉄)	8.2	13.0	6.0	642	4	L(●)	分厚い酸化土砂に覆われた含鉄の炉底塊破片。左右の側部から上手側の側部が破面と推定されるが、酸化土砂に妨害されて、はっきりしない面もある。側部や下皮沿いに含鉄部由来の錆跡や放射割れが生じており、含鉄部の肥大傾向と複数箇所の存在を想定できる。ある程度、鉄部の生成が進んだ炉底塊破片であろう。
105	第157図 PL67-2	B区	テラス1床面直上	炉底塊(含鉄)	21.7	11.9	2.4	847	4	特L(☆)	厚さ3cm程度の左右に長手の扁平塊状をした炉底塊破片。ごく浅い極度の全体観を持っており、含鉄部はメタル度特L(☆)を示す。炉底塊中央部の上面表皮沿いの破片と推定される。気孔の数多い滓部の各所に含鉄部が広く生成された資料であるが厚みに欠ける。炉底塊の上面表皮沿いが鉄部の生成位置であったことを物語る資料である。
106	第157図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(炉内流動滓付き・工具痕付き・コーナー部・含鉄)	11.0	24.8	6.0	2535	4	特L(☆)	分析資料No.11。分析資料詳細観察表参照。
107	第157図 PL67-2	B区	テラス1	炉底塊(孔滓付き・炉内流動滓付き・含鉄)	18.2	14.7	3.2	1881	3	特L(☆)	扁平な含鉄の炉底塊の側部寄り破片。左側部から下手側にかけてが主破面で、右下手寄り側部の2面は基本的に生きている。上面は浅く窪み、下面は表面が陥落したような外観をもっている。上手側の側部は中間層に隙間が生じており、上下2段のような外観を示している。下手側の側部には炉壁溶接物が乗り、右側部には炉内流動滓が垂れ下がる。含鉄部は芯部に広く、錆化により大きな放射割れや黒錆の滲みが認められる。下面左上手側には径3cm大の流出孔滓が再結合する。
108	第157図 PL67-2	B区	テラス1床面直上	炉底塊(コーナー部・含鉄)	12.2	27.4	8.1	2442	4	特L(☆)	切断したような形態をもつ大型の炉底塊資料である。厚みは中核部で5.5cmを測り、右上手側の上面が盛り上がっている。破面は左側部中央の一部で、炉底塊の長軸端部寄りの破片と推定される。本遺跡出土の炉底塊の中でも典型的な資料で、含鉄部も複数箇所確認される。下面は大きく広がった形の塊形の一部となり、短軸の両側と右側が緩やかにせり上がる形態となる。破面の気孔が横方向に伸びている部分が多く、上下方向に滓が圧縮されたような状態を示す。
109	第158図	B区	テラス1床面直上	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	19.9	15.8	8.1	2790	3	特L(☆)	左右の側部と上手側の側部が破面になった炉底塊の長軸側、側部破片。下手側の側部は炉壁長軸側に沿って収束する形で小破面が連続する。肩部から上面にかけてはマグネタイト系の滓部が発達して、やや上手側の複数箇所に含鉄部を芯部にもつ瘤状の部分が存在する。上手側側部からみると含鉄部が中核部にも生成されていること分かる。下面は左右方向に伸びる緩やかな波状で、炉床土の剥離面が広がっている。比較的鉄部の生成が進んだ炉底塊の長軸側側部破片か。
110	第158図 PL67-2	B区	テラス1床面直上	炉底塊(炉内流動滓付き・工具痕付き・含鉄)	16.1	21.1	5.9	2664	5	特L(☆)	上面と下手側の側部が生きている炉底塊破片。左右の側部と上手側の側部が大型の破面になっており、下面全体も破面の可能性がある。上面は平坦さみの面で、2方向に明瞭な工具痕が残されている。また、表面や側部に含鉄部由来の塊状の酸化土砂が目立つ。前者と同様、炉底塊の各所に一定程度の範囲の含鉄部が生成されている状態が読み取れる。炉底塊としてはほぼ中核部破片であろう。
111	第158図 PL68-2	B区	テラス1	炉内滓	5.7	3.9	3.6	80	2	なし	厚さ3.5cmほどの塊状をした炉内滓破片。上下面は生きている、下手側を除く側部3面が破面となる。イガイガした滓で下面中央部が突出するため、流出孔滓の可能性もややあり。流動性も低く、滓質的には炉内滓に類似する。
112	第158図 PL68-2	B区	テラス1	炉内滓	3.9	7.3	4.1	154	3	なし	厚さ4.5cmほどの炉内滓破片。上下面と下手側の側部が生きている、炉底塊の側部寄り破片である。左側部側部が炉底塊本体側の破面になっている。炉内滓的な気孔の状態を示し、右側部の一部に炉内流動滓が生成されている。
113	第158図	B区	テラス1	炉内滓(マグネタイト系滓付き・含鉄)	2.8	2.6	1.3	15	3	L(●)	厚さ1.5cmほど扁平な小塊状をした含鉄の炉内滓破片。側部4面が破面で、下面は炉壁表面からの剥離面様となる。マグネタイト系の滓部が鉄部化したような資料である。

第3章 調査の成果

表33 製鉄関連遺物観察表(6)

構成 番号	挿図 PL	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値(cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
114	第158図	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	5.1	5.4	2.6	97	4	H(○)	側部4面が破面になった含鉄の炉内滓破片。上下面が基本的に生きており、厚さは約3.5cmを測る。下面は炉底塊底面に相するよう面に成している。含鉄部は上面表皮寄りを中心にやや広いが、錆化も進んでいる。
115	第158図 PL68-2	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	4.0	5.1	1.9	36	4	M(◎)	側部全周と下面が破面となった含鉄の炉内滓破片。上面や側部には微細な錆跡や黒錆に加えて、放射割れが生じ始めている。含鉄部は纏まりに欠けるが、広がりには認められる。炉底塊の上面表皮側破片か。
116	第158図 PL68-2	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	3.8	4.5	1.3	39	6	M(◎)	厚さ1.5cmほどの含鉄の炉内滓破片。側部4面が破面になっており、下面は剥離面と破面が混在する。滓部と鉄部が混在した資料で、炉壁表面で生成か。含鉄部からは黒錆の滲みと白色の酸化物が生成している。
117	第158図	B区	テラス1 床面直上	炉内滓 (含鉄)	8.6	5.7	3.3	203	4	M(◎)	厚さ3cmほどの、表面に錆跡や黒錆の滲みが目立つ含鉄の炉内滓破片。上面は生きており側部は全周が破面と推定される。下面は浅い皿状で、放射割れも進んでいる。含鉄部の範囲が広いものの錆化も激しいため、メタル度はM(◎)に落ちている。
118	第158図	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	3.4	2.1	2.1	37	4	L(●)	分析資料No.12。分析資料詳細観察表参照。
119	第158図	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	4.3	4.1	2.1	46	3	L(●)	厚さ2.3cmほどの含鉄の炉内滓破片。側部4面が破面で下面は剥離面様になる。複数の含鉄部から黒錆の滲みや錆跡が生じており、含鉄部の主体は右側の表皮寄りから芯部にかけてと推定される。
120	第158図	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	4.2	3.9	2.9	50	3	L(●)	黒錆が吹き、放射割れから分解しかけている含鉄の炉内滓破片。2.8cmほどの厚みをもつ資料で、側部4面が破面と推定される。芯部に含鉄が広く、現状ではメタル度L(●)程度の残留が認められる。小割りされた含鉄部の一片か。
121	第158図 PL68-2	B区	テラス1	炉内滓 (含鉄)	5.2	9.2	3.4	159	4	L(●)	厚さ3.5cmほどの含鉄の炉内滓破片。上面左上側が生きており、下面は剥離面様となる。側部全周と上面右側の表皮が脱落する。炉壁表面で生成途上の含鉄部の可能性をもち、表面の一部に垂れが生じている。また、表層がマグネタイト系の滓部となっている可能性あり。
122	第158図 PL65-1	B区	テラス1 床面直上	鉄塊系遺物 (含鉄)	3.3	1.9	1.4	15	4	L(●)	黒錆と微細な放射割れの目立つ小塊状の鉄塊系遺物。最大厚みは2cm程度で、側部から下面には出入りが目立つ。芯部は含鉄部主体で、表層には錆跡が不定方向に生じている。
123	第158図 PL65-1	B区	テラス1	鉄塊系遺物 (含鉄)	3.5	2.4	1.7	19	3	L(●)	表裏面共に鉄部由来の錆色が認められる小塊状の鉄塊系遺物。厚さは1.5cmほどで扁平な不整形状となる。下面は剥離面様で、炉壁表面で生成された炭素量の少ない段階の鉄塊系遺物か。
124	第158図 PL65-1	B区	テラス1 床面直上	鉄塊系遺物 (含鉄)	2.8	3.2	1.9	21	3	L(●)	厚さ1.5cmほどの、やや前者と似た鉄塊系遺物。扁平で下面は剥離面様になっている。側部は連続的な破面と推定され、黒錆の滲みや放射割れに加えて、微細な錆跡も生じている。
125	第158図	B区	テラス1	鉄塊系遺物 (含鉄)	4.1	3.8	2.6	56	5	L(●)	分析資料No.13。分析資料詳細観察表参照。
126	第158図 PL65-1	B区	テラス1	鉄塊系遺物 (含鉄)	5.5	3.9	2.4	61	3	L(●)	厚さ2cmほどの扁平塊状をした鉄塊系遺物。側部は連続的な破面になっており、下面は炉壁表面からの剥離面とみられる。マグネタイト系の滓部から発達した含鉄部と推定され、上面の一部に微細な流動部分が認められる。含鉄部は芯部から表面寄りに広い。
127	第158図	B区	テラス1	木炭	4.8	4.9	2.2	23	1	なし	縦ミカン割3分の1程度に加工された炭材を用いた木炭。樹皮はなく、右上手側から枝の分岐部が認められる。材はやや年輪間隔の広い軟質材で、径3.2cmの間に年輪数18本程度と数える。炭化はやや不良で、芯部側だけに菊割れが発達する。また、表面の一部に焼損も生じている。
128	第158図 PL65-3	B区	テラス1	黒鉛化木炭 (含鉄)	4.5	2.1	1.5	12	5	H(○)	長さ4.5cmほどの含鉄の黒鉛化木炭。上面は材の表面とみられ、下手側の側部を中心に木炭組織が顔を出している。残る表皮は錆跡や酸化物に覆われており、一見、炉内滓のような外観を示す。前者と同様、菊割れが認められる木炭が母材となっている。
129	第158図 PL59-3	B区	テラス1 床面直上	砥石	14.3	16.1	10.1	2935	1	なし	厚さ9.5cmほどの扁平な砥石を用いた自然石砥石。左側部と短軸側の両側部が破面になっており、ものとの砥石の左下手側肩片にあたる。砥痕は上下面に認められるが、上面側の2面が主たる砥面と判断される。右側部から右下手側の側部にも狭い砥面が認められるが、使い減りは少ない。石質はやや軟質の凝灰岩系か。
130	第158図	B区	テラス1	台石? (滓付き)	3.65	2.8	0.9	8	2	なし	側部から下面が薄皮状の滓に覆われた台石状の石材の表面破片。石の厚みは4mm程度で、表面には破面が露出する。外面の滓は工具着滓の外周部に似たイガイガした圧痕状を示す。母材としては構成No.131の台石に類似か。但し、やや色調に黒みがあるように感じられる。
131	第158図 PL59-3	B区	テラス1 床面直上	台石? (被熱石)	11.8	10.9	9.6	1319	1	なし	上面と右側部下半に自然面を残す台石様の被熱石破片。側部から下面は複雑な破面になっており、上面のみならず、破面にも赤化範囲が認められる。火山性の礫由来の自然赤化の可能性もあり。本資料については前者の表面破片が滓に覆われていることから、何らかの使用歴が疑われる。石質は構成No.129とやや似た軟質である。
132	第159図	B区	流出溝1	炉壁 (質巻き痕付き)	2.9	2.7	1.6	10	1	なし	くすんだ色調の炉壁表面破片。内面のみが生きており、表面には幅7mm前後の上下方向に伸びるスマキ痕様の窪みが残されている。胎土は僅かにスサと粉殻を混じえる粘土質で、練りは甘い。構成された炉壁セットのうち上段下半以下が大多数のため、本例のような内面のスマキが一般的なものは不明。但し、被熱痕が弱い資料のためにたまたま本来のスマキ痕が残されているという可能性はあろう。
133	第159図	B区	流出溝1	炉壁	7.4	10.1	5.5	291	1	なし	内面の表層の滓化が認められる炉壁破片。現状の厚みは5.7cmほどで、側面4面と外面が破面になっている。大きなひび割れも発達し、内面表皮の半分以上と、ひび割れの表皮寄りが暗紫紅色に滓化している。補修痕は認められない。胎土は小礫を含む、ざっくりとした粘土質で、短いスサも僅かながら混じえられている。
134	第159図	B区	流出溝1	炉壁 (外面整形痕付き)	7.7	9.6	5.5	227	2	なし	内面寄りが複雑に滓化して外面の平坦面が残されている炉壁破片。側部は基本的に破面で、炉壁内面の滓化は焼き物の窯壁のような質感に熟変化している。外面にはナデ痕と見られる微かな痕跡を残す。胎土は練りが極めて悪く、微細なひび割れが目立つ。
135	第159図	B区	流出溝1	炉壁 (砂鉄焼結付き)	6.1	2.9	2.3	32	3	なし	内面上半に砂鉄焼結部が確認される炉壁小破片。左側部は粘土単位の接合部様に途切れており、残る側部から外面が破面になる。砂鉄焼結部の厚みは一定せず、補修痕も認められない。
136	第159図 PL64-2	B区	流出溝1	砂鉄焼結塊 (マグネタイト系滓付き)	3.3	3.3	1.55	23	3	なし	炉壁から剥離したと推定される砂鉄焼結塊破片。厚みは1.6cm程度で、側部全周が破面になっている。外面は剥離面。表面上面は砂鉄焼結状態で、下半にかけてはマグネタイト系の滓部が主体となる。
137	第159図 PL64-2	B区	流出溝1	マグネタイト系遺物 (含鉄)	4.0	2.5	2.4	29	3	M(◎)	下面が弧状の剥離面様になった含鉄のマグネタイト系遺物破片。表面は短い流動単位が生じており、青黒く磁着が強い。芯部に含鉄部が推定されるが、ごく一部とみられる。通風孔部周辺の炉壁表面で生成か。
138	第159図 PL65-3	B区	流出溝1	工具着滓	2.65	2.0	0.6	5	1	なし	側部4面が破面になった薄皮状の工具着滓破片。内面には径1.3cm前後の丸棒状の工具痕がやや弧状に残されている。外面は半流動状を示す。破面は2面が重層したような状態になっており、それぞれの厚みは1mm前後と薄い。
139	第159図 PL65-3	B区	流出溝1	工具着滓	3.1	2.3	0.6	7	1	なし	前者と同様、薄皮状の工具着滓破片。側部全周が破面になっており、内面には径1.4cm前後の隅丸方形断面をもつ工具痕が残されている。外面は半流動状で、左側部の破面では2枚が重層済み。
140	第159図	B区	流出溝1	流出孔滓	11.0	4.0	3.0	106	1	なし	細身の棒状をした流出孔滓破片。左右の側部がシャープな破面になっており、上面の一部に自然面が顔を出す。残る側部から下面はほぼ全体が炉壁状の圧痕に覆われる。工具痕程度の太さの流出孔滓のため、煉業の比較的初期に生成された流出孔滓か。

表34 製鉄関連遺物観察表(7)

構成 番号	挿図 PL	地区	出土遺構 層位	遺物名	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備 考
					長さ	幅	厚さ				
141	第159図	B区	流出溝1	流出孔滓	10.9	8.4	6.9	832	1	なし	径7cmほどの太い流出孔滓破片。表面の一部が土砂に覆われており、やや分りにくい資料となる。上面の一部が半流動状になっており、下手側の側部を除く側部3面は土砂に妨害されて表面状態が分りにくくなっている。そのため、側部3方が破面の場合は炉底塊の側部破片の可能性も残る。滓質は緻密で比重の高い滓部となっている。
142	第159図	B区	流出溝1	流出孔滓 (工具痕付き)	6.1	6.2	3.3	169	1	なし	上面に工具痕が残り、下面がやや不整な舟底状となる流出孔滓破片。左下手側と上手右側が破面と推定されるが、分りにくい状態を示す。滓質は流動性が低く、工具痕は流出孔の詰まりを解除するためと推定される。
143	第159図	B区	流出溝1	流出孔～溝滓	9.0	7.5	3.9	300	1	なし	左右の側部がシャープな破面になった流出孔～溝にかけたの滓破片。上下面共に炉壁土の圧痕に覆われている。滓質は緻密で、上面表皮寄りの気孔がやや肥大する。
144	第159図	B区	流出溝1	流出孔～溝滓	11.5	8.8	4.2	400	1	なし	分析資料No.14。分析資料詳細観察表参照。
145	第159図 PL66-2	B区	流出溝1	流出孔～溝滓 (工具痕付き・含鉄)	15.0	15.2	9.5	2545	2	錆化(△)	幅14cmを超える大型の流出孔～溝滓破片。左右の側部の滓が途切れきみで、上手側の側部中段には深い工具痕が2単位残されている。また、工具痕の上部は上方に向かってこじ上げられて変形する。上面表皮は炉壁溶解物に近い滓が流動する。側部から下面は右方向に向かい狭まる形の丸みをもった舟の軸先状で、表面には炉壁粉や滓片が目立つて固着する。左右逆の可能性もややあり。
146	第159図	B区	流出溝1	流出溝滓	11.0	8.4	2.9	341	1	なし	左右の側部の5面以上が破面になった流出溝滓破片。流れ皺の生じている滓が右方向に流れて、側部に沿って別単位の滓が寄り添うように重層する典型的な流出溝滓である。下面は丸みをもった舟底状で、灰色の炉壁土が固着しており流出孔滓的な感じも受ける。滓質は緻密。
147	第159図	B区	流出溝1	流出溝滓	13.7	9.6	4.4	608	1	なし	前者を幅広にしたような、ゆったりと流動する流出溝滓破片。左右の側部の一部が破面になっており、左側部は工具痕様の圧痕から自然に割れている。別単位の滓が流出孔底で重層した外観を示す。
148	第159図 PL65-2	B区	流出溝1	流動滓	4.95	1.7	0.7	12	1	なし	幅3mm程度の細身の流動滓が5本以上寄り添うように重層した流動滓破片。各滓の先端部は丸みをもって収束し、下面には細い筋状の滓層単位が露出する。ごく初期の流出孔滓の可能性もあり。左側部側は小破面となる。
149	第159図	B区	流出溝1	炉底塊	13.3	10.5	4.5	775	2	なし	幅10cmほどの炉底塊端部破片または、流出孔滓破片。左側部が主破面で、右側部中段には工具痕様の窪みが確認される。滓は重層しており、左上部には別単位の滓が乗っている。左側部が破面で上手側の側部にも小破面あり。下面は浅い舟底状で、炉壁土が面的に固着する。
150	第159図	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	4.7	4.3	1.8	30	3	錆化(△)	厚さ2.3cmほどの扁平塊状をした含鉄の炉内滓。表面が酸化土砂に覆われており、緩やかな波状の下面は炉壁土からの剥離面様となる。上面左側の肩部に黒鉛化木炭が顔を出す。含鉄部は小範囲で、錆影れも生じている。
151	第159図 PL68-2	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	7.4	4.9	4.3	154	6	錆化(△)	砂鉄焼結由来の炉内滓2片が再結合した資料。厚みは3cm前後で側部全周が破面になる。上面は緩やかな波状で、下面は面を成す剥離面様を示す。ザラザラした質感を持ち炉壁表面からの剥離品か。含鉄部は右側の芯部と推定される。
152	第159図	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	3.3	6.7	4.1	54	5	H(○)	表面に錆影れが目立つ不定形塊状の炉内滓破片。側部は破面が連続し、下面は剥離面と推定される。前者より含鉄部の生成が進んでいるものの、錆化も激しい。
153	第159図	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	5.3	3.7	2.4	34	3	M(◎)	厚さ1.5cmほどの炉内滓破片。側部3面が破面で、外面は炉壁表面からの剥離面になる。上面は緩やかに盛り上がり、芯部に含鉄部が推定される。外周部に薄皮状の再結合滓部あり。
154	第159図 PL68-2	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	4.4	6.4	2.1	70	6	L(●)	厚さ2cmほどの扁平な含鉄の炉内滓破片。上面は緩やかな平坦面で、側部は連続的な小破面になる。外面は剥離面様で錆影れが散在する。小範囲の含鉄部が広く生成されている。
155	第159図	B区	流出溝1	炉内滓 (含鉄)	6.7	4.0	5.2	156	5	L(●)	厚さ4cmほどの含鉄の炉内滓破片。上面は中央部が窪み、左右の側部を中心に破面が生じている。外面は浅い塊状の剥離面で、一部に錆影れが認められる。含鉄部が散在するが、前者より纏まりに欠けている。
156	第159図	B区	流出溝1	鉄塊系遺物 (含鉄)	2.7	2.0	1.4	12	3	L(●)	表面が青黒いマグネタイト系の滓部に覆われた鉄塊系遺物小片。半流動状で、側部や下面には木炭痕と推定される窪みも生じている。側部から小さな窪みが生じ、木炭を取り囲むような形で生成された資料である。見かけより鉄部の炭素量が高い可能性あり。
157	第159図 PL65-1	B区	流出溝1	鉄塊系遺物 (含鉄)	3.15	2.2	1.1	13	4	L(●)	右下手側が前者と似た青黒い流動状で、左上側がイガイガした錆色となる鉄塊系遺物。左側部が破面と推定され、破面右側には錆影れが突出する。芯部はほぼ全体が鉄部と予想される。
158	第159図	B区	流出溝1	鉄塊系遺物 (含鉄)	3.2	3.0	3.4	58	4	L(●)	分析資料No.15。分析資料詳細観察表参照。
159	第159図	B区	流出溝1	再結合滓 (含鉄)	4.5	5.4	4.7	98	3	錆化(△)	厚さ4.3cmほどの再結合滓破片。側部は全面破面で、一部に層状を成す再結合滓部が露出する。下面は滓主体で、粉炭痕が目立つ炉内滓が顔を出している。上面は平坦さみ。含鉄部は下半の芯部か。
160	第159図	B区	流出溝1	木炭	3.6	2.4	3.4	10	1	なし	右側部が刃物による斜め方向の切断痕となった木炭。木取りは縦ミカン割り8分の1程度で、一部の表面は焼痕が進む。材は厚さ3.5cmの間に年輪数13本を数える環孔材で、年輪間隔はやや広め。菊割れは認められない。
161	第159図	B区	流出溝1	木炭	6.9	3.6	1.8	19	1	なし	厚さ6.5cmを測る木炭。木取りは半割状態で炭化は良好。菊割れも生じている。材は環孔材で、厚さ1.5cmの間に年輪数15本を数える。樹種はナラまたはクスギ材か。
162	第159図	B区	流出溝1	黒鉛化木炭 (含鉄)	4.4	3.3	1.8	20	2	錆化(△)	下面に滓片が再結合した含鉄の黒鉛化木炭。3.7cmほどの長さをもち、右側部には菊割れが目立つ。表層が鉄と置換して鉛色の黒鉛化木炭になっている。磁着は弱め。
163	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段下半) (通風孔周辺付き・滓付き・ 砂鉄焼結付き・マグネタイト系滓付き・含鉄)	4.3	4.6	2.1	40	4	錆化(△)	内面に1.5cm前後の厚みをもつ砂鉄焼結部が固着した炉壁破片。砂鉄焼結部は下半部でマグネタイト系の滓化が進む。上半部端部は砂鉄粒子が区別できる顆粒状で、粒径は0.15mm～0.2mm程度である。側部から外面は破面で、炉壁土が薄皮状に残る。
164	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段下半) (砂鉄焼結付き・マグネタイト系滓付き・含鉄)	4.5	7.7	2.5	109	5	錆化(△)	左右方向に長手の、前者と基本的には類似した炉壁破片。内面に層状の砂鉄焼結部やマグネタイト系の滓部が固着し、炉壁土は裏面中央に僅かに遺存する。側部から外面は破面になっており、砂鉄焼結部上端が外傾して横方向の段を成す。下半部ではマグネタイト系の滓化が進んでいる。
165	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・上段下半)	4.1	5.0	2.5	44	1	なし	炉壁表面が溶けて焼き物の窯壁様の色調になった炉壁破片。側部から外面は破面で、下部には粘土質の短い垂れが生じている。胎土は短いスス入りで練りは甘い。
166	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段上半) (補修・マグネタイト系滓付き)	10.4	6.9	4.7	208	3	なし	内面に1枚の補修痕が加えられている中段上半相当の炉壁破片。側部から外面は破面になっており、外面には紫紅色に被熱した炉壁土が露出する。炉壁内面は滓化・溶損して、垂れも部分的に認められる。2枚の炉壁のうち、補修面側の色調がやや暗紫紅色となる。
167	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段上半) (マグネタイト系滓付き)	7.6	5.9	3.2	112	3	なし	内面の下部端部に補修痕が確認される炉壁破片。側部から外面は破面で、炉壁の被熱色は前者と似る。内面は滓化・溶損して青黒く、部分的に光沢をもつ。
168	第160図 PL60	B区	排滓場1	炉壁 (長軸側・中段上半) (補修・マグネタイト系滓付き)	7.2	7.2	2.8	100	3	なし	2枚以上の補修痕を残す炉壁破片。側部から外面は破面で、外面にはひび割れの発達した炉壁土が露出する。2枚目の補修面は内面にこびりついたような形で被熱した炉壁土のみが残されている。当初と2枚目の炉壁表面は滓化・溶損して、一部が構成No.165の滓化状態と似る陶器の窯壁様を示す。

第3章 調査の成果

表35 製鉄関連遺物観察表(8)

構成番号	挿図 PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
169	第160図 PL60	B区	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段上半) (通風孔周辺付き・ 砂鉄焼結付き・滓付き)	8.5	11.5	2.9	217	3	なし	内面上半に砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が残る炉壁破片。側部から外面は破面で、右上の側部を中心に1枚の補修痕が確認される。内面下半は短い垂れが発達し、下部端は内面にもせり出しきみとなる。これは通風孔部の上顎方向を示す可能性大。
170	第160図 PL61	B区	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・通風孔周辺付き・ マグネタイト系滓付き)	10.1	9.3	4.0	246	3	なし	左下部分に通風孔部の上顎周辺部を残す炉壁破片。側部から外面は破面で、少なくとも2枚の補修痕が確認される。内面は強く滓化・溶損して、通風孔部寄りがやや盛り上がる。当初の炉壁部分下半にも通風孔部寄りを示す赤褐色の被熱面あり。
171	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段下半) (通風孔周辺付き・ マグネタイト系滓付き)	9.1	8.4	2.0	144	3	なし	右下の部分が通風孔部寄りのために僅かに盛り上がる炉壁破片。補修痕の確認されない炉壁片で、側部から外面は破面になる。内面は強く溶損して、下部端寄りは垂れが伸びる。内面の色調は黒褐色から暗紫紅色。
172	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・通風孔周辺付き・ マグネタイト系滓付き)	5.8	8.3	4.1	139	3	なし	右下の部分が通風孔部寄りのためか盛り上がりぎみの炉壁破片。側部から外面は破面で、少なくとも1枚の補修痕が確認される。内面は滓化・溶損が進み、垂れの部分はマグネタイト系の滓部になっている。
173	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段下半) (補修・マグネタイト系滓 付き)	7.0	10.7	3.1	154	3	なし	左上の裏面に通風孔部周辺に特有の酸化色が残る炉壁破片。平面形はへの字状で、箱形炉のコーナー部寄りの通風孔部周辺破片かもしれない。側部から裏面は複雑な破面になっており、1枚の補修が成されている。下部端では垂れが大きく発達する。垂れの一部は細かな垂れが重層する流動滓の一種に似る。
174	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・中段下半) (通風孔周辺付き・ マグネタイト系滓付き)	11.6	9.2	4.2	276	3	なし	内面に少なくとも3枚の補修痕が重層した炉壁破片。側部から外面に加えて、最後の補修面の下半部も破面になっている。内面は滓化して、下半部では溶損のため垂れが生じ始めている。胎土は僅かにスサ入りで、中段付近に長さ6cm以上のスサ痕が顔を出す。補修痕が3枚を数える事例の存在は、見かけ上で1枚程度の補修痕となっている炉壁の場合にも注意が必要であろう。
175	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き)	3.8	3.6	1.5	12	1	なし	右側部外面に径3cm以上を測る円孔状の通風孔部が残る炉壁小破片。炉壁前面から見ると通風孔部は垂れにより塞がれている。側部の一部と外面が破面で、通風孔部壁面の薄い所では、厚みが3mm程度と極端に内面が溶損していることが読み取れる。外面は気孔の目立つ溶損部。
176	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き)	2.6	4.7	3.6	27	1	なし	上面に通風孔部壁面を残す炉壁小破片。通風孔部の先端下顎部分の破片で、下面左寄りには滓層が貼り付いている。側部の一部と外面が破面。前者の通風孔上顎部に比べて通風孔部壁面の溶損が少なく、約1cm程度の厚みを残している。
177	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段上半) (補修・通風孔1孔付き・ 砂鉄焼結付き・ マグネタイト系滓付き)	4.6	2.5	1.7	29	1	なし	右下の側部から外面に通風孔部壁面を残す炉壁小破片。側部の一部と外面が破面になっており、内面は青黒く溶損する。通風孔部の径は3cm以上を測る円孔状で、壁面には半還元の砂鉄が振り撒いたように固着する。この壁面を外れた上部にも面が認められ、補修された通風孔部壁面の可能性もあり。
178	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段上半) (通風孔1孔付き)	7.6	5.6	2.1	54	2	なし	前者とは逆方向で、左下の部分に通風孔部壁面の一部を残す炉壁小破片。側部の一部と外面は破面になっており、内面は溶損が進む。通風孔部の壁面自体は胎土中の小礫の表面とも重なる。従って、通風孔部としては右上の破片となる。
179	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段上半) (補修・通風孔1孔付き・ マグネタイト系滓付き)	7.1	6.7	4.1	88	2	なし	補修により明瞭に重層する通風孔部付きの炉壁破片。通風孔部は左下側部に残されており、残る側部からの外面は破面になっている。炉壁内面は通風孔部下の基部側が深く溶損して、通風孔部の先端部側が極端な山形に突出する形態を示す。補修痕は通風孔部先端まできれいに伸びている。遺存状況からみれば、炉壁から通風孔部にかけてを完全に覆う形で補修が行われた後に、次の操業が行われていることになろう。
180	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (通風孔周辺付き・ 基部接合痕付き・ 滓付き・炉内流動滓付き)	10.0	11.5	7.0	760	2	なし	左上の部分に通風孔部周辺の突出部が確認される炉壁基部破片。左右の側部から上顎部に加えて、外面全体が破面となる。炉壁基部には厚さ2cm前後の炉内流動滓が差込み込むように形成されて、炉壁基部が大きく溶損する。そのためか、炉壁全体が斜め方向に前傾してしまっている。通風孔部壁面そのものは脱落しているが、基部から7.5cm～8cmほどの落差をもつ。内面には黒色ガラス質やマグネタイト系の滓部に加えて、炉壁溶解物が厚さ3～5cmの厚みで固着している。通風孔部の先端は砂鉄が焼結して、サラサラした質感になる。炉壁溶解物が層状になる部分も認められることから、補修痕を反映している疑いも残る。
181	第160図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (通風孔1孔付き・ 基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	11.3	11.2	5.1	584	2	なし	右側部上半に径3cm以上の円孔とみられる通風孔部壁面を残す炉壁基部破片。左右の側部と上面に加えて、外面が破面になる。炉壁基部には厚さ2cm以下の炉内流動滓が貫入している。炉壁内面は激しく滓化・溶損して、木炭痕や短い垂れが認められる。通風孔部壁面沿いが山形に盛り上がり、隙間を挟んで前面に滓層が貼り付いている。炉壁基部から通風孔部までの高さは6.5cm前後と狭い。
182	第161図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	7.1	9.5	6.6	441	1	なし	通風孔部の確認されない炉壁基部破片。左右の側部から上顎部に加えて、外面が破面になる。炉壁基部には2cmを超える厚さの炉内流動滓が貫入した形で、炉壁側の前傾が進む。炉壁内面側は激しく滓化して、補修痕の可能性のある炉壁溶解物が乗っている。
183	第161図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・ 炉内流動滓付き)	8.5	16.4	6.1	670	2	なし	炉壁基部に粘土質溶解物主体の炉内流動滓が大きく突出する炉壁破片。炉壁基部は高さ4.5cmほどが上部が前傾する形で遺存しており、通風孔部は確認されない。左右の側部から上面に加えて、外面側が破面になる。炉壁のひび割れから外部の空気が流入したためか、炉内流動滓の表皮が酸化色を示している。
184	第161図 PL60	B区	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・上 段下半)(砂鉄焼結付き・滓 付き・マグネタイト系滓付 き・含鉄)	3.6	5.1	1.3	29	4	錆化(△)	内面に厚さ1cm程度の砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が貼り付いている炉壁小破片。砂鉄焼結部は上部ほど砂鉄粒子が区別される。側部から外面は全面破面。
185	第161図 PL60	B区	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・上 段下半)(砂鉄焼結付き・滓 付き・含鉄)	5.6	4.2	1.8	56	4	錆化(△)	内面上半に厚さ1.5cmほどの砂鉄焼結塊が固着した炉壁破片。平面形は緩やかな弧状で、炉壁コーナー部のうちでも上段下半相当と推定される。炉壁内面は黒色ガラス質に滓化して、砂鉄焼結部の上部端は炉壁長軸側と同様、横方向の段を成している。側部から外面は破面。
186	第161図 PL60	B区	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段上半)(補修)	10.8	9.6	3.5	281	2	なし	内面が溶損して、炉壁胎土中の石英質の石粒が白く浮き出している炉壁破片。側部から外面は破面になっており、右側部には1枚の補修痕が、また、左側部側からみとるさらにも1枚の補修痕が疑われる。外面中央に上下方向に伸びる滓層が貫入しており、部分的に砂鉄焼結部となっている。炉壁表面のひび割れから滓が貫入してしまっただけと推定される。炉壁内面の滓化状態は不自然で、炉壁コーナー部に由来する可能性もあり。
187	第161図 B区	排滓場 1	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段上半)(補修)	10.2	8.0	3.2	227	2	なし	側部から外面が破面になった中段上半相当の炉壁破片。右側部上半には明瞭な補修痕が残る。下半にかけては炉壁溶解物由来の滓層が厚く固着する。補修後の下部端は小塊状のイガイガした滓部となる。当初の炉壁胎土は短いスサ入りで、ひび割れが目立っている。
188	第161図 PL61	B区	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段下半)(補修)	11.5	8.8	2.3	214	2	なし	内面全体に補修痕が重層する中段下半相当の炉壁破片。側部から外面は破面になっており、外面には径3cm大の礫を含む胎土が露出する。炉壁内面は暗紫紅色主体のイガイガした状態で、胎土中の石英の石粒が点々と浮いている。平面形は緩やかな弧状。
189	第161図 PL61	B区	排滓場 1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中 段下半)(補修)	13.0	14.1	3.1	554	2	なし	右下の部分に1枚の補修痕が確認される中段下半相当の炉壁破片。側部から外面は破面で、外面には複雑なひび割れが広がっている。内面の滓化状態は上下で異なっており、右上の部分では炉壁中段上半相当で、以下が中段下半に相当する。不規則な凹凸や、瘤状の垂れが混在した滓化・溶損状態となる。

表36 製鉄関連遺物観察表(9)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
190	第161図	B区	排滓場1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段上半)	10.2	11.5	1.8	229	1	なし	側部から外面が破面となった炉壁破片。平断面図が緩やかな弧状を示す。内面は滓化・溶損が進み、不規則な窪みと短い垂れが混在する。内面右下の部分に錆色の滓層が僅かに遺存する。外面は炉壁土の色調がまちまちな状態で、かつ、別単位の炉壁破片を混している状態を示す。炉壁土の調整の折に、周辺部にあった炉壁片を巻き込んでしまったものか。2片が確認され、それぞれ3cm前後の大きさをもっている。
191	第161図	B区	排滓場1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段上半(補修・マグネタイト系滓付き))	11.5	14.4	1.9	435	3	なし	平面形が弧状となった補修された炉壁破片。補修痕は1枚ないし2枚で、側部から外面は破面になる。内面は強く溶損して面を成し、僅かな垂れが盛り上がる。当初の壁面の右下部分が通風孔部沿いの疑いも残るが不明瞭なため、炉壁コーナー部側としている。
192	第161図	B区	排滓場1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部(基部接合痕付き・滓付き))	11.3	16.0	6.8	1353	2	なし	平面形が明瞭な弧状を成す炉壁基部破片。滓化状態からみて左側が炉壁長軸側で、右側が炉壁短軸側からコーナー部の可能性をもつ。左右の側部から上面に加えて、外面全体が破面。内面左側を中心に1枚以上の補修痕とみられる炉壁溶解物が認められる。内面右側は木炭痕を残す炉内部分で全体に錆色になっている。下面に沿って炉内流動滓が広がっており、補修の前後で中間部分に隙間が生じている。本遺跡の楕形炉のコーナー部が直角ではなく、緩やかに曲がるということが証明できる資料である。
193	第161図	B区	排滓場1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部(基部接合痕付き・滓付き・小穴付き))	8.9	8.0	7.2	290	3	なし	右側部中段に径2.3cmを測る小穴が残されている炉壁基部破片。左右の側部と外面が破面になっており、炉壁基部にはごく薄い炉内流動滓が貫入している。内面は左下の部分が黒色ガラス滓化して、流出孔部側の疑いを残す。残る右側の部分は炉壁溶解物が下半にかけて瘤状と盛り上がる。問題となるのは右側部の小穴である。炉壁基部から3.5cmほど上部に位置した通風孔部としては低すぎる上に径も一回り小さい。滓の流出孔を想定した先導孔または、炉体乾燥時の対流を目的とした特殊な小穴なのかもしれない。
194	第161図	B区	排滓場1	炉床土 (滓付き)	7.6	11.9	4.3	226	2	なし	内面に厚さ2.5cm程度の滓層が固着した炉床土様破片。側部全周が破面で、外面には灰色に被熱した炉床土が薄皮状に残っている。また、炉床土にひび割れが生じていたためか、不定方向の襲状に貫入滓が突出する。短軸方向の断面形は緩やかな逆L字状となる。
195	第161図 PL64-2	B区	排滓場1	砂鉄塊結塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	9.7	5.1	2.6	176	4	H(○)	側部4面が破面になった砂鉄塊結塊破片。上半部は砂鉄粒子の区別が可能で、下半部は砂鉄粒子の隔着が進み、マグネタイト系の滓部に変化している。砂鉄の粒径は0.12mm大～0.2mm大前後を測る。平面形は弧状で、炉壁コーナー部の表面で生成か。
196	第161図 PL65-3	B区	排滓場1	マグネタイト系遺物	4.7	3.0	2.0	45	3	なし	分析資料No.16。分析資料詳細観察表参照。
197	第161図	B区	排滓場1	工具付着滓 (含鉄)	3.45	2.0	0.5	6	1	錆化(△)	内面に径1.2cmほどの隅丸方形の縦断面をもつ工具痕が残る工具付着滓破片。側部は全周が破面で、外面は低い凹凸が並ぶ土砂の接地痕になっている。薄手の工具付着滓で、破面には重層が認められる。
198	第162図	B区	排滓場1	流出孔滓	11.1	3.7	2.2	91	1	なし	左右の側部が破面になった細身の流出孔滓破片。上下2段の滓が重層した資料で、表面には流れ皺が強い。右方向に曲がりながら太さを増している。下面は炉壁粉と粉炭痕に覆われている。
199	第162図	B区	排滓場1	流出孔滓	11.7	4.7	3.7	206	2	なし	右側部がシャープな破面になった細身の流出孔滓破片。上面は緩やかな破面で、低い凹凸が生じている。左側部は下面が全体に滓化した自然面となる。上手側の側部には上下の滓の隙間が残る。下面は細い舟底状になっている。突き動かされて、流出孔中でひび割れたまま放置された資料か。
200	第162図	B区	排滓場1	流出孔～溝滓	13.2	7.0	6.6	525	1	なし	突き動かされて短軸方向に半回転した形の流出孔～溝滓破片。左側部に小破面があり、右上手側の側部が広く変形している。上面は緩やかな流動状で滓の重層が認められ、右上手側が斜め上方に立ち上がる。側部から下面は丸みをもった舟底状で、表面は炉壁粉の圧痕に覆われる。
201	第162図	B区	排滓場1	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	9.9	8.0	4.2	363	1	なし	左側部に斜め上方から差し込まれた強い工具痕を残す流出孔～流出溝滓破片。工具痕は径1.5cmほどの丸棒状で、上面にも水平方向の当りあり。右下方に滓先端部は収束して工具痕周辺が不自然に欠けている。上手側の側部中段に小破面あり。下面は浅い舟底状で、工具付着滓が3片ほど固着する。
202	第162図 PL66-2	B区	排滓場1	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	14.2	9.5	5.6	756	2	なし	上面に3単位の工具痕を残す流出孔～流出溝滓破片。左右の側部の一部が破面で、右下手側は薄くなって収束する。左側部下半は滓が工具により変化した折の破面。側部から下面は左右に長手の舟底状で、左寄りには工具痕貫入滓が大きく突出する。滓質は流動性が低い。
203	第162図 PL66-2	B区	排滓場1	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	12.5	13.3	5.6	1207	2	なし	右方向に広がる形の流出孔～流出溝滓破片。左側部側は引きちぎられた形態で、右寄りの肩部や側部を中心に6単位を数える工具痕が残されている。工具痕は右から左へと、斜め上方からの2方向で、残りの良い部分では径1.5cmほどの丸棒状の工具先端部が当たっている。上面は半流動状で中央部が左右方向に陥没し、側部から下面は丸みをもった舟底状になっている。滓の芯部は流動性の低い炉内滓様。
204	第162図	B区	排滓場1	流出溝滓	10.6	8.7	4.9	438	1	なし	分析資料No.17。分析資料詳細観察表参照。
205	第162図	B区	排滓場1	流出溝滓	15.6	10.4	5.8	1062	2	なし	左右の側部が破面になった、流出溝滓破片。丸棒状の滓が3単位から4単位重層した資料で、左右逆の可能性も残る。ゆったりとした流動単位が重層して、部分的に内部のガスにより上皮下が肥厚した気孔になっている。右側の側部は壁面が乱れており、工具による変形の可能性がある。また、上手側の側部に工具痕らしき圧痕が確認できる。
206	第162図	B区	排滓場1	流出溝滓 (工具痕付き)	12.2	13.1	8.5	1807	3	なし	上面を中心に複数箇所の工具痕が確認される流出溝滓破片。左側部が主破面で、上面の滓は重層と工具による変形が生じている。幅広く右側で立ち上がる形の滓で、側部から下面には炉壁粉と粉炭痕が密。上面の工具痕は水平方向で、左側の肩部に残る工具痕は斜め上方から示している。この後者の側部に工具付着滓らしき突出部あり。また、左側部下手側には工具痕流入滓の突出あり。滓を取り除くため色々な力が加えられている滓である。
207	第162図	B区	排滓場1	流出溝滓 (工具痕付き・含鉄)	8.3	11.9	5.4	725	3	錆化(△)	前者と大きさは異なるがやや性格が似た工具痕付きの流出溝滓破片。左右の側部が主破面で、上面には幅4cm前後の浅い楕形の工具痕が残されている。短軸方向の側部から下面は丸みをもった舟底状で、右方向に立ち上がる。滓質は緻密。
208	第162図	B区	排滓場1	流出溝滓 (たまり滓)	19.5	14.5	6.9	2064	2	なし	左側部が主破面となった流出溝滓(たまり滓)破片。別単位の滓が次々と重層して浅い碗状になっている。上面は滓単位と流動単位が異なる滓に覆われ、右側部下半は流出孔滓様の滓を巻き込んでいる。側部から下面は幅広い舟底状で、炉壁粉の圧痕主体となる。滓の流動方向が途中で変わっている可能性大。
209	第162図 PL65-2	B区	排滓場1	流動滓	5.8	2.0	0.9	16	1	なし	左側部がシャープな破面になった幅1cm前後の流動滓の先端部破片。上面は平滑で、側部から下面は炉壁粉の圧痕に覆われる。
210	第162図	B区	排滓場1	炉底塊 (含鉄)	9.1	8.5	3.5	367	6	M(◎)	左右の側部2面と上手側が破面になった炉底塊端部破片。下手側の側部は左右方向に途切れた自然面で、部分的に滓が垂れ下がる。下面は浅い皿状で炉床土の圧痕に覆われている。滓質は緻密ながら気孔も存在する炉内滓様である。含鉄部は下面に沿って複数箇所が予想される。
211	第162図	B区	排滓場1	炉底塊 (炉内流動滓付き・コーナー部・工具痕付き・含鉄)	16.7	8.5	7.6	1232	5	L(●)	左側部が大破面になった含鉄の炉底塊破片。厚みは8cm程度で、右側部側が薄くなる傾向を示す。主破面が上手側の手前側から右側部下半、さらには下手側の側部にも残されている。炉底塊コーナー部寄りの含鉄部は上らう。下面中央部はごく浅い皿状で、炉床土の圧痕に覆われる。含鉄部は上面中央に残る径4cm、厚さ1cmほどの部分である。
212	第162図 PL67-2	B区	排滓場1	炉底塊 (含鉄)	16.6	18.3	6.6	1922	5	L(●)	側部全周が破面になった含鉄の炉底塊破片。厚さ5cm前後の炉底塊で、上面が浅く窪み、下面が僅かに突出する。上手側の側部は本来の炉底塊の側部寄り、下手側の側部がやや脱落する。浅い皿状の下面は炉壁土の圧痕に覆われ、上面は一部の表皮が脱落しているものの、中小の気孔の並ぶ滓表面となる。含鉄部は上面表皮寄りに広く分散し、下面の一部にも確認できる。

第3章 調査の成果

表37 製鉄関連遺物観察表(10)

構成番号	挿固PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
213	第162区 PL68-2	B区	排滓場1	炉内滓	6.4	4.5	3.1	137	3	なし	左右の側部と上手側の側部が破面になった炉内滓破片。上面は1cm前後の木炭痕の残る平坦面で、下面表皮は脱落する。滓質は上半が緻密で、下面沿いは木炭痕の目立つ滓部となる。
214	第162区 B区	排滓場1	炉内滓	炉内滓	4.5	5.7	4.9	145	3	なし	上面に通風孔部周辺とみられる炉壁土とマグネタイト系の滓部が広がる炉内滓破片。左右の側部と上手側の側部が破面で、もとの炉底塊の長軸側面破片と推定される。下面沿いや下手側の側部寄りには錆色が強いマグネタイト系の滓部が青光りしている。
215	第162区 B区	排滓場1	炉内滓(含鉄)	炉内滓(含鉄)	3.9	4.6	1.9	47	3	H(○)	厚さ2cmほどの扁平な含鉄の炉内滓破片。短軸側の両側部と右側が明瞭な破面になっている。上面は浅く窪み、下面から左側部にかけては剥離面様。全体に黒錆が吹き磁着が強い。
216	第162区 PL65-1	B区	排滓場1	鉄塊系遺物(含鉄)	2.65	4.3	1.3	18	4	L(●)	厚さ1.5cmほどの扁平塊状をした鉄塊系遺物。側部は破面と木炭痕による窪みが共存し、芯部から黒錆の滲みと放射割れが生じている。芯部はほぼ全体が鉄部と推定される。
217	第162区 PL65-1	B区	排滓場1	鉄塊系遺物(含鉄)	2.7	2.9	1.9	19	3	L(●)	右側部から下手側の側部が破面になった扁平塊状の鉄塊系遺物。下面は炉壁表面からの剥離面様で平坦面となる。また、一部が砂鉄焼結部にガラガラしている。芯部から黒錆が吹き、放射割れも生じ始めている。
218	第162区 PL65-1	B区	排滓場1	鉄塊系遺物(含鉄)	3.0	2.8	2.3	23	3	L(●)	厚さ2cmを測る小塊状の鉄塊系遺物。下面の中央部や上面の一部に錆影れが生じて、黒錆も滲んでいる。左側部を中心に錆影れや錆影れ欠けが残る。
219	第162区 PL65-3	B区	排滓場1	黒鉛化木炭(含鉄)	4.2	1.2	0.7	2	2	錆化(△)	厚さ4.1cmほどの黒鉛化木炭の小片。上面下手側には新しい破面があり、内部の木炭組織が鉛色の光沢をもって露出する。薄いミカン割りされた炭材が母材で、生きている表面は薄い酸化土砂に覆われている。
220	第163区 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・上段下半)(砂鉄焼結付き・マグネタイト系滓付き)	4.5	6.2	2.0	86	5	なし	内面に厚さ1.8cm程度の砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が生成した炉壁破片。炉壁部分は外面下端のごく小範囲で、9割以上が砂鉄焼結部になっている。側部4面が破面で外面は剥離面主体。焼結した砂鉄粒子は0.2mm大以下で、下方に向かって還元がより進んでいる。
221	第163区 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・上段下半)(砂鉄焼結付き・マグネタイト系滓付き・含鉄)	5.6	11.1	2.6	180	5	錆化(△)	前者と同じ高さで推定され炉壁上段下半の破片。内面には砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が面的に固着する。側部から外面の中央部が破面で、外面の外周部は剥離面様となる。内面は砂鉄焼結部から下側に向かって還元が進み、マグネタイト系の滓部が流動し始めている。
222	第163区 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・上段下半)(マグネタイト系滓付き)	8.8	4.9	4.1	146	4	なし	補修痕の残る上段下半の炉壁破片。内面には2枚の補修面が重層して側部から外面の大半は破面になっている。内面の滓化状態は補修の前後ともよく似ており、上方では砂鉄焼結部が残るのに対して、中段から下段ではマグネタイト系の滓部が発達する。炉壁土は短いスサ入りで練りが甘い。本資料等により炉壁は上段下半～下段下半までが確実に補修された上で、次の採集が行われていることが分かる。
223	第163区 B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段上半)(横方向接合痕付き)	炉壁(長軸側・中段上半)(横方向接合痕付き)	9.5	8.3	5.6	269	2	なし	5.3cmほどの厚みをもつ炉壁破片。内面は滓化が始まった程度で被熱が弱く、大きなひび割れも露出する。右側部下半は粘土単位の接合部とみられる平坦面で、残る側部4面と外面上半が破面になっている。平面形が僅かにへ字状に折れ曲がっているため、やや炉壁コーナー部寄りの疑いもある。補修痕がなく、胎土情報が読み取りやすい資料である。炉壁土には一定量の短いスサを混じえている。
224	第163区 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段上半)	8.8	10.1	3.1	208	2	なし	前者に類似する、滓化の始まった程度の被熱状態を示す炉壁表面破片。側部4面と外面全体が破面になっている。胎土側のひび割れが内面にも露出して不規則な中空部が生じている。本資料にも補修痕は認められない。
225	第163区 B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段上半)(補修)	炉壁(長軸側・中段上半)(補修)	8.3	12.2	6.6	368	3	なし	内面の中央部に1枚の補修面が重層する炉壁破片。側部は全周が破面で、外面中央部は生きている可能性あり。内面の滓化状態は左側が溶損して窪み、右側では構成No.224に似た滓化の弱い面を成す。胎土は小礫を混じえざっくりしたもので、微細なひび割れが無数に生じている。補修後の炉壁内面中央部にはマグネタイト系の滓部が固着する。
226	第163区 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段下半)(補修・マグネタイト系滓付き)	10.6	13.9	3.4	376	4	なし	少なくとも1枚の補修が加えられている中段下半相当の炉壁破片。側部は全周が破面で、外面全体も破面とみられる。内面は砂鉄焼結部から変化したマグネタイト系の滓部が上半部を覆い、下半部では溶損が始まっている。補修の前後で滓化状態はよく似ている。
227	第163区 PL61	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段下半)(補修)	13.3	12.4	3.3	382	2	なし	内面上半部に1枚の補修面が確認される炉壁破片。側部から外面は全面破面で、内面下半部は溶損して粘土質の垂れが目立ってきている。また、上半部では補修痕が面を成すのに対して、下半部では補修部分が全て滓化して脱落してしまっている。平面形はやや弧状。
228	第163区 B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段下半)(補修)	炉壁(長軸側・中段下半)(補修)	11.0	10.4	4.0	477	3	なし	分析資料No.18。分析資料詳細観察表参照。
229	第163区 PL61	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・中段下半)(補修)	15.2	16.1	4.7	1022	3	なし	内面下半に重層状態が確認される中段下半相当の大型の炉壁破片。側部から外面は連続する破面になっており、外面には3cm大以下の礫を含む炉壁胎土が露出する。内面は上部から順に滓化・溶損が進み、不規則な窪みや中小の垂れに覆われる。また、上端寄りではマグネタイト系の滓部により磁着が強いに対して、炉壁の溶損部分では磁着反応が極めて弱くなる。平面形はほぼ直線状。内面上部の補修痕は痕跡程度で、下部で明瞭になる。
230	第163区 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段上半)(補修・通風孔周辺付き)	8.7	8.6	4.2	156	3	なし	右側部上半に通風孔部壁面を残す炉壁破片。補修痕もあり。本来の部位は下段下半の上部に相当する炉壁である。通風孔部は円孔で、補修の前後ともほぼ同位置に設けられている。残る側部から外面は破面になっている。補修は1枚で、当初の壁との間に収縮のため隙間が生じている。内面は溶解して、通風孔部沿いがやや盛り上がる。
231	第163区 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段上半)(補修)	9.0	10.4	3.5	318	3	なし	3枚の補修痕が確認される下段上半相当の炉壁破片。側部から外周部は破面になっている。補修土のうち1枚目は炉壁土の練りが甘くひび割れが目立つのに対して、2枚目はやや緻密な土を用いているという特色がある。各面が同じような滓化を繰り返しながら順次塗り重ねられており、採集単位毎の大きな差は考えにくい。
232	第163区 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段上半)(補修・通風孔周辺付き・滓付き)	12.5	10.1	4.5	393	1	なし	2枚の補修面が確認される下段上半相当の炉壁破片。側部から外面は破面で、内面は溶損して最終補修面のみ錆色が強い。平・断面図が僅かに弧状となる。
233	第163区 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段上半)(補修・滓付き)	11.3	12.3	6.1	766	1	なし	内面に1枚の補修面が確認される炉壁基部破片。本来は下段下半相当の炉壁破片で、下面には上下2段にわたる平坦面が確認される。通風孔部そのものは欠失して不明。内面には気孔が目立つ炉内滓が広がっている。側部から外面は破面。
234	第163区 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段下半・基部)(基部接合痕付き・滓付き・コーナー部)	8.6	15.4	3.5	534	2	なし	上端部の左右2箇所に通風孔部の痕跡を残す炉壁基部破片。左右の側部から上面、さらには外面が破面となる。下端部は炉壁基部の平坦面で、僅かに流動状の滓が認められる。内面は激しく滓化・溶損して、木炭痕や大型の気孔が目立つ炉壁溶解物に覆われる。通風孔部の芯と間隔は12cm前後で、基部からの高さは6.5cm前後と推定される。平面形は全体に弧状となる。補修痕は不明。
235	PL63-1	B区	排滓土坑1	炉壁(長軸側・下段下半・基部)(補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・炉内流動滓付き)	13.7	11.6	5.5	598	2	なし	1枚の補修が行われている通風孔部付きの炉壁基部破片。右上の肩部に前後2回分の通風孔部壁面が短く突出する。炉壁基部は直線的に途切れて、直下には厚さ1cm程度の炉内流動滓が貫入している。内面の補修痕は通風孔部から基部側へ伸びており、広範囲の補修が確認される。炉壁基部から通風孔部までの高さは7cm程度であろう。補修痕と通風孔部との関係がよく分かる資料といえる。

表38 製鉄関連遺物観察表(11)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
236	第164図 PL63-1	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (通風孔2孔周辺付き・基部接合痕付き)	9.1	12.5	7.0	644	2	なし	前者と同様、補修が推定される炉壁基部破片。通風孔部の突出は左側部が確実で、右側肩部にも通風孔部周辺とみられる突出傾向が認められる。通風孔部そのものは遺存せず、左右の側部から上端部へて外面が全面破面になっている。基部の平坦面はやや不明瞭で、内面から垂れ落ちている粘土質の垂れが伸びている。炉壁表面は通風孔頸部周辺が青黒く、以下は暗紫紅色が強い。
237	第164図 PL63-1	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (通風孔周辺付き・基部接合痕付き・炉内流動滓付き)	8.8	21.2	7.8	1115	3	なし	上面左側が通風孔部周辺と推定される炉壁基部破片。平面形が右側で折れ曲がっており、炉壁長軸側からコーナー部にかかる部分の破面と推定される。左右の側部から上面の一部をへて、外面全体が破面になる。炉壁基部は直線状に途切れて、厚さ1.5cm程度の炉内流動滓が貫入してきている。炉壁内面は通風孔部側が3cm以上突出して、イガイガした炉内滓や炉壁溶解物が折り重なるように固化している。左側部の破面には炉壁溶解物が前後2枚が認められるため、補修痕を疑わせる。
238	第164図 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	7.2	16.9	5.6	486	2	なし	前者とは逆で、上端右側に通風孔部周辺を疑わせる酸化色部分を残す炉壁基部破片。平面形は緩やかな弧状で、左側が炉壁コーナー部に近いことが窺える。左右の側部から上面、さらには外面上半が破面になる。炉壁部分は高さ3cm程度しか残留せず、直線状に途切れている。基部直下には2単位の炉内流動滓が貫入して大きな舟底状となる。炉壁部分は左側が前傾しており、直下の炉内流動滓が主体になっている。また、内面は下半ほど錆色が強い。
239	第164図 PL63	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き)	12.6	16.6	6.5	1088	2	なし	本遺跡で最も遺存状態の良い通風孔部2孔を残す炉壁基部破片。少なくとも2枚の補修面を数える。通風孔部は左右の上半肩部で、壁面が内側に大きくせり出している。通風孔は円孔と推定される。残る側部から上面に加えて、外面全体が破面になる。通風孔部の志々間隔は他の資料と比べて広く、14cm近い間隔を推定できる。下端部は平坦に途切れた基部となり、通風孔部との距離は6.5cmほどになる。2枚の補修面を含めて内面は激しく滓化して、粘土質溶解物を含む滓部が大きな凹凸状態を示す。左右の通風孔部が突出するのに対して、中間部分は大きく溶損して窪む。
240	第164図 PL63-1	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	9.7	15.1	8.3	844	2	なし	前者と比較的似た形の炉壁基部破片。左右の肩部に通風孔部周辺が確認され、少なくとも1枚の補修面が残されている。左右の側部から上端部をへて外面が破面になる。通風孔部は径3cmほどの円孔で、左右の間隔は12.5cmを超える。平坦な基部には炉内流動滓が貫入して、補修の前後とも壁面上部が前傾する。基部と通風孔部の距離は7.5cm前後か。内面には補修土が面を成して表皮は滓化が進む。
241	第164図 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁 (長軸側・下段下半・基部) (補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	7.7	14.2	3.7	626	2	なし	左右の肩部に通風孔2孔を残す炉壁基部破片。補修痕はみられず、単独の炉壁表面にみえる。左右の側部から上端の一部に加え、外面全体が破面。炉壁基部は平坦で、内面に沿ってややガス質の滓が面を成して固着する。通風孔部の間隔は11cm前後と推定され、基部からの高さは7cm強か。なお、炉壁上半は通風孔部を含めて前傾気味となっている。通風孔部周辺が突出し、頸部側がイガイガした炉内滓層に覆われる。
242	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中段上半)	12.5	14.2	5.5	702	3	なし	平面形が弧状に折れ曲がったやや分厚い炉壁破片。側部から外面は破面で、粘土の練りが悪いために乱雑なひび割れが目立つ。内面は滓化・溶損して上方からの垂れが生じており、中間部分で上下方向のひび割れにより深い窪みが生じている。さらにひび割れ由来の外気の影響のためか、内面の一部が明るい紫紅色となる。
243	第165図 PL60	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中段上半)(補修・マグネタイト系滓付き)	13.9	9.5	4.5	478	3	なし	2枚の補修面が確認される中段下半相当の炉壁破片。側部から外面は破面で、内面は上部から順に滓化・溶損が進む。内面下半部には表層にマグネタイト系の滓が生じて、磁着の強い垂れが確認される。粘土の練りが悪く、外面のひび割れが目立つ。
244	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中段下半)(滓付・マグネタイト系滓付き)	9.4	6.8	4.3	183	3	なし	補修痕の認められない中段下半相当の炉壁破片。側部から外面は破面で、内面には粘土質の垂れが乱雑に垂れ下がっている。
245	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・中段下半)(補修)	9.5	7.7	2.5	145	2	なし	2枚の補修面が確認される中段下半相当の炉壁破片。内面は前者と同様、粘土質の垂れが残されている。平面形は緩やかな弧状。
246	第165図 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段上半)(補修・通風孔周辺付き・滓付き・基部接合痕付き)	12.2	11.9	5.5	610	3	なし	少なくとも1枚の補修面が確認される下段上半～下半相当の炉壁破片。平面形は強い弧状で、下端部は炉壁基部の可能性も残る。側部から外面は全面破面。内面は上半部が炉壁溶解物による凹凸が主体で、下半部には錆色が加わる。炉壁コーナー部の資料であろう。左側部には補修面の裏面が面として露出する。
247	第165図 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半)(補修)	11.6	9.8	2.0	230	4	なし	前者と似た平面形が弧状になる炉壁破片。補修面が1枚重層しており、側部から外面が破面となる。内面は溶損が進み、下端部寄りに垂れが生じている。また、炉壁のひび割れのためか、部分的に紫紅色となっている。
248	第165図 PL63-1	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部) (基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	9.8	14.9	5.6	586	1	なし	平面形が強い弧状で、炉壁コーナー部の可能性の強い炉壁基部破片。左右の側部から上端部をへて外面全体が破面になる。内面上部が黒色ガラス質滓化しており、下半部では錆色の炉壁溶解物が出る。下端部は炉壁基部で、右寄りの部分のみ炉内流動滓が貫入する。粘土はスス入りで、中央部に径4.5cm大の礫を含んでいる。また、長軸側の通風孔部付きの基部破片に比べ、炉壁自体の被熱色が異なっている。炉壁コーナー部沿いのため炉内温度が低いにもかかわらず。
249	第165図 PL62	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部)(補修・基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	12.6	9.6	4.6	404	3	なし	構成No.246と似た補修痕1枚を残す炉壁基部破片。平面形は強い弧状で、下端部は平坦さみに途切れている。側部から外面は全面破面。内面は溶損が進み、粘土質の垂れが瘤状またはツララ状に固着する。色調はくすんだ暗紫紅色。
250	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部)(補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き・炉内流動滓付き)	8.9	12.5	6.5	723	3	なし	平面形が弧状をした、分厚い補修痕が1枚確認される炉壁基部破片。左右の側部と上面から外面が破面になる。補修のため炉壁基部が2単位に分かれており、位置や角度にもズレが生じている。加えて、補修後の炉壁基部には厚さ4cmに達する炉内流動滓が貫入してしまっている。平面形が弧状になることから、炉壁コーナー部の資料と推定される。
251	第165図 PL63	B区	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・コーナー部・下段下半・基部)(補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・炉内流動滓付き)	15.5	16.3	10.8	1589	2	なし	補修痕が1枚確認される大型の炉壁基部破片。平面形が全体的に弧状で、炉壁コーナー部の資料と推定される。左右の側部から上面をへて、外面全体が破面になる。右側部上半の被熱色が通風孔部周辺に似る部分もあるが、ひび割れ由来の空気の流れに起因するものかもしれない。下端部は上下2段に分かれており、中間部分には厚さ1cm以下の炉内流動滓が貫入する。内面は激しく滓化・溶損して、炉壁溶解物が盛り上がる。また、ひび割れ由来の大きな窪みも生じている。粘土の練りの悪さを窺わせる資料である。
252	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (通風孔流入滓付き)	6.8	8.5	4.0	177	2	なし	上左側の肩部に炉内側から流入した滓が伸びている炉壁基部破片。左右の側部から上面をへて、外面が破面になっている。下端部は炉壁基部で、僅かに滓が貫入する。内面は炉壁表面に沿って粘土質の滓やマグネタイト系の滓が固着する。上端部の流入した滓は炉壁のひび割れまたは、通風孔の頸部からの逆流と想定される。炉壁表面からは長さ4cmほど内面に入り込んでおり、先端部が丸みをもって下がついた形で収束する。表面には流れ跡も確認される。
253	第165図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (短軸側・下段下半・基部) (通風孔1孔付き・基部接合痕付き・滓付き)	9.0	8.4	3.5	251	1	なし	右上の肩部に通風孔部壁面の一部を残す炉壁基部破片。側部から外面は破面になる。下面は直線に途切れた平坦面で、薄皮状の炉内流動滓が貼り付いている。基部と通風孔部の距離は6.5cm前後を測る。炉壁自体は前傾さみで、通風孔部以外は溶損して窪む。
254	第166図 B区	排滓土坑1	排滓土坑1	炉壁 (基部接合痕付き・砂鉄焼結付き・滓付き・炉内流動滓付き)	8.9	19.3	12.1	1668	2	なし	炉壁基部から炉床土にかけての大型資料。主体は厚さ7cmにも達するイガイガした炉壁溶解物で、上手側の右側部のみが本来の炉壁部分になっている。炉壁部分は前傾して炉壁溶解物と接してしまっており、周辺部には砂鉄焼結塊が破片化して固着する。下手上手側の炉床土の上面には厚さ4.5cmにも達する滓層が広がっている。

第3章 調査の成果

表39 製鉄関連遺物観察表(12)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
255	第166図	B区	排滓土坑1	炉壁 (通風孔周辺付き・炉床土付き・炉内流動滓付き)	7.1	12.1	4.9	526	1	なし	上面に薄皮状の炉壁部分を残す分厚い炉内流動滓層破片。手前側側部と右側部が破面で、中小の気孔が乱雑に露出するややガス質の炉内流動滓となる。流動滓部分は左上手側で丸みをもって収束する。炉壁基部の部分が炉内側に倒れ込んだ資料で、構成No.61と極めて類似する。炉内流動滓が炉壁基部に寄り込むことで、炉壁の前傾を誘発することを物語る資料であろう。
256	第166図	B区	排滓土坑1	炉壁 (通風孔周辺付き・横方向接合痕付き・基部付き)	8.4	18.1	11.5	1577	3	なし	炉内流動滓部分が2単位に分かれている炉壁基部破片。炉壁部分は完全に前方に倒れ込んでおり、流動滓上面と接してしまっている。また、上面中央部から下手側に伸びる残存部は通風孔部周辺の可能性が高い。左右の側部と下手側の側部が主破面で、肩部にも小破面あり。炉内流動滓部分は径5cm大の2単位に分かれており、それぞれの上部部に炉壁基部の痕跡を残す。これは少なくとも1回の補修が行われたことに由来するものであろう。炉内流動滓の上面は半流動状で、破面は下層ほど中小の気孔が目立つ。外面寄りの平面形が弧状を成しており、炉壁長軸側端部の基部破片であろう。
257	第166図	B区	排滓土坑1	炉床土 (滓付き)	3.6	6.8	2.2	46	2	なし	上面が薄皮状の粘土質溶解物に覆われた炉床土破片。側部4面が破面で、浅い皿状の下面には灰色基調の炉床土が薄く残存する。
258	第166図 PL64-2	B区	排滓土坑1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	5.8	4.3	1.7	47	5	錆化(△)	厚さ1.7cmほどの薄板状をした砂鉄焼結塊。側部が破面で、外面は炉壁表面から剥落したためか面を成している。内面側は右側が盛り上がり、下半ほど砂鉄の焼結が進む。
259	第166図 PL64-2	B区	排滓土坑1	砂鉄焼結塊 (含鉄)	5.2	4.4	1.6	62	5	錆化(△)	厚さ1.7cmほどの薄板状をした砂鉄焼結塊破片。側部5面と裏面の外周部が破面で、裏面下半は炉壁表面からの剥離面となる。表面は緩やかに盛り上がる砂鉄焼結部で、上部では砂鉄粒子が区別できる。粒径は0.2mm大～0.15mm大を測る。磁着が強いことから、還元程度は甘い。
260	第166図	B区	排滓土坑1	砂鉄焼結塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	10.1	6.7	2.3	286	6	錆化(△)	分析資料No.19。分析資料詳細観察表参照。
261	第166図 PL64-2	B区	排滓土坑1	砂鉄焼結塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	13.9	6.2	1.8	222	6	H(○)	13.5cmの長さをもつ横長の薄板状になった砂鉄焼結塊破片。左右の側部と下端面が破面になっており、裏面は炉壁からの剥離面である。下面の側部寄りには砂鉄粒子が区別でき、下方ほど還元が進んでマグネタイト化している。また、下端面に垂れが生じ、砂鉄の粒径は前者と同様で、比較的角度が鋭い砂鉄粒子が確認できる。
262	第166図 PL65-3	B区	排滓土坑1	工具附着滓	3.15	2.3	0.5	7	1	なし	上面上手側に径1.2cmを測る隅丸方形断面を残す工具附着滓破片。内面の工具附着滓側は薄皮状で、下面から下手側にくる薄い流動滓が広がっている。下面の表皮は炉壁粉や土砂の圧痕に覆われる。
263	第166図 PL65-3	B区	排滓土坑1	工具附着滓	4.1	2.45	0.5	13	1	なし	4mm程度の厚みをもつ工具附着滓破片。内面には径1.4cm以上を測る隅丸方形さみの縦・断面形をもつ工具痕が残されている。側部全局が破面で、外面下部は土砂の圧痕が残り約2mmの厚みをもつ。
264	第166図 PL65-3	B区	排滓土坑1	工具附着滓	4.7	2.6	0.8	17	1	なし	内面に径1.3cmを測る整った隅丸方形断面の工具痕を残す工具附着滓破片。側部4面のうち左上手側の2面ははっきりした破面になっており、右寄りの2面は破面が不明瞭となる。外面は土砂の圧痕により荒れており、微細な炉壁粉も固着する。
265	第166図 PL65-3	B区	排滓土坑1	工具附着滓 (含鉄)	3.15	2.4	1.15	11	1	錆化(△)	内面に径1.4cm大を測る工具痕を残す含鉄の工具附着滓小破片。側部4面が破面で、外面はイガイガした状態を示す。工具痕沿いの滓層は緻密で、外層にかけては微細な気孔が認められる。含鉄部は右側の外層で、突出した部分と推定される。微細な鋸形も存在する。炉内に工具を差し込んだ折に存在した鉄部に由来するものか。
266	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓	7.5	3.2	2.1	52	1	なし	左右の側部が破面になった扁平棒状をした流出孔滓破片。上面表皮は紫紅色が強く、流れ皺も目立つ。側部から下面はやや乱れた舟底状で、炉壁粉の圧痕に覆われる。
267	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓	7.1	2.5	2.2	64	1	なし	縦断面形が上下に長い丸みをもった流出孔滓破片。左右の側部がシャープな破面で、僅かに上面が平坦気味になる。上面表皮直下の気孔が肥大する。側部から下面は細い丸棒状で、灰色基調の炉壁粉が点々と固着する。
268	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓	11.4	3.8	2.9	100	1	なし	左右の側部がシャープな破面になった流出孔滓破片。左側部側3分の1は扁平な丸棒状で、右側は緩やかなS字状にうねっている。下面の木炭痕が強く、上面には流れ皺あり。右側の先端方向に障害物があるためか、滓がせき止められて流動方向を変えている。
269	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓	10.1	5.2	2.9	132	1	なし	左右の側部が破面になった細身の棒状をした流出孔滓破片。右方向に向かい流動して、上面には不規則な流れ皺が生じている。右上手側・肩部にも小破面あり。側部から下面は幅の狭い舟底状で、粉炭痕と炉壁粉の固着が認められる。破面の一部に気孔が肥大する。
270	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓	12.4	5.0	3.6	167	1	なし	右下方向に向かい幅を広げながら流れ下る流出孔滓または、流出孔～流出滓にかけての滓。側部には重層状態が確認され、上面には流れ皺が生じている。左側部と右側部下半の一部が破面になる。重層する上半部の滓先端部は広がった形で収束している。下面はやや乱れた舟底状で、粉炭痕と炉壁粉の固着が認められる。
271	第166図 PL66-1	B区	排滓土坑1	流出孔滓	10.7	5.7	4.4	374	1	なし	左右の側部2面と側部寄りの肩部が破面となった流出孔滓破片。太めの丸棒状で、上面にはゆつたりとした滓が流動する。また、表皮直下の気孔が肥大する。側部から下面は丸みをもった舟底状で、灰色基調の炉壁粉が密に固着する。滓質は緻密で結晶は発達さみ。
272	第166図 PL66-1	B区	排滓土坑1	流出孔滓	18.3	10.3	5.3	1189	3	なし	左側部3面と右下手側の側部が破面になった大振りの流出孔滓破片。左側部の破面は径4cm大前後の丸棒状で、少なくとも2単位が認められる。上面は小塊状の突出部が不規則に残る半流動状で、一部に別単位の滓を噛み込んでいる。側部から下面は幅広い舟底状で、褐色基調の炉壁粉の固着と流動滓破片の噛み込みが生じている。
273	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (工具痕付き)	7.0	5.0	2.0	67	1	なし	上面上手側に左右方向に伸びる径1.5cm大以上の工具痕を残す流出孔滓破片。左右の側部と上面上手側の一部が破面で、流出孔底に沿って流動している滓である。工具痕は3単位を数え、全て右から左方向へ伸びている。下面はやや荒れた状態で、細身の流動単位と炉壁粉の固着が認められる。工具附着滓に比べて、工具痕の表面がザラついている特徴をもつ。これは滓の流動性が低いためであろう。
274	第166図	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (工具痕付き)	14.6	7.4	4.4	612	1	なし	上面右側の肩部に突き刺したような工具痕を残す流出孔滓破片。左側部2面が破面で、右側部は何かの突き崩しにより折れた外観を示す。上面中央部を滓が盛り上がって流動し、短軸側の側部には先行する滓の端部が鱗状に突出する。側部から外面は丸みをもった舟底状で、灰色基調の炉壁土が点々と固着する。
275	第167図	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (工具痕付き)	10.5	11.9	5.9	714	2	なし	上面や側部に数多くの工具痕を残す流出孔滓破片。右上手側の側部が不規則な破面になっており、母体の滓はさらに大きかった可能性が高い。左側部下手側の工具痕は幅3.5cm以上の棒状で、上面に残る工具痕は幅1cm前後の細身の工具による。滓質は流動性が低く、表面には不規則な流動単位が目立っている。滓が突き崩されて、本来の角度が90度変わってしまった滓である。
276	第167図	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (工具痕付き)	13.6	9.8	6.7	1252	2	なし	左下側の側部に大きな破面を残す流出孔滓の先端部破片。右側部は斜め方向に収束しており、上部から次々と滓が垂れ落ちている。また、最上面には幅3.3cm程度の浅い棒状の工具痕が確認できる。左側部下手側の破面に露出する滓層は部分的に木炭痕を残す炉内滓層で、流動性の低さを窺わせる。下面は幅広い棒状で密に炉壁粉が固着する。
277	第167図 PL66-1	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (含鉄)	14.1	16.1	10.0	2464	6	H(○)	幅15cm弱を測る大型の流出孔滓破片。左側部は一旦欠けた後に上半部が表面のみ流動して、右側部上半から上面にかけては表層が欠け落ちている。下面は深い碗形で、右方向がせり上がる形になっている。その意味では特異な流出孔滓といえる。上面は流動気味で3単位以上に分かれている。下面上手寄りに含鉄部があり、周辺には錆色が滲む。

表40 製鉄関連遺物観察表(13)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
278	第167図 PL66-1	B区	排滓土坑1	流出孔滓 (工具痕付き・含鉄)	12.8	10.4	4.3	1131	4	錆化(△)	表面にイガイガ感の残る極めて流動性の低い流出孔滓破片。左側部が破面になっており、上面には3単位以上の工具痕が読み取れる。上面と同様、側部もイガイガした自然面で、微細な凹凸が広がっている。下面は丸みをもった浅い碗形で、灰褐色基調の炉壁粉が固着する。右下側部の側部下半に2cm大程度の含鉄部が突出する。突き崩された形の流出孔滓のようにもみえる。
279	第167図	B区	排滓土坑1	流出孔～溝滓 (工具痕付き・工具付着滓付き)	9.9	14.3	7.0	896	2	なし	左側部と右側部の一部が破面になった流出孔～溝滓破片。幅1cmほどの滓で、上面や右側部に乱雑な重層状態が残る。また、上面下手側と右側部上手側に工具痕とみられる浅い当たりが読み取れる。滓本来は左右方向に伸びていた可能性があり、工具により突き崩されたものと推定される。側部から下面は浅い舟底状で、上手側の側部下半に工具付着滓の破片が巻き込まれている。
280	第167図 PL66-2	B区	排滓土坑1	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	11.3	9.3	3.8	640	2	なし	左側部2面と下手側から右側部上半の一部が破面になった流出孔～溝滓破片。左側部からみると2単位以上の流出孔滓が横方向に接続した形で、上手側半分が側部から下面ではもとの流出孔滓の丸棒状を示している。右側部はやや不規則に途切れた自然面で、上面中央部には工具痕または、太い丸棒状の木炭痕が残されている。
281	第167図 PL66-2	B区	排滓土坑1	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	18.3	9.2	5.5	1387	2	なし	左側部に小破面が残り、右側部の欠け落ちた表面が溶化している流出孔～溝滓破片。左右逆の可能性もあり、滓単位の重層によりせり上がった形の滓で、上面右側には幅2.3cmほどの工具痕様の窪みが残っている。但し、気孔の可能性も残る。流動性の良好な場所とそうでない場所が共存する滓になっている。側部から下面は整った舟底状で、上半部を中心に流動単位が区別される。
282	第167図 PL66-2	B区	排滓土坑1	流出孔～溝滓	10.9	6.9	4.5	256	2	なし	右方向に向かい急激に幅広に変化する流出孔～溝滓破片。左右の側部が破面で、左半分は流動性が良く、右側は流動性に欠けている。左右で性質がかなり異なるため、別単位の滓片が流れてきた滓に合体した資料かもしれない。上面も左右で極端に異なる。側部から下面の表面には粉炭痕と炉壁土の圧痕が密。
283	第167図	B区	排滓土坑1	流出孔～溝滓	13.3	9.3	5.3	886	2	なし	分析資料No.20。分析資料詳細観察表参照。
284	第167図 PL67-1	B区	排滓土坑1	流出溝滓	12.1	7.9	4.4	578	1	なし	左右の側部がシャープな破面になった扁平棒状の流出溝滓破片。ゆったりと流動する流動性の良好な滓で、上面表面は平滑で光沢をもっている。破面の気孔は上下面沿いが肥大気味。側部から下面はやや折れ曲がった形の舟底状で、灰色基調の炉壁粉が固着している。
285	第167図 PL67-1	B区	排滓土坑1	流出溝滓	10.5	11.1	4.3	720	2	なし	左側部上手側と右側部全体がシャープな破面になった扁平で幅広の流出溝滓破片。上面にはやや向きのまちまちな流れ跡が強く、下面は灰色の炉壁粉が点々と固着する。滓質は緻密で、やや上半部に大きく肥大した気孔が認められる。前者を含めて本遺跡では量的に少ない流動性の良好な滓である。
286	第168図 PL67-1	B区	排滓土坑1	流出溝滓 (工具痕付き)	14.7	22.4	12.0	3172	3	なし	上下2枚がやや大きな隙間を挟んで重層した形の流出溝滓破片。右側部から下面は丸みをもって急激に立ち上がり、流動滓(たまり滓)の一種とも考えられる。上下の滓とも左側部の一部が破面になっている。また、上面の滓は水平角度にもズレが生じており、流出溝の先端部付近で次々とならんでくる滓に押し出されるような状態を示している。上面上手側の盛り上がった滓部も別単位の滓の疑いをもつ。右下側部が肩部は幅5.5cmほどの幅広い楕円状に窪んでおり、工具痕の可能性が高い。
287	第168図	B区	排滓土坑1	流出溝滓 (工具痕付き)	11.8	8.5	5.2	667	3	なし	左右の側部が可きちぎられたような形態の流出溝滓破片。流動性が低く、ザラザラした質感の部分や、二次的力加わってひび割れた部分も存在する。左右の肩部に合わせて3単位以上の工具痕を確認される。側部から下面は丸みをもった舟底状で、付着物が極めて少ない。工具により突き崩された滓の一片であろう。
288	第168図	B区	排滓土坑1	流出溝滓 (工具痕付き)	14.3	11.1	5.8	1140	4	なし	前者と同様、左側部の破面に工具痕が残る、やや幅広の流出溝滓破片。右側部中央部にも小破面あり。この部分は下面にかけて幅4cmほどの流出孔滓様に突出する。上面は木炭痕や滓の盛り上がりに加えて、木炭痕に接した砂鉄焼結塊状の部分が混在する形ながらも、全体的には平坦さみとなる。下半の滓の流動性が良いのに対して、上面に様々な流動性の低い滓部が乗った状態で流動しているものと推定される。側部から下面は幅広い舟底状。
289	第168図	B区	排滓土坑1	流出溝滓 (工具痕付き)	20.4	13.7	10.0	2110	3	なし	左側部下半が重層した滓の破面になっている流出溝滓の先端部側破片。左寄りの下手側の側部には3単位の工具痕が残されており、この部分から滓が突き崩された証拠を示す。右側の上面は上下2段の滓が重層して表面は平滑気味。右側部は収束状態で、上部からの垂れが伸びている。側部から下面は幅広い舟底状で、中央部に小単位の滓片が噛み込んでいる。下面からみると左右の中間部に段を生じており、僅かにずれた状態で固化したことが分かる。
290	第168図	B区	排滓土坑1	流出溝滓 (工具痕付き)	18.3	14.7	8.0	2824	4	なし	右側部下半から下手側に4単位以上の工具痕を残す幅広い流出溝滓破片。上面はやや不規則に流動する流動滓の重層状態で、左側部上半が不明瞭ながらも破面になっている。側部から下面は舟底状で、下手側がせり上がる。左逆逆の可能性もあり。工具により分割された流動滓の破片であろう。
291	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓	13.5	13.3	7.0	1609	3	なし	左右の側部が破面となり幅の狭まる形の炉底塊～流出孔滓破片。左側部は密度の高い滓部分で、残る側部3面は上下2段または、3段の重層状態が確認できる。上面は流動気味で、やや不方向に筋状や塊状の流動状態を示す。右側の破面の結晶が発達して光沢をもつ。炉底塊端部から流出孔間に向かい滓が流れ出ているものと推定される。
292	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓 (工具痕付き)	11.9	10.3	2.7	523	4	なし	上面に2単位以上の幅広い楕円状の工具痕を残す流出孔滓または、炉底塊破片。左右の側部が破面になっており、上手側の側部の一部も破面とみられる。流動性の低い滓で、側部から外面には木炭痕がやや目立つ。炉底塊の肩部に沿って工具が差し込まれた場合の滓の可能性あり。
293	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓 (工具痕付き)	14.5	9.0	4.7	837	3	なし	左下手側の側部がシャープな破面になった炉底塊～流出孔にかけての滓破片。右下側部の側部が斜めに途切れた自然面様で、上方からの工具の当たりにより突き崩されたような外観を示す。上面上手側には外周部との隙間が生じ、滓質がやや異なっている。上手側の側部から下面は炉底塊の側部の立ち上がりを見せる状態で、粉炭痕と炉床土様の粉末が固着する。
294	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓 (工具痕付き)	17.9	11.6	9.6	1886	3	なし	右寄りの上下面に3単位以上の工具痕を残す炉底塊～流出孔にかけての滓破片。左側部と上面下手側の側部がシャープな破面で、上手側の側部は折れたような外観になっている。また、左側部寄りの平、断面形状が炉底塊の長軸先端部寄りを見せる。右側部上半は流動状の滓表面が大きく窪んでおり、流出孔側に滓が流れ出した状況証拠もみられない。下面上手側は中空部を生じており、天井部からは強い滓の垂れが伸びている。
295	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓 (工具痕付き)	14.8	16.1	6.1	1735	3	なし	上面下手側を中心に4単位以上の強い工具痕が数えられる炉底塊～流出孔滓破片。全体観は幅広い楕円状で、左側部から下手側に破面が伸びている。炉底塊コーナー部に当たる滓部の可能性がある。工具痕は流出孔を通じた圧痕か。側部から下面は炉底塊特有の、粉炭痕と炉床土に覆われる部分と共存する。
296	第168図 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓 (工具痕付き)	13.5	15.4	8.2	2223	4	なし	左側部が主破面で、短軸側の側部にも小破面が伸びる炉底塊～流出孔滓破片。右側部はイガイガした状態の収束気味で、工具により突き崩されている可能性もあり。上面や側部に方向の一定しない工具痕がみられ、全体部の流動性がまちまちな印象を受ける。側部から下面は幅広い舟底状で、木炭痕と炉床土の圧痕からなっている。工具痕には2種類あり、左側部の工具痕は径1.3cm大の隅丸方形断面で、右側部に残る工具痕は幅3cmに近い丸棒状である。木の棒であろうか。

第3章 調査の成果

表41 製鉄関連遺物観察表(14)

構成番号	挿固PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
297	第169回 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓(工具痕付き)	18.0	13.6	8.1	2302	4	なし	上面右側から側部にかけて4単位以上の工具痕が残されている炉底塊～流出孔滓破片。左側部2面と上手右側が破面で、炉底塊コーナー部の可能性も残る。上面の中央部でマグネタイト系の滓部が確認され、青光りする破面が露出する。マグネタイト系の滓部は右側の肩部にも広がっており、通常、流出孔滓側では生じにくい滓である。下面は左右方向に長手の碗形で、炉床土が面的に固着する。工具痕は太い丸棒状。
298	第169回 PL68-1	B区	排滓土坑1	炉底塊～流出孔滓(コーナー部・含鉄)	16.6	15.4	6.2	1989	4	H(○)	左側部が主破面となった炉底塊～流出孔にかけての滓破片。炉底塊側の肩部と流出孔滓側の右側部も破面になっている。左側部で炉底塊が途切れているのは、下手側から差し込まれた工具によるためであろう。炉底塊の上面は流出孔滓側に向かい表層が流動して、浅い樋状に窪んでいる。流出孔滓は幅8.5cmほどの部分で、表面には瘤状の流動単位が不定方向に流れている。破面から見ると上と下で滓質が異なり、下半の流動性は低い。炉底塊側の下面2箇所に小範囲の含鉄部あり。
299	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(工具痕付き)	14.3	9.5	3.2	357	4	なし	上面3箇所にも明瞭な工具痕が残る炉底塊破片。側部は基本的に破面になっており、下面は炉壁粉が点在する状態で破面の可能性が大。滓質はイガイガしており流動性が低い。工具痕は下手側から差し込まれた細身の角棒状と、上手側の左右方向に伸びる太い丸棒状の両者あり。
300	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(重層・流出孔滓付き・炉内流動滓付き・工具痕混入滓付き)	13.5	17.0	8.0	2107	1	なし	左右の側部がシャープな破面となった炉底塊の長軸端部または流出孔滓破片。側部からみると上と下2層の滓が重層した形で、いずれも底面の中央部が丸棒状に突出した流出孔滓様になっている。上半部の滓の表面は明らかに流動しており、滓内部は気孔の少ない緻密な滓層となっているため資料的にはやや特異な状態を示す。
301	第169回 PL67-2	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・コーナー部)	17.7	26.5	9.2	5010	3	なし	左側部から下手側の側部にかけてが上下2段の滓層に分かれた大破面となった炉底塊の長軸端部破片。右側部の平面形が緩やかな弧状で、3cm大以下の滓片や肩部沿いを流動する2cm幅程度の流動単位が目立っている。上面に小塊状に盛り上がる滓部はマグネタイト系の滓になっており、通風孔部周辺で生成された可能性が高い。側部から下手側は浅い碗形で、粉炭痕や炉壁粉の圧痕に覆われる。左側部上半は滓層が欠け落ちて、下半の滓部の上面が緩やかな流動状に広がっている。
302	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	18.7	8.3	5.8	834	4	錆化(△)	側部全周が破面になった含鉄の炉底塊破片。上面は平坦気味で下面は浅い皿状となる。厚み方向は生きており、5.5cm程度を測る炉底塊破片である。下手側の側部は結晶が発達した滓部で、上手側は含鉄部が小範囲で生成された炉内滓様の部分となる。
303	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	14.8	10.7	6.8	906	5	錆化(△)	前者と同様、含鉄の炉底塊破片。厚みは前者と同様で、下手側の側部と左側部が破面になっている。炉底塊コーナー部破片の可能性があり、右側部下手側は流出孔滓様に端部が突出する。下面は浅い皿状で、右上手側に向かい緩やかにせり上がる。含鉄部は下面沿いでごく狭い。滓質は密度がやや低く、スポンジ状の滓部となっている。
304	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	13.3	11.9	5.8	1422	5	H(○)	左右の側部と上手側の側部がシャープな破面となった炉底塊肩部破片。上面はマグネタイトきみの炉内流動滓に広く覆われている。下面は下手側(せり上がる浅い舟底状で、炉底塊の長軸に沿った部分の特色を示している。滓質は緻密で芯部は青光りする。上手右側の側部中段下半に幅5cm×高さ1.3cmほどの突出部が残る。黒錆や磁着の程度から含鉄部と判断される。
305	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	16.1	17.8	6.9	2016	5	M(◎)	前者に似た上面観をもつ炉底塊コーナー部寄り破片。側部4面が大破面になっており、下面は右上手側(せり上がる浅い碗形)を示す。右側部下手側は人為的な欠けと判断される幅広い窪みになっている。上面と下面沿いにそれぞれ別単位の含鉄部があり錆色が滲む。前者と同一個体の炉底塊の可能性があり、部位違いかもしれない。
306	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(コーナー部・含鉄)	7.4	15.0	4.4	489	6	特L(☆)	厚さ4.3cmほどの薄手の炉底塊破片。左右の側部から下面が主破面で、上面は一段高いイガイガした含鉄部と、短軸肩部寄りの流動状の滓部に分かれる。下面は緩やかな波状で炉床土の圧痕あり。炉底塊コーナー部寄りの厚みの少ない部分と推定される。但し、含鉄部は下面中央沿いにやや広い。
307	第169回	B区	排滓土坑1	炉底塊(流出孔滓付き・コーナー部・含鉄)	6.5	15.0	6.0	996	3	特L(☆)	分析資料No.21。分析資料詳細観察表参照。
308	第170回 PL67-2	B区	排滓土坑1	炉底塊(含鉄)	16.2	16.2	4.1	1403	5	特L(☆)	左右の側部と短軸側の両側部の一部に加えて、上面の8割以上が破面となった炉底塊破片。下面は生きており、浅い皿状の表面には炉壁土または、炉床土が点々と固着する。炉底塊の底面に沿った厚さ3cmほどの滓部で、含鉄部が各所に点々と生じている。滓質は中小の気孔の残る典型的な炉内滓様。炉底塊の荒削り後に、上半部を削り取った資料と推定される。含鉄部の範囲や質を見極めるためであろう。
309	第170回	B区	排滓土坑1	炉底塊(コーナー部・含鉄)	19.8	18.0	4.8	1493	5	L(●)	右上手側の側部が大破面となった炉底塊コーナー部破片。厚さ6cmほどの炉底塊で、下面は外周部に向かい緩やかにせり上がる。上面は浅い木炭痕を残しながらも平坦気味で、左上手側の肩部にはマグネタイト系の滓部が僅かに確認される。右側の破面中核部には5.5cmの範囲に薄板状の黒鉛化木炭が顔を出している。上下面や左側部を中心に放射割れが生じて黒錆が滲む。含鉄部は芯部と推定されるが、大きくまとまった状態ではない。右下手側の側部と左側部下端には小破面あり。
310	第170回 PL67-2	B区	排滓土坑1	炉底塊(炉内流動滓付き・コーナー部・含鉄)	10.3	26.5	6.4	1699	5	特L(☆)	前者とは全く逆側の炉底塊コーナー部破片。割れ方も似ており、本資料の方は左下手側が大破面になっている。上面から右側部は生きており、上手側の側部下半には狭い破面が生じている。下面は浅い皿状で右下手側に乱れがあり、流出孔部の出口方向の可能性をもつ。芯部に含鉄部が推定されて黒錆や放射割れがみられるが、範囲はやや狭い。中心部は上手側中央の芯部。
311	第170回 PL67-2	B区	排滓土坑1	炉底塊(流出孔滓付き・含鉄)	19.6	12.0	8.3	1817	5	特L(☆)	左側部と下手側の側部の一部が破面となった炉底塊の長軸端部破片。上面上手側は磁着の強いマグネタイト系の滓部で、上手側は一段低い流動滓部分である。両者の間には3cm近い段が生じており、工具によるものと推定される変形が認められる。下面はごく浅い樋状で、右端部分がやや下方に向く。マグネタイト系の滓部は羽口先で生成されることが多く、その意味では上手側がやや広く欠けている可能性があらう。含鉄部はマグネタイト系の滓部直下で、芯部と推定される。黒錆も表面に浮き出している。
312	第170回	B区	排滓土坑1	炉内滓(含鉄)	3.9	3.4	2.7	44	3	L(●)	厚さ2.5cmほどの小塊状の含鉄の炉内滓破片。側部3面が破面の可能性をもっており、上面はやや平坦きみ。含鉄部は下半寄り、黒錆も滲み磁着も強い。
313	第170回	B区	排滓土坑1	炉内滓	5.2	5.2	3.2	87	3	L(●)	側部3面が破面になった含鉄の炉内滓破片。上面は平坦気味で、下面は3方が突出する。側部を中心に錆割れの欠けが目立ち、含鉄部と滓部が混在する。また、下面の突出部は芯部が含鉄部で、大きさは2.5cm大の小塊状となる。
314	第170回 PL68-2	B区	排滓土坑1	炉内滓	5.1	5.7	4.4	124	4	L(●)	厚さ3cmほどの含鉄の炉内滓破片。側部は破面の可能性が高いが、やや不明瞭。上面は平坦気味で、下面は浅い碗形を成す。右上手の側部はマグネタイト系の滓部に覆われた含鉄部が突出する。下端部にも径1cm大の含鉄部の突出が認められ、各所に小塊状の鉄部が含まれている可能性が高い。
315	第170回	B区	排滓土坑1	炉内滓(含鉄)	9.5	7.6	5.6	411	3	特L(☆)	分析資料No.22。分析資料詳細観察表参照。
316	第170回 PL65-1	B区	排滓土坑1	鉄塊系遺物(含鉄)	2.7	2.4	2.1	20	2	M(◎)	厚さ2cmほどの小塊状をした鉄塊系遺物。下手側の側部は破面になっており、残る側部表面が黒錆に覆われた状態を示す。芯部に含鉄部が予想されるが、錆化も進んでいる。
317	第170回 PL65-1	B区	排滓土坑1	鉄塊系遺物	2.3	3.3	1.4	15	2	L(●)	厚さ1cmほどの小塊状をした鉄塊系遺物。上面を中心に放射割れが発達し、肩部からは錆割れが数多く突出する。芯部は鉄部で占められており、表面には酸化土砂も固着する。
318	第170回 PL65-1	B区	排滓土坑1	鉄塊系遺物	3.4	3.0	2.1	28	3	L(●)	上面が平坦気味な小塊状となった鉄塊系遺物。側部から下面は破面の可能性をもっている。含鉄部は芯部から下半の部分で、黒錆が滲む。

表42 製鉄関連遺物観察表(15)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
319	第170図 PL65-1	B区	排滓土坑1	鉄塊系遺物(含鉄)	5.0	2.55	1.7	29	3	L(●)	厚さ2cmほどの横長の鉄塊系遺物。表面は酸化土砂に覆われており、下面に露出する表層には放射割れが進む。含鉄部は芯部に広いものと予想される。
320	第170図	B区	排滓土坑1	鉄塊系遺物(含鉄)	2.4	4.0	2.3	39	4	L(●)	分析資料No.23。分析資料詳細観察表参照。
321		B区	排滓土坑1	木炭	-	-	-	213	1	なし	排滓土坑1出土の一括木炭である。5.5cm大以下で、3mm大程度の資料まで含まれている。炭化の進んだしっかりした木炭片に混じって杉材や小枝の材と推定される軟質の木炭も含まれている。また、一部に木部を残す半焼けの炭化物も認められる。製鉄炉に伴う木炭は硬質の木炭で、一部に含鉄の黒鉛化木炭も共存するものと判断される。軟質材や半焼けの炭化材は、排滓土坑1と重複した上面の焼土に掛かわるたき火等に伴うものであろう。炭化の進んだ硬質材は1cm大以下の小片が多く、製鉄炉から掻き出されたり廃棄された木炭と推定される。
322		B区	排滓土坑1	黒鉛化木炭(含鉄)	-	-	-	59(65)	2	錆化(△)	前者と同様、排滓土坑1からの出土品のうち、含鉄の黒鉛化木炭のみを拾い集めた資料である。最大4.5cm大×3mm大程度の資料まで、様々な大きさのものを含んでいる。一部表面を滓に覆われる固体も含まれている。材はミカン割りされている薄板状の黒鉛化木炭が目立ち、一部、木炭のままや、焼損が進み片側のみ黒鉛化木炭が生成されている個体も認められる。本資料は炉内の還元空間で木炭組織中に鉄が置換した条件下で生成されるため、操業中や操業後に製鉄炉側から廃棄されたものであろう。
323	第170図 PL65-3	B区	排滓土坑1	黒鉛化木炭(含鉄)	3.6	2.8	1.0	8	3	L(●)	長さ3.3cm、厚さ1.4cmほどのミカン割りの痕跡を残す含鉄の黒鉛化木炭の単品である。菊割れが生じ、裏面側は黒鉛化が弱く木炭組織が顔を出している。木炭組織の残る部分は磁着が弱く、完全に鉄と置換した部分では強めとなる。
324	第170図	B区	排滓土坑1	黒鉛化木炭(含鉄)	3.6	1.8	1.6	30	3	L(●)	分析資料No.24。分析資料詳細観察表参照。
325		B区	粘土採掘坑1	粘土採掘坑粘土	-	-	-	-	1	なし	分析資料No.25。分析資料詳細観察表参照。
326	第170図	B区	粘土採掘坑1	流出孔滓	14.0	7.4	4.9	744	2	なし	左右の側部がシャープな破面になった流出孔滓または流出溝滓破片。上面は平坦気味にゆったりと流動しており、表皮直下の気孔が肥大する。側部から下面は重層の認められる細い舟底状で、表面には炉壁粉が点在する。滓質は緻密。
327	第170図	B区	粘土採掘坑1	流出溝滓	18.0	10.2	4.5	1245	3	なし	左側部が破面になった幅8.8cmほどの流出溝滓破片。右側部には別単位の滓片を巻き込んでおり、下手側は破面になっている。上面はゆったりとした流動状で、肩部側に小さな垂れも生じている。上面2箇所は窪みは、表皮直下の中空部による表皮の脱落部であろう。側部から下面は丸みをもった舟底状で、灰色から褐色の炉壁粉が密に固着する。
328	第171図	F区	道2	炉壁(補修・通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き)	10.0	11.8	6.9	468	2	なし	側部2面と外面が破面になった炉壁基部破片。右側部上半には径2.2cm以上を測る円孔状の通風孔部の痕跡が残されている。内面下半には補修部の基部が重層しており、表面は炉壁溶解物に覆われる。当初の炉壁基部側は水平に途切れて、上部から垂れ落ちてきた粘土質の滓や炉内流動滓が溜まっている。右側部では当初の壁と補修壁との間に1cm弱の隙間あり。
329	第171図	F区	道7	炉壁(補修)	6.5	7.9	4.6	161	2	なし	補修壁と推定される炉壁内面のガラス質の滓層が2枚重層する炉壁破片。側部から外面の全周が破面で、外面には僅かにスサ入りの練りの甘い粘土が露出する。
330	第171図	B区	道7	炉底塊(工具痕付き)	7.7	11.0	6.4	728	2	なし	左側部中段に明瞭な工具痕が残る。この部分から割れている炉底塊または流出孔滓破片。上面は右方向に流れ下る流動状で、下面は浅い舟底状となる。短軸側の両側部は生きており、やや流出孔滓的な要素が強い。左側部の工具痕は隅丸方形断面をもつ細身の棒状で、右上の肩部にも同じ工具による可能性の強い突き刺し痕あり。
331	第171図	B区	道7	炉底塊(含鉄・炉内流動滓付き・工具痕付き・コーナー部)	10.1	16.9	5.7	1380	4	錆化(△)	左右の側部の一部が破面になった炉底塊～流出孔滓破片。全体に幅広い種々の滓で、上面には1～2cm幅の流動滓が流れ下っている。炉底塊の長軸端部から連続する滓部分と推定され、滓質は緻密。下面は幅広い舟底状で、褐色基調の炉床土や炉壁粉が固着する。左側部下半が工具痕様に窪むため、左右逆の可能性もあり。
332	第171図	B区	道7	炉底塊(含鉄・炉内流動滓付き)	14.8	10.0	8.4	1668	3	錆化(△)	上面と下手側の側部が生きており、残る側部3面がシャープな大破面になった炉底塊破片。上手側の側部には、中間層に隙間がある緻密な滓層が露出する。本遺跡出土の炉底塊としては厚みのある資料で9cmを超えている。上面から下手側の側部にかけては傾斜が強く、細い棒状の流動滓が垂れ落ちており、下面は左右方向に長手の浅い碗形で、木炭痕や炉壁粉が固着する。含鉄部は右側部下端のごく小範囲。下面の状況から方向を決めているが、90度方向が異なる可能性もややあり。
333	第171図	B区14	道6	炉壁(通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き)	8.8	12.6	3.5	393	2	なし	左右の側部上半に通風孔部周辺の突出部を残す炉壁基部破片。左右の側部から上面、さらには外面全体が破面になっている。下端部には水平方向に途切れた基部が露出する。前傾のほとんど認められない炉壁破片で、内面は溶損して粘土質の溶解物が部分的に固着する。炉壁基部と通風孔部の距離は6.5cm程度と推定され、左右の通風孔部の芯々間隔は11cm前後を想定できる。
334	第171図	B区	道6	流出孔～溝滓	15.3	9.8	5.5	862	3	なし	幅3.5cmほどの流出孔滓側から、右方向に向かい急激に幅広となる流出溝滓破片。左右の側部が破面になっており、右側には滓が重層して下手側が大きく脱落する。滓質は緻密で、気孔は上下面沿いに発達する。下面は丸みをもった舟底状で、右側が2箇所突出気味となる。
335	第171図 PL65-2	B区	道6	流動滓	6.5	3.0	0.6	27	1	なし	右側部に小破面をもつ流動滓破片。5mm幅以下の細い流動滓が10本以上重層した資料で、先端部は丸みをもつ収束する。上下面ともに滓単位の隙間が筋状に露出する。大きさは異なるが、一般的な鳥の足状の流動滓にも似た要素あり。生成位置は炉内流動滓と同様の可能性があろう。
336	第171図	B区	道6	炉底塊(含鉄・再結合滓付き・炉内流動滓付き)	18.1	21.1	7.9	3328	3	錆化(△)	一見、再結合滓様の、厚さ7.5cmを超える炉底塊破片。下半部は炉底塊コーナー部の可能性あり。上面や肩部に別単位で性格の異なる滓が多数固着する。下半の炉底塊部分は右側部が主破面で、左側部にも小破面あり。但し、表面の酸化土砂に妨害されて不明点も多い。下面は幅広い舟底状で、左右方向に伸びている可能性あり。
337	第171図	B区	流土	炉壁(含鉄・砂鉄焼結付き・マグネタイト系滓付き)	4.4	7.7	2.4	84	3	H(○)	内面に厚さ2cmほどの砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓が残る含鉄の炉壁破片。側部全周と外面が破面で、平面形は僅かに弧状を示す。炉壁部分は裏面下半の部分で、マグネタイト系の滓部は背光りしている。上端部寄りの砂鉄焼結部は大半の粒子が膨らんでおり、0.3mm大を超える。
338	第171図	B区	近代炭焼窯	炉壁(含鉄・砂鉄焼結付き)	5.7	9.6	2.5	145	3	H(○)	前者と同様、砂鉄焼結部からマグネタイト系の滓部が固着した炉壁破片。側部から外面は破面で、外面には短いスサを混じえた練りの悪い粘土が露出する。砂鉄焼結部は炉壁表面からひび割れの内部まで食い込んでいる。内面下半はマグネタイト系の滓化が進み、微細な垂れが生じ始めている。また、僅かに含鉄部の生成が認められる。
339	第171図	B区14	流土	炉壁(通風孔周辺付き)	4.8	5.4	1.3	48	1	なし	右側部下半に通風孔部周辺の特徴を残す炉壁小破片。外面は山形に突出した薄皮状の炉壁部分で、通風孔部左上部側の炉壁表面となる。側部3面と通風孔部側面が破面になっている。通風孔部の先端部には上部から垂れた粘土質の垂れがフワラ状に伸びている。
340	第171図	B区14	流土	炉壁(流出孔滓付き)	12.7	11.0	7.6	712	1	なし	左右の側部が不規則な種状に溶損した炉壁破片。下面は炉壁基部と類似する状態で、炉壁内面から上部は粘土質の垂れや瘤状の突出部に覆われている。外面の一部に小破面あり。右側部下半は深さ5cm以上の範囲が溶損して中空化しており、上部からの粘土質の垂れも短いフワラ状に伸びている。周辺の色調が暗紫紅色で流出孔部周辺の可能性が疑われる。中空部の最大径は6cm強を測る。

第3章 調査の成果

表43 製鉄関連遺物観察表(16)

構成番号	挿図PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
341	第171図	B区	表土	炉壁 (通風孔周辺付き・基部接合痕付き・炉内流動滓付き)	6.4	12.3	9.3	636	2	なし	炉壁基部に厚さ4cmほどの炉内流動滓が貫入した炉壁破片。炉壁部分は前傾して完全に倒れ込み、渣上面に接している。また、炉壁部分の手前側の中央には通風孔部に似た酸化色が確認できる。左右の側面が破面になっており、下面は炉内流動滓に覆われている。奥側の炉内流動滓の左端部は構成No.61や235と似るが、直接の接合はしない。
342	第171図	B区 I4	流土	炉壁 (通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き)	10.0	8.9	3.3	268	1	なし	内面が溶損した炉壁基部破片。右上の肩部側が突出して一部に酸化色が残ることから、通風孔部周辺の疑いをもつ。下端部は炉壁基部になっており、炉壁内面から垂れ落ちた粘土質の滓が溜まっている。左右の側面から上端部に加えて外面が破面になる。胎土側のひび割れが目立つ。
343	第171図	B区	表土	炉壁 (通風孔周辺付き・基部接合痕付き・滓付き)	8.8	15.2	5.2	536	1	なし	左右の側面上半に通風孔部周辺と推定される突出部が残されている炉壁基部破片。右側部と上端部に加えて、外面全体が破面になる。水平方向に途切れた炉壁基部直下には炉内流動滓が貫入している。炉壁内面は強く溶損して、ややマグネタイト系の滓化が進む。裏面からみると通風孔部と推定される突出部の下部がやや弱い被熱状態を示す褐色の被熱色となる。
344	第171図	B区	表土	炉壁 (基部接合痕付き・滓付き)	8.3	10.0	5.2	338	1	なし	はっきりとした通風孔部を確認することができない炉壁基部破片。左右の側面から上端部に加えて、外面全体が破面になる。炉壁基部から内面にかけては上部から垂れ落ちた粘土質の滓が溜まって、1cmほど炉壁基部が浮く形になる。本資料も炉壁基部側の被熱が弱めである。
345	第172図 PL63-1	B区	I4 流土	炉壁 (基部接合痕付き・滓付き)	11.9	17.4	8.0	1348	3	なし	内面が激しく滓化・溶損して、粘土質の垂れが大きく突出する形の炉壁基部破片。左右の側面と外面の一部が破面で、ひび割れから貫入した滓が裏面の中央部にも顔を出している。左側部上方には通風孔部の疑いをもつ突出部が認められるが、被熱色が弱いのでやや不明瞭。通風孔部とすれば、基部から約6.5cm上方に位置している。右側部に工具の先端部痕が僅かに確認される。
346	第172図	B区	流土	炉壁 (通風孔周辺付き・基部接合痕付き・炉内流動滓付き)	10.7	11.4	8.3	495	3	なし	右上の肩部に通風孔部周辺を示す突出部が残る炉壁基部破片。左右の側面から外面の上半部は破面になっており、炉壁基部には粘土質の滓が貫入して炉壁部分全体が3cmほど浮き上がってしまっている。炉壁内面は溶損が進み、全体が紫紅色のガラス質滓に覆われている。炉壁基部に貫入した滓は炉壁より外側に向かい幅6cm以上も広がっている。炉壁基部と通風孔部との距離は7cm前後を測り、上部の前傾が進む。
347	第172図	B区	表土	炉壁 (補修・マグネタイト系滓付き)	15.1	10.0	4.6	562	4	なし	内面に3枚ないし4枚の補修面が重層した炉壁破片。側面から外面は全面破面で、外面寄りには短いササを混じえた炉壁土が露出する。最終補修面の内面状態は面的な滓化が進み、上方からの垂れも確認できる。下端部には垂れがさらに強くなり、表皮の色調も暗紫紅色化する。補修痕としては本遺跡で最も枚数の多い資料の一つである。
348	第172図	B区	表土	炉壁 (補修・通風孔周辺付き・マグネタイト系滓付き)	12.8	13.0	4.0	460	3	なし	2枚の補修面が確認できる炉壁破片。平面図は逆方向を向く弧状で、下端部方向が通風孔部の上端周辺と推定される。側面から外面は全面破面で、練りの甘いひび割れの目立つ胎土が露出する。内面の滓化状態は小さな瘤状となるマグネタイト系の滓部が点々と生成している。
349	第172図 PL64-2	B区	表土	砂鉄焼塊 (含鉄)	5.0	4.25	1.6	42	3	錆化(△)	側部の全周が破面になった厚さ1.5cmほどの砂鉄焼塊破片。外面は炉壁表面からの剥離面で、全体の滓化が進んでいる。縦・断面形からすれば上下逆の可能性も残る。左下の表層には含鉄部が予想される。
350	第172図 PL64-2	B区	表土	砂鉄焼塊 (含鉄)	4.2	3.8	2.1	47	4	錆化(△)	側部3面が破面になった厚さ1.8cmほどの砂鉄焼塊破片。全体に砂鉄の焼結が進んでおり、内面下半部には微細な垂れが生じ始めている。外面上半部は破面になり、下端部に炉壁表面からの剥離面を残す。含鉄部は内面下端部寄りにごく僅か。
351	第172図 PL64-2	B区	表土	砂鉄焼塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	5.75	4.2	2.6	70	3	錆化(△)	表面全体がマグネタイト系の滓化が進む砂鉄焼塊破片。側面から外面の外周部は破面で、外面中央部が炉壁表面からの剥離面になる。裏面上手側の砂鉄焼結部は各粒子が区別でき、0.18mm大～0.3mm大程度のやや角ばった砂鉄が母材になっていることが分かる。
352	第172図 PL64-2	B区	近代 炭焼窯	砂鉄焼塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	5.9	5.8	1.65	91	5	錆化(△)	表層がマグネタイト化して僅かに含鉄部が生じている砂鉄焼塊破片。側部は全周が破面で、外面は炉壁表面からの広い平坦面になる。内面右側には垂れも生じて下半部ほど磁着が強い。
353	第172図 PL64-2	B区	表土	砂鉄焼塊 (マグネタイト系滓付き・含鉄)	5.0	6.3	2.8	109	5	錆化(△)	3cm程度の厚みに発達した砂鉄焼塊破片。側部は基本的に破面で、外面は炉壁表面からの剥離面になる。右側部上半からみると、炉壁沿いの1cmほどの厚み部分がマグネタイト系の滓化が進み、その上層に各砂鉄粒子が区別できる砂鉄焼結部分が形成されていることが分かる。中間層には微細な含鉄部あり。短軸側側部の平面形が僅かに弧状となることから、炉壁コーナー部の上段下半付近で生成か。
354	第172図 PL65-3	B区	近代 炭焼窯	工具付着滓	3.45	2.35	0.8	13	1	なし	側部4面が破面になった厚さ7mmほどの工具付着滓破片。内面には径1.6cm以上を測る丸棒状の工具痕が残されている。工具痕の内面は光沢をもち、滓の外面は土砂の圧痕様。
355	第172図 PL65-3	B区	I4 流土	工具付着滓	6.4	2.85	1.0	33	1	なし	長さ6.2cmを超える工具付着滓破片。側部は全周が破面で、内面には径1.6cmほどの円形断面をもつ工具痕が残されている。なお、工具痕は左側の端部がへ字状に折れ曲がっており、工具先の形態を推定できる。滓は外層と内層に分かれて、厚さ2mm程度の部分が平滑な内層表面で、部位により外層が2重に重なっている部分も観察される。特に左側の工具痕先端部様の部分の外面は滓の重層状態が目立ち、表面は土砂の圧痕と炉壁粉の固着部分に覆われている。
356	第172図	B区	表土	流出孔滓	15.9	5.4	2.7	313	1	なし	左右の側面がシャープな破面になった長さ16cmを測る流出孔滓破片。上面は僅かに盛り上がり、下面は流出孔底に貼り付いている。破面にはやや気孔が認められ、側面から下面は丸みをもった細い舟底状となる。
357	第172図	B区	遺構外	流出孔滓	13.8	6.7	3.7	470	1	なし	左右の側面がシャープな破面になった流出孔滓破片。左側部の下端には同じような断面形をもつ流出孔滓破片が完全に一体化している。上半部の滓の流動状態は緩やかで、短軸側の側面に沿って幅1.5cmほどの別単位の滓が重層する。また、左方向では上面が膨らみ気味なのに対して、右側では平坦化して横方向に広がる。流れ緩も僅かに生じて表皮は暗紫紅色気味。側面から下面は丸みをもった舟底状で、中央部に表皮の剥落部分が広い。
358	第172図	B区	表土	流出孔滓	15.4	7.3	3.8	608	1	なし	左右の側面がシャープな破面になった流出孔滓破片。上面はイガイガした流動状で、微細な木炭痕や炉壁粉の圧痕に覆われている。また、流れ緩も僅かにあり、側面から外面は幅の狭い舟底状で、炉壁粉の圧痕が広がる。破面にはやや気孔あり。
359	第172図	B区	I4 流土	流出孔滓 (含鉄)	17.5	10.8	5.2	1156	3	H(○)	左側部が扁平棒状で、引きちぎられたような外観を示す流出孔滓破片。上面は不定形塊状の凹凸や木炭痕様の窪みが連続する平坦面で、右側部は破面の表皮が滓化したような外観を示す。側面から下面は丸みをもった舟底状で、左寄りには亀裂が生じている。この亀裂部分は上面の滓の変形部分ともほぼ一致する。下面右沿いに粉炭を含む炉内滓様の部分が残る、磁着反応が強い。
360	第172図	B区	表土	流出孔～溝滓	14.9	6.2	2.2	246	2	なし	緩やかな弧状の平坦面をもつ流出孔～流出溝滓破片。左右の側面が破面で、平坦気味な上面の流れ緩が目立つ。側面から下面はやや平らな底面から側部が急角度で立ち上がる。下手側の側面中段には滓の重層を示す低い段が生じている。
361	第172図 PL66-2	B区	近代 炭焼窯	流出孔～溝滓	16.3	13.5	5.4	614	2	なし	右側の先端部に別単位の滓が直角方向に結合する流出孔～流出溝滓の破片。左側部が小破面で、右側部の別単位の滓側面には破面と自然面が共存する。先行する滓の下層に左方向から流れてきた滓が一体化した資料である。左側の滓は左端部が径2.5cmほどの扁平棒状で、右方向に向かい幅を広げながら流動している。右側の別単位の滓は幅広い流出溝滓の肩部片とみられる。

表44 製鉄関連遺物観察表(17)

構成番号	挿図 PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値 (cm)			重量 (g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
362	第172図 PL66-2	B区	I4 流土	流出孔～溝滓 (工具痕付き?)	16.2	9.5	5.8	996	1	なし	左右方向で滓質の異なる外観を示す流出孔～流出溝滓破片。左側の滓は流動性が良好で、側部2面が破面になっている。上面は平滑な流動状で、右側3分の2の滓は幅8cmほどの流出孔滓様で流動性に欠ける。また、上面の滓の接点とは段差をもち、右端部が変形した状態で収束する。上面は半流動状で、下面はザラついた滓表面を示す。工具痕とみられる窪みが2箇所あり、引きちぎられた流出孔滓に後から別の滓が流れ出してきて一体化したものである。
363	第173図	B区	近代炭焼窯	流出孔～溝滓	18.2	9.9	6.2	1089	1	なし	左側部が破面で、右側部が急激に収束する形の流出孔～流出溝滓破片。上面左側の表皮が脱落して、下層の5.5cm幅程度の流動部分が露出する。右側の上面は不規則に盛り上がり、先行する別単位の滓破片を巻き込んでいる状態とみられる。側部から下面は流出孔～流出溝滓にかけての境をよく示した状態で、滓表面には炉壁粉が固着する。
364	第173図	B区	I4 流土	流出孔～溝滓	19.3	9.4	4.6	1124	1	なし	左右の側部が破面になったやや扁平な流出孔～流出溝滓破片。上面は流動状で、流れ緩や肥大した気孔による表皮の脱落孔に加えて、別単位の滓片を巻き込んでいる。色調は黒褐色～暗紫紅色を示す。右側の側面では表皮直下に特大の気孔が顔を出す。側部から下面は細身の舟底状から平底状に変化して、流動単位の隙間や粉炭痕が目立つ。
365	第173図	B区	I4 流土	流出孔～溝滓	14.5	11.4	5.9	1304	4	なし	前者と連続するような流出孔～流出溝滓破片。左右の側部が破面で、右方向に向かいより幅を広げている。上下で滓質が異なっており、イガイガした表面をもつ幅広い桶状の流出溝滓状に、新たな流動性の良い滓が重層して中央部が陥没する。側部から下面は舟底状で、粉炭や炉壁粉に加えて滓片の巻き込みが認められる。
366	第173図 PL66-2	B区	I4 流土	流出孔～溝滓	12.1	19.0	7.6	1463	3	なし	左右の側部と上手側の側部の一部が破面になった流出孔～流出溝滓破片。主体は流出孔滓側で、上面全体に流動性が広がっている。表皮直下の気孔の肥大部分と側部沿いには別単位の滓が認められる。上手側からみると滓は上中下の3段の重層状態を示し、最下面には別単位の流動破片と工具附着滓を噛み込んでいる。下手側の側部は表皮が脱落して、内部の木炭痕や気孔が露出する。
367	第173図	B区 I4	流土	流出孔～溝滓	16.1	12.8	9.8	1956	2	なし	別単位の滓が重層した流出孔～流出溝滓または流出溝滓破片。上下のみならず下手側の側部にも別単位の滓片が一体化しており、部位により滓質も異なる。滓単位でみれば、少なくとも単位の単位で数えられる。破面は左右方向の側部の一部や下手側の側部に認められる。また、滓の重層時に右手側の側部ではもとの滓が分解してしまっている。
368	第173図	B区 I4	流土	流出孔～溝滓	17.1	14.5	12.5	3545	1	なし	右側部が収束する流出孔～流出溝滓にかけての大型破片。上下面に先行する滓片を巻き込んでおり、滓の変形が進む。流出孔の出口付近に溜まった先行する滓片の隙間に向かって新たな滓が流れ下ってきた状態を示すものとみられる。左側部を中心に、少なくとも4単位の滓破面が露出する。
369	第173図	B区	表土	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	12.4	9.6	4.6	490	1	なし	右側部に径2cm大の丸棒状の工具痕を残す流出孔～流出溝滓破片。上面はやや平坦気味、木炭痕や流れ緩が残されている。下手側の側部には滓単位の段が生じており、右方向からの工具痕により表面が陥没している可能性が高い。流出孔中で詰まっていた滓を取り除こうとした痕跡か。
370	第173図	B区 I4	流土	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	9.7	9.8	3.6	418	1	なし	下面に3単位以上の強い工具痕を残す流出孔～流出溝滓破片。側部4面が破面で、上面は緩やかな流動状の盛り上がり連続する。工具による圧縮により、水平方向のスレも生じている。流出孔中に充滿した滓を取り除こうとした痕跡か。工具痕は斜め上方から順次、水平方向に向きを変えている。
371	第173図 PL66-2	B区	近代炭焼窯	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	14.3	12.2	8.0	1720	2	なし	左右の側部下が破面になった流出孔～流出溝滓破片。右側部は収束きみで、下手側の側部には斜め上方からの突き刺したような工具痕が残る。滓質の異なる滓が順次重層した形で、流出孔の出口付近で生成を予想できる。左半分が流出孔中で、右半分は流出溝側に顔を出している可能性が高い。下面には灰褐色基調の炉壁土が面的に固着する。
372	第173図	B区	近代炭焼窯	流出孔～溝滓 (工具痕付き)	14.5	10.7	7.9	1294	3	H(O)	右側部下に4単位以上の工具痕が残る流出孔～流出溝滓破片。左側部中段に小破面が確認され、収束気味の右側部は工具痕から引きちぎられた形となる。平断面図が右方向に広がる形で、流出孔の出口付近に顔を出した滓を取り除こうとしている可能性が高い。側部から下面は左右の中間部に段を生じた丸みをもった舟底状で、流出孔側と流出溝側の段差を反映したものと判断される。滓質は部位により異なるが、流動性が良いのは上皮側の一部のみで、下半は流動性が低い。
373	第173図 PL67-1	B区	表土	流出溝滓	13.8	7.2	3.4	509	2	なし	左側部が破面になった、2cm幅程度の流動単位が重層する流出溝滓破片。先行する滓単位の上に次々と流動性の良い滓が乗っかってきている状態を示す。側部から下面は丸みをもった舟底状で、僅かに滓単位の隙間も確認できる。
374	第173図 PL67-1	B区	表土	流出溝滓	17.3	12.7	5.0	1044	1	なし	左側部がシャープな破面になった流出溝滓の先端部破片。中央部を右方向に流動する滓単位と、短軸側の側部に沿って流動する滓が重層して一体化した状態を示す。上面はゆったりとした流動状で、側部から下面は表皮が流れてやや凹凸が激しい。破面の気孔は流動しつつガスが抜けているためやや歪んでいる。
375	第173図 PL67-1	B区	表土	流出溝滓 (工具痕付き?)	18.8	12.4	5.0	1406	1	なし	幅12cmほどを測る幅広い流出溝滓破片。上面は不定方向に向く流動単位が広がっており、左側部は工具により折り取られたようなイガイガした質感を示す。下側部は滓部の欠けと上部からのツラツラ状の垂れが共存する。右側部はシャープな破面で、上半部の気孔が横方向に肥大する。側部から下面は幅広い舟底状で、一部が粉炭痕と広い炉壁粉の固着に覆われる。左側の肩部に工具痕らしき当たりが残る。
376	第174図 PL67-1	B区 I4	流土	流出溝滓	25.4	16.0	12.2	5120	3	なし	上下方向に重層した流出溝滓または、流出孔～流出溝滓破片。左側部から上面左側にかけては上下2段の滓が重層して、端部が不規則な破面になる。上面右側から右側部下端にかけては収束気味の滓表面が、やはり2段に残されている。側部から下面は角度の異なる流動方向が明瞭で、深く丸みをもった舟底状の形態の中間部やや右手に段を生じている。表面に粉炭痕と炉壁土の圧痕が目立つ。
377	第174図	B区 I4	流土	流出溝滓	32.8	19.1	9.0	5230	2	なし	複数の流出溝滓が上下方向に重層して形成された大型の流出溝滓破片。左右の側部の一部が破面で、幅広い流出溝滓中で固化した滓の上に人為的に破片化した別単位の流出溝滓が乗せられたものか。左側部下は不自然な欠けの状態を示し、流出溝滓から滓を取り除いた折の破面の可能性が高い。上下の流出溝滓の幅や表面の色調を基準すると、上面に重層する滓部は、より流出孔側の滓ではないかと予想できる。側部や下面は乱れた舟底状で、別の滓の小破片を噛み込んでいる。
378	第174図	B区	表土	流出溝滓 (工具痕付き)	14.0	18.4	5.6	1751	3	なし	左右の側部が破面になった幅13.5cmほどの流出溝滓破片。上面は浅い桶状で、半流動状の滓に覆われており、径2.2cm前後の丸棒状の工具痕が確認できる。左側部は引きちぎられたような破面で、おそろい工具による変形であろう。右側部側は徐々に収束する形ながら途中で折れている。側部から下面は舟底状で、右側の部分が一段低くなる。
379	第174図 PL67-1	B区 I4	流土	流出溝滓 (工具痕付き)	25.7	13.8	8.0	3072	2	なし	左右の側部が引きちぎられたような外観を示す大型の流出溝滓破片。3cm幅程度の流動滓が重層した状態で固化している。右側部上半には複数箇所の工具痕が残り、ザラザラした破面やひび割れが認められる。上面下手寄りの工具痕は径2.5cm前後の丸棒状の先端部圧痕で、左方向に向かい5cmほどが喰い込んでいる。上手右側の側部にも工具痕あり。側部から下面は流動単位や工具痕により上手側が変形した舟底状で、木炭痕や炉壁粉の圧痕に覆われている。
380	第174図	B区 I4	流土	流出溝滓 (工具痕付き)	26.7	16.2	6.4	3250	3	なし	前者と同様、左右の側部が引きちぎられたような形態になる幅広い流出溝滓破片。左側部は滓単位が重層しており、流動方向が30度ほどずれている。上面は流動状で、ゆったりと流動している様子を示す。右側部一部に工具痕が残り、この工具痕により滓を取り除いている可能性が高い。側部から下面にはひび割れや表面の脱落部が認められるが、全体には舟底状を示す。

第3章 調査の成果

表45 製鉄関連遺物観察表(18)

構成番号	挿入PL	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	磁着度	メタル度	備考
					長さ	幅	厚さ				
381	第174図	B区	表土	流出溝滓(含鉄)	17.0	13.5	7.4	2585	4	H(○)	左右の側部から上面にかけてが破面になった含鉄の流出溝滓破片。右側部は収束気味で、やや流出孔滓的な要素もあり。滓質は密度が高く、上下面沿いの気孔が肥大傾向をもつ。側部から下面は丸みをもった舟底状で、別単位の滓片を複数巻き込んでいる。下面沿いに含鉄部が2箇所以上認められる。
382	第174図	B区	表土	流出溝滓(含鉄)	24.0	15.4	8.3	3636	2	H(○)	左右の側部と短軸側の肩部に小破面を残す幅広の流出溝滓破片。平面形は緩やかな弧状で、舟底状の側部から下面には別単位の滓の噛み込みと流出溝滓の先端部が波状に伸びている。含鉄部は下面左側の表層か。
383	第175図 PL68-1	B区	表土	炉底塊～流出孔滓(含鉄)	21.4	23.9	11.9	6170	3	H(○)	左右方向で幅や表面状態が異なる炉底塊端部から流出孔滓破片。左側は炉底塊の長軸端部と推定され、幅広く厚みも11cm弱を測る。それに対して、右側に伸びる滓部分は炉底塊から一旦狭まった上で、さらに右方向に向かい細くなっていく傾向を示す。滓質も炉底塊側の密度が高いのに対して流出孔滓側は密度が低く、上面には流動状の滓が生じている。側部から下面は丸みをもった舟の軸先状で、流出孔滓は丸みが右下がりになる。下面の質感は炉底塊特有の面を成す緻密な滓層で、右側の端部では木炭痕が読み取れる。含鉄部は左側部側の芯部で、炉底塊の一部である。
384	第175図	B区	表土	炉底塊(コーナー部・含鉄)	12.3	24.4	5.0	1115	3	H(○)	左側部が主破面になった炉底塊コーナー部または、長軸端部破片。右側部が流動状の滓に覆われた形で収束しており、短軸方向の断面形は浅いU字状になっている。上面表皮のみが流動状で、短軸は中小の気孔が並ぶ炉内滓様となる。下面はやや乱れており、灰褐色基調の炉床土が各所に残る。含鉄部は上面寄りの表面直下に複数箇所が残る。
385	第175図 B区14	流土	炉底塊(流出孔滓付き・炉内流動滓付き・含鉄)	20.5	17.6	7.1	2904	5	L(●)	左側部から下手側の側部の一部が破面になった炉底塊コーナー部寄り破片。右側部下手側の一部が流出孔滓様に突出し、イガイガした破面になっている。上面から上手側の側部が生きており、炉壁長軸側に沿った部分と推定される。上面左上側部を中心にマグネタイト系の滓部が瘤状に盛り上がり、それ以外の上面は流動単位の不規則な流動滓に覆われる。炉底塊としての厚みは7cm程度で、主体はやや下半部分である。右側部側の芯部に含鉄部がやや広く存在するため、酸化土砂に錆色が滲む。側部から下面は幅広い舟底状で、表皮の剥落部分以外は炉床土の圧痕に覆われる。	
386	第175図	B区	表土	炉底塊(炉内流動滓付き・含鉄)	16.9	10.4	7.6	1227	4	特L(☆)	側部4面と上面表皮の一部が破面になった厚さ7.5cmほどの炉底塊破片。炉底塊長軸側の肩部破片とみられ、上面は上手側に向かい小高くなっている。含鉄部は上面上手側の表皮直下と上手側の破面の中段以下で、黒錆が滲み放射割れも生じ始めている。下面は緩やかな波状。
387	第175図	B区	表土	炉底塊(マグネタイト系滓付き・炉内流動滓付き・コーナー部・含鉄)	14.5	12.5	7.3	1306	5	特L(☆)	下手側の側部が主破面になった炉底塊コーナー部または、流出孔滓破片。残る側部から下面にも小破面が伸びている。上面と左上側部には微かな工具痕あり。含鉄部が芯部に推定され、大きな放射割れや広い黒錆の滲みが認められる。下面は浅い碗形を示す。左下手側の側部中段には明らかに滓質の異なる流動滓破片が喰い込むように残されているが、二次的な面着であろう。滓質が部位により異なっている炉底塊破片である。
388	第175図 B区14	流土	炉底塊(工具痕付き・コーナー部・含鉄)	14.3	18.0	7.6	1847	4	特L(☆)	上面に3cm大から1cm大程度の含鉄部が数多く突出した炉底塊コーナー部破片。右側部中央が生きているのみで、残る側部は連続的な小破面に囲まれている。下手左側に大きく窪んだ工具痕様の部分あり。また、下面の右上側部にも明瞭な工具痕が残されている。含鉄部が本例のように上面にむき出しで突出する例はまれで、炉内で上部から還元されながら下ってきた鉄部が炉底塊に乗った場合と、生成された鉄部を覆っていた滓が先に抜け出てしまった鉄部が露出したかのどちらかであろう。表面の各所に錆跡が目立ち、メタル度特L(☆)ではあるが錆化も進んでいる。側部から下面は幅広い桶状で、下手側の側部には工具痕流入滓様の突出部あり。	
389	第175図 PL68-2	B区	表土	炉内滓(マグネタイト系滓付き・含鉄)	6.7	4.8	2.6	101	5	L(●)	側部全周が破面になった含鉄の炉内滓破片。上部右側は僅かに垂れており、下面は炉壁表面からの剥離面様。磁着も強く、マグネタイト系の滓部も共存する。
390	第175図	B区	表土	炉内滓(含鉄)	3.7	4.9	4.5	69	5	錆化(△)	側部全周が破面になった炉内滓破片。側部を中心に小さな錆跡が目立ち、上下面は半流動状の滓に覆われている。含鉄部は芯部と外周部の突出部とみられる。
391	第175図 PL68-2	B区	近代炭焼窯	炉内滓(含鉄)	6.0	5.1	4.2	123	5	錆化(△)	構成No.389と似た裏面が炉壁表面からの剥離面になった含鉄の炉内滓破片。側部は連続的な小破面で、上面では滓が垂れ始めている。下手側の突出部はマグネタイト系の滓部になっている。含鉄部は裏面寄りの芯部か。
392	第175図 B区14	流土	炉内滓(含鉄)	5.3	5.7	2.8	52	4	L(●)	微細な錆跡や黒錆の滲みが目立つ含鉄の炉内滓破片。側部は破面の可能性をもち、裏面は剥離面様となる。芯部はほぼ全体が含鉄部で、端部からは錆跡も発達する。	
393	第175図	B区	表土	炉内滓(含鉄)	5.6	3.2	2.6	61	5	L(●)	側部4面が破面になった含鉄の炉内滓破片。破面には錆跡と黒錆の滲みが認められる。上面は波状の自然面で、下面は剥離面様になっている。含鉄部は芯部に広い。
394	第175図	B区	表土	鉄塊系遺物(含鉄)	3.8	2.5	1.7	22	5	M(◎)	下面が剥離面になった扁平塊状の鉄塊系遺物。左上側部の側部を中心に破面が確認され、砂鉄塊結部由来の鉄塊系遺物と推定される。やや密度が低く、微細な気孔が破面には露出する。
395	第175図 B区13	流土	鉄塊系遺物(含鉄)	3.3	2.1	2.6	24	4	L(●)	錆跡や薄皮状の表皮に覆われた鉄塊系遺物。左右の側部は破面で、芯部はほぼ全体が含鉄部になる。炉壁表面で生成された鉄部の可能性大。	
396	第175図	B区	表土	鉄塊系遺物(含鉄)	3.8	2.8	1.3	28	4	L(●)	側部3面が破面になった小塊状の鉄塊系遺物。下面は中央部が窪んだ木炭痕様で、上面は緩やかに盛り上がる。芯部からは黒錆と放射割れが生じている。
397	第175図	B区	表土	鉄塊系遺物(含鉄)	4.3	3.1	2.5	59	3	L(●)	分析資料No.26。分析資料詳細観察表参照。
398	第175図	B区14	流土	鉄塊系遺物(含鉄)	5.7	3.7	2.0	64	3	L(●)	分析資料No.27。分析資料詳細観察表参照。
399	第175図 PL65-3	B区	表土	黒鉛化木炭(含鉄)	3.4	2.0	1.4	8	2	M(◎)	下面と右下手側の側部2面が薄皮状の滓部に覆われた黒鉛化木炭の小破片。上面の一部は新しい破面で、鉛色で光沢のある黒鉛化木炭の破面が露出する。縦ミカン割りされた材の表面には菊割れが認められる。磁着は弱めで錆化も進んでいる。
400	第175図 B区14	流土	鉄製品(鍛造品・棒状不明)	1.2	4.1	1.3	9	2	錆化(△)	分析資料No.28。分析資料詳細観察表参照。	

竪穴建物4出土鉄製品観察表

構成番号	挿入PL	取上番号	地区	出土遺構層位	遺物名	計測値(cm)			重量(g)	メタル度	備考
						長さ	幅	厚さ			
F1	第109図 PL59.5・6	2106	G区	竪穴建物4床面直上	鉄製品(鍛造品)	2.8	1.0	0.12	1.2	錆化(△)	鉋の刃部様破片。上端部が破面となる。
F2	第109図 PL59.5・6	2107	G区	竪穴建物4床面直上	鉄製品(鍛造品)	2.5	2.0	0.2	1.52	錆化(△)	薄板状で、無さ銹の可能性大。平面形は五角形を呈するか。
F3	第109図 PL59.5・6	2108	G区	竪穴建物4床面直上	鉄製品(鍛造品)	3.0	1.2	0.1	2.49	錆化(△)	鉋の刃部様破片。薄板状で、横断面形がやや反っている。
F4	第109図 PL59.5・6	2109	G区	竪穴建物4床面直上	鉄製品(鍛造品)	5.8	0.7	0.25	4.6	錆化(△)	棒状品で、両端部が破面となる。横断面形は長方形を呈するが、左側部がやや刃部様に厚みを減している。
F5	第109図 PL59.5・6	2113	G区	竪穴建物4P3	鉄製品(鍛造品)	2.0	0.65	0.2	1.05	錆化(△)	棒状品。横断面形は長方形を呈する。
F6	第109図 PL59.5・6	2123	G区	竪穴建物4P4	鉄製品(鍛造品)	4.9	1.9	0.9	14.81	錆化(△)	厚板状の鉄製品破片。上下の端部は破面となる可能性大。